延岡市文化財調査報告書 第36集

上崎地区遺跡

かみざき

県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

2008年3月

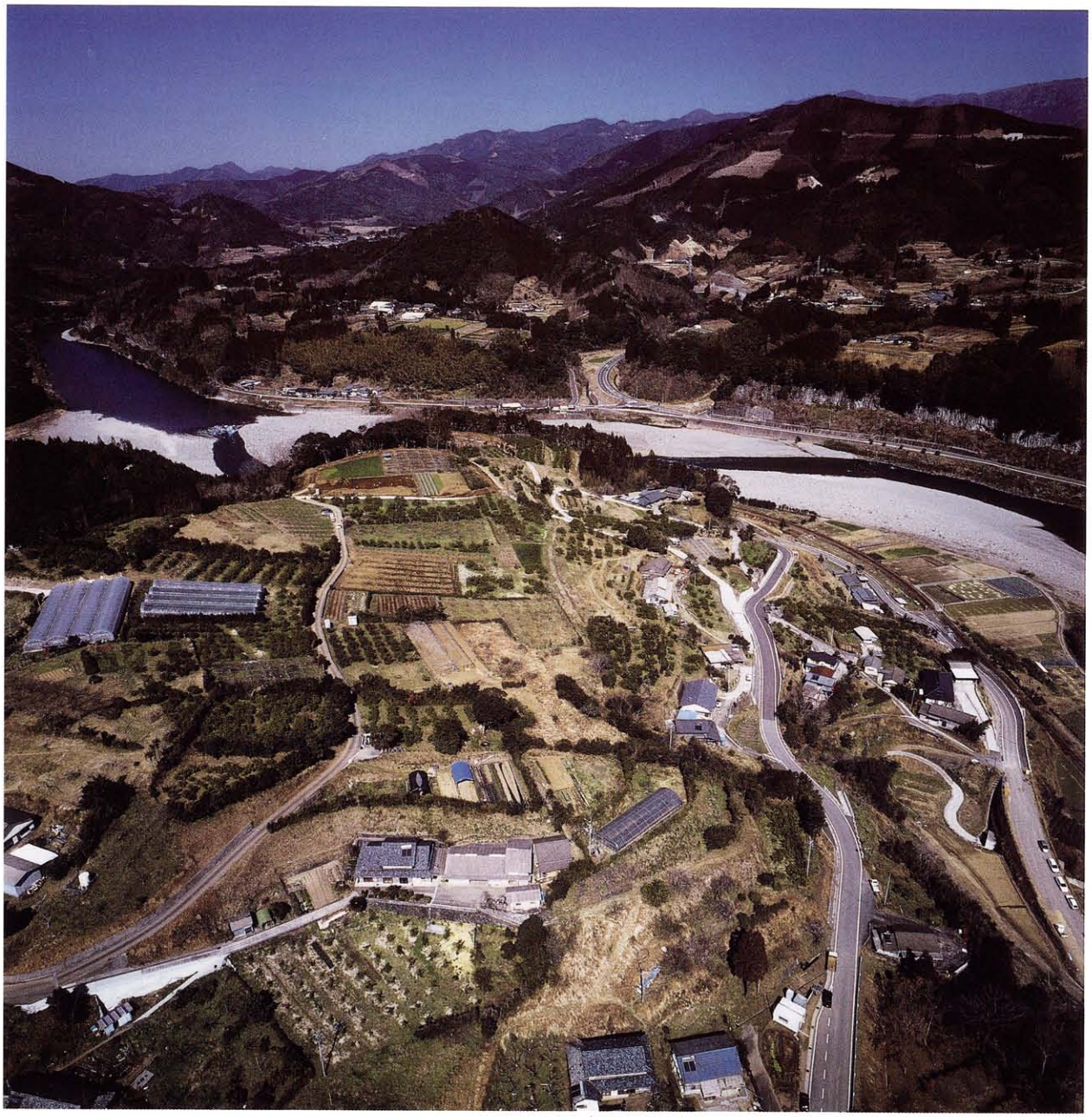
宮崎県延岡市教育委員会

上崎地区遺跡

（かみざき）

県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

上崎地区航空写真（上が北）



上崎地区遺跡空中写真（南東より）

上崎地区遺跡空中写真（北東より）

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

延岡市教育委員会では、今年度まで東臼杵農林振興局の委託を受けて、北方町上崎地区内に所在する埋蔵文化財調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通しまして、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、東臼杵農林振興局、上崎区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成２０年３月３１日

延岡市教育委員会

教育長　　町田　訓久

例　　　　　　言

1．本書は、旧北方町教育委員会である平成12年8月1日から、合併後の延岡市教育委員会に引き継いで、平成20年3月19日まで東臼杵農林振興局の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同北方教育課主査　小野信彦が担当した。

3．本書に使用した遺構・遺物の実測・トレース・図面作成は、小野信彦、阿部有美子、甲斐美智代、佐藤きみゑ、橋本継美、原田洋子、藤本千鳥、森有美が行なった。

4．現場及び遺物の写真撮影は、小野が行った。

5．方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海抜高である。

6．本書の執筆・編集は、小野が行った。

7．本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。

8．出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　　　　　　次

Ⅰ　はじめに

　1．調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

　2．調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

　3．位置と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

Ⅱ　調査の内容

　1．調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

　2．基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

　3．調査区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

　4．遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

Ⅲ　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　60

　　報告書抄録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　72

挿図・表・写真目次

巻頭カラー１　上崎地区航空写真（上が北）
巻頭カラー２　上崎地区空中写真（南東より）
巻頭カラー３　上崎地区空中写真（北東より）
１．延岡市北方町遺跡分布図（1/100,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
２．延岡市北方町遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
３．上崎地区遺跡周辺地形図（1/30,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
４．上崎地区遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
５．調査区位置図（1/6,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
６．上崎地区の文化財位置図（1/6,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
７．上崎地区の文化財一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
８．調査区位置図（1/5,000）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
９．５区遺構配置図（1/300）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
１０．６区遺構配置図（1/600）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
１１．１１区遺構配置図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
１２．１３区遺構配置図（1/400）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
１３．１４区（１次調査）遺構配置図（1/300）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
１４．１４区（１次調査）及び１６区調査区位置図（1/800）・・・・・・・・・・・・・・ 19
１５．１４区（２次調査）遺構配置図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
１６．１６区遺構配置図（1/300）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
１７．１７区遺構配置図（1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
１８．２３区遺構配置図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
１９．検出遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
２０．旧石器時代出土遺物（石器）実測図（1/2・2/3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
２１．縄文時代早期土坑実測図（1/30）及び出土遺物（1/3・2/3）・・・・・・・・・・ 26
２２．集石遺構実測図①（1/30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
２３．集石遺構実測図②（1/20〈13号集石のみ〉、1/30）・・・・・・・・・・・・・・ 28
２４．集石遺構内出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
２５．縄文時代晩期土抗実測図①（1/30）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・ 30
２６．縄文時代晩期土抗実測図②（1/30）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・ 31
２７．縄文時代出土遺物実測図①（石器）（2/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
２８．縄文時代出土遺物実測図②（石器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
２９．縄文時代出土遺物実測図③（石器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
３０．縄文時代出土遺物実測図④（石器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
３１．縄文時代出土遺物実測図⑤（石器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
３２．縄文時代出土遺物実測図⑥（土器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
３３．縄文時代出土遺物実測図⑦（土器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
３４．縄文時代出土遺物実測図⑧（土器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
３５．縄文時代出土遺物実測図⑨（土器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

３６．縄文時代出土遺物実測図⑩（土器）（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
３７．１号竪穴住居跡実測図（1/60）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・ 45
３８．２号竪穴住居跡実測図（1/30）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
３９．２号竪穴住居跡出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
４０．３号竪穴住居跡実測図（1/40）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・ 49
４１．４号竪穴住居跡実測図（1/30）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・ 50
４２．４号竪穴住居跡出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
４３．５号竪穴住居跡実測図（1/30）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・ 52
４４．６号竪穴住居跡実測図（1/40）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・ 53
４５．土坑・焼土集中部実測図（1/20）及び出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・ 54
４６．１号土坑及び１号溝実測図（1/20）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
４７．道路遺構空中写真①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
４８．道路遺構空中写真②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
４９．その他の遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
５０．出土遺物観察表①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
５１．出土遺物観察表②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
５２．出土遺物観察表③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
５３．上崎地区航空写真（昭和２３年米軍撮影）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
５４．事前健康指導の様子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
５５．中学生体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
５６．５区空中写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
５７．１１区空中写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
５８．１３区空中写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
５９．１４区空中写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
６０．１６区空中写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
６１．上崎地区空中写真（北より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
６２．遺物出土状況（５区・西より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６３．遺物出土状況（１１区・北東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６４．遺物出土状況（１４区１次調査・南より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６５．集石遺構検出状況（１４区１次調査・北より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６６．集石遺構検出状況（１４区２次調査・西より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６７．１３号集石遺構検出状況（１６区・西より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
６８．遺構検出状況（１３区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
６９．遺構検出状況（２３区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
７０．１号土坑検出状況（５区・南より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
７１．５号土坑検出状況（１４区・北西より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
７２．７号土坑検出状況（２３区・南東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
７３．２号焼土集中部検出状況（１１区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
７４．２号竪穴住居跡検出状況（１１区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
７５．５号竪穴住居跡検出状況（１７区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
７６．４号竪穴住居跡検出状況（１４区・東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

７７．作業状況（１４区１次調査・北東より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
７８．諸塚往還検出状況（１３区・北より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
７９．五ヶ瀬川河原・礫の堆積状況（南西より）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
８０．出土遺物（１～１５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８１．出土遺物（１６～２１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８２．出土遺物（２２～４３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８３．出土遺物（４４～５４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８４．出土遺物（５５～６３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８５．出土遺物（６４～６６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
８６．出土遺物（６７～８３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
８７．出土遺物（８４～９９）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
８８．出土遺物（１００～１１３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
８９．出土遺物（１１４～１３５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
９０．出土遺物（１３６～１５１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
９１．出土遺物（１５２～１５８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
９２．出土遺物（１５６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
９３．出土遺物（１５９～１６９）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
９４．出土遺物（１６５・１７０～１７２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
９５．出土遺物（１７３～１８２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
９６．出土遺物（１８３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
９７．出土遺物（１８４～１８８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
９８．出土遺物（１８９～１９２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
９９．出土遺物（１９３～１９８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
１００．出土遺物（１９９～２００）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
１０１．土器復元状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

Ⅰ．はじめに

1．調査に至る経緯

上崎地区遺跡は、延岡市北方町上崎辰地区で行われている農地保全整備事業等に伴って発掘された遺跡の総称である。

東臼杵農林振興局では、事業最終年度に当たる本年度も上崎地区において農地保全整備事業を計画し、工事予定地内の埋蔵文化財についての照会を、平成19年4月9日付けで延岡市教育委員会に行った。

工事予定地内の一部は、昨年度の確認調査をうけて本調査をすることになっていたが、新たな工事ヶ所については改めて確認調査を行なった結果、遺跡と判断されなかったためそのまま工事実施となった。

今年度の本調査は、8月5日から10月12日にかけて実施し、引き続き整理作業及び報告書作成作業に入った。

発掘調査報告書作成作業は、困難を極めた。平成17年9月6日に宮崎県に大きな被害をもたらした台風14号により、五ヶ瀬川が氾濫し庁舎1階が完全に水没、その後しばらく災害復旧作業に追われた。上崎地区遺跡関係では、書類・遺物も一部被害を受け、整理作業室を会議室として利用する為に資料を小学校の空き教室や民俗資料収蔵庫に積み込んだため、関係図面・写真・遺物等の復元にも時間がかかった。

しかし、合併により延岡市の資料整理室を間借りすることができ、上崎地区遺跡以外の資料については、廃園になった市の幼稚園施設跡に移動して整理スペースを確保した。また、図面整理や図面の縮小コピー等電気設備が整った作業室を確保してから比較的スムーズに進んだ。

発掘調査は、当初農林振興局と旧北方町農政課より提示された条件を基に行なっていたため、調査面積も過大で期間も十分ではなかったが、合併後は十分な打合せの元に行うことができた。平成12年度から今年度まで行なった調査は、以下のとおりである。（国庫補助事業に伴う試掘・確認調査は除く。）

1次調査	平成12年8月1日～平成13年3月20日	1,800㎡
2次調査	平成13年8月1日～平成14年3月20日	1,860㎡
3次調査	平成15年1月15日～平成15年3月20日	980㎡
4次調査	平成15年9月1日～平成16年3月19日	835㎡
5次調査	平成16年7月30日～平成17年2月25日	835㎡
6次調査	平成17年12月26日～平成18年2月15日	300㎡
7次調査	平成19年1月19日～平成19年3月16日	200㎡
8次調査	平成19年8月7日～平成20年3月21日	200㎡

上崎地区遺跡では、8年間にわたって24ヶ所の調査（国庫補助事業を含む）を実施してきた。それぞれの調査について、詳細に報告しなければいけないのであるが、期間・紙幅等の関係で遺構を検出した調査区を中心に報告している。遺物は、包含層や遺構に伴うものの中から主なものを取り上げた。一括資料、その他の遺物は、特徴的なものを取り上げた。

また、同地区では、個人の農地改良工事や農・林道・市道（旧町道）拡幅工事に伴っての事前調査を行い、多くの成果を得ている。これは、県営農地保全整備事業に伴う調査よる文化財保護啓発意識が、広く上崎地区に浸透したことも大きく影響している。

当地区の発掘調査事業は、文化財保護の観点から言えば、調査後に工事に先立って現地説明会等を実施し公開しなければいけないのが本来の姿であるが、工事期間の関係で、7次調査でようやく中学生の職場体験学習による発掘体験を行なった以外は実施していない。

2．調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体	北方町教育委員会（平成18年2月19日まで）	
	教育長	河野達也（～平成14年6月30日）
		中　利幸（平成14年7月1日～）
	社会教育課長	高見和嗣郎（平成12年度）
		亀長　馨（平成13年度～平成15年度）
		甲斐　淳一（平成16年度）
		緒方　尚志（平成17年度）
庶務担当	課長補佐	藤田　統三（平成12～平成15年度）
		甲斐　克則（平成16年度）
		鬼塚　重敏（平成17年度）
調査担当	文化財係長	小野　信彦

調査主体	延岡市教育委員会（平成18年2月20日～）	
	教育長	牧野　哲久（～平成19年9月30日）
		町田　訓久（平成19年10月1日～）
	教育部長	由良　公明
	文化課長	渡邊　博吏
	北方教育課長	緒方　尚志（～平成19年3月31日）
		大村　望（平成20年4月1日～）
	文化課課長補佐（兼文化財係長）	九鬼　勉（～平成19年3月31日）
	文化課課長補佐	大島　紀世子（平成19年4月1日～）
	北方教育課長補佐	鬼塚　重敏
	文化課文化財係長	赤星　清次
庶務担当	文化課文化振興係主任主事	松岡　直子
	北方教育課社会教育係長	春田　清子
調査担当	北方教育課社会教育係主査	小野　信彦
調査指導	宮崎県文化財課	
調査協力	宮崎県東臼杵農林振興局農地整備課、宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、宮崎県市町村埋蔵文化財担当者、農地保全整備事業上崎地区推進協議会及び地元関係各位	

３．位置と歴史的環境

本遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。町域面積のほぼ89%を山林が占める農林業主体の町であるが、平成18年2月20日をもって延岡市と合併することとなった。

南部の五ヶ瀬川流域や曽木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大部分が集中する。

旧石器時代の遺跡には、AT 層下位より石核等が出土した矢野原遺跡や半船底型細石核と隆帯上に爪形文を施した土器が共伴して出土した岩土原遺跡がある。特に矢野原遺跡では、ＡＴ層上位より礫群の外、ナイフ形石器や剥片尖頭器を含め約3,000点にも及ぶ遺物が出土している。ＡＴ層下位では、数点のスクレイパーと剥片が出土している。石材は水晶、流紋岩、砂岩等である。

縄文時代早期では、矢野原遺跡、蔵田遺跡等で押型文土器・集石遺構が、曽木原遺跡で連結土坑が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟Ｂ式土器・曽畑土器等が、中期では笠下遺跡等で船元式土器がしている。笠下下原遺跡では、集石遺構も検出されている。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晩期では南久保山小堀町遺跡、川水流遺跡等で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に北方町から板付Ⅱ式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭になると表採品であるが、瀬戸内系土器の移入が見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、笠下遺跡、蔵田遺跡、打扇遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。遺物には、甕・壺・高坏・ミニュチュア土器・石庖丁等がある。

古墳時代では、後期の箱式石棺が矢野原・駄小屋・後曽木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

奈良・平安期では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、蔵田城や仲畑城があるが、地名などからまだ多くの山城が存在するものと思われる。笠下遺跡、速日峰地区遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明銭等が出土している。

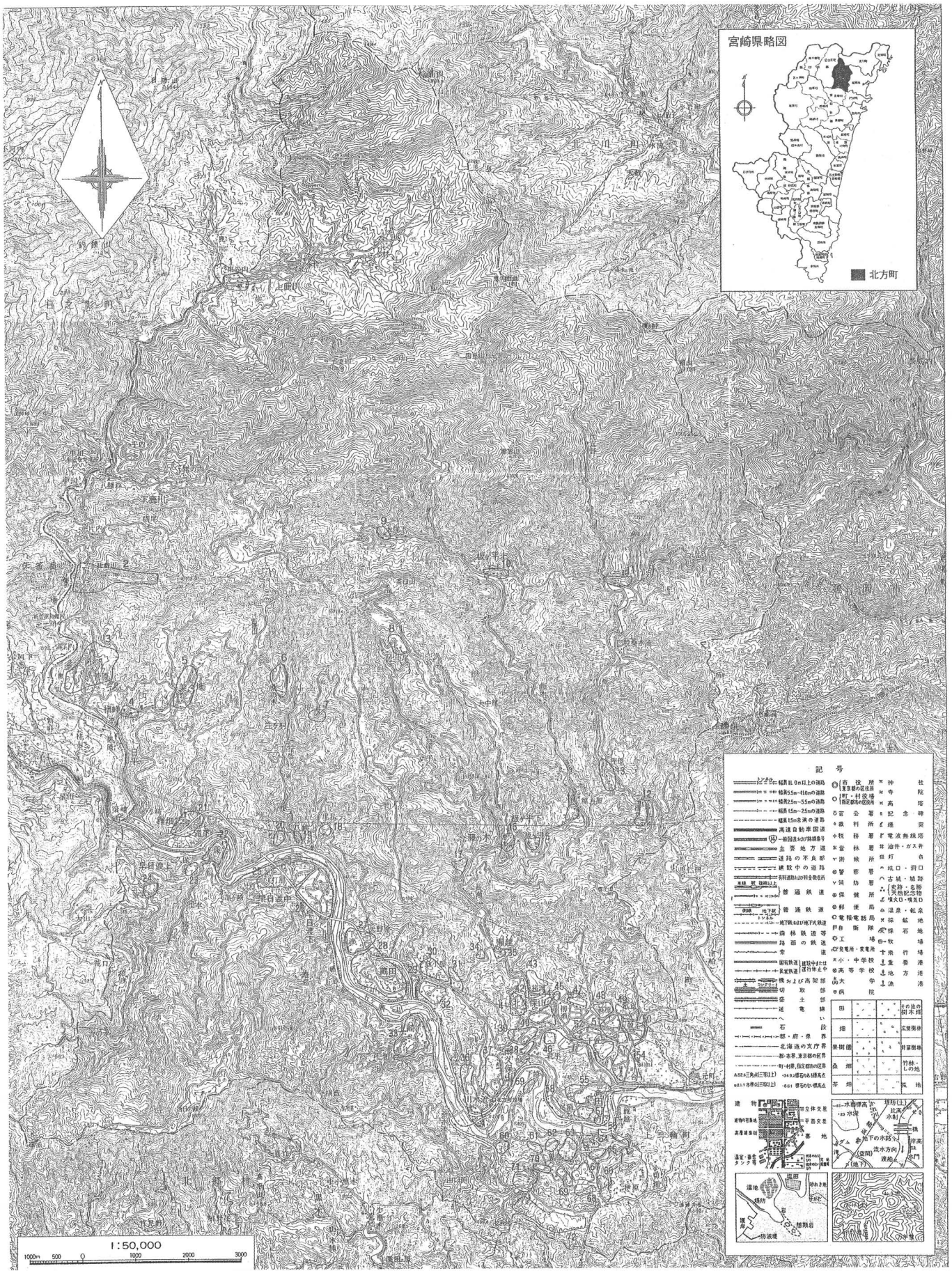
近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

江戸時代から明治時代にかけて、北方地区では日平鉱山をはじめ猿渡鉱山、槇峰鉱山等の鉱山開発が積極的に行われた。特に、三菱に経営権が移ってからの槇峰鉱山は、明治33年（1900）以降に発電所建設や技術革新が積極的に行われ、格段の活況を呈した。鉱山の賑わいは、北方地区の生産基盤になるなど、経済的効果はもちろん文化面での影響も多大なものがあった。

昭和42年（1967）に鉱山が閉山すると産業構造も大きく変化し、現在では、国指定史跡で在る比叡山・矢筈岳をはじめとする自然景観のすばらしさを生かした登山・ロッククライミング、キャンプ、渓流を利用したヤマメの養殖、スキー場・風力発電等を兼ね備えた総合レジャー施設ＥＴＯランド速日峰等の観光資源にも力を入れている。

平成18年2月20日、北方町・北浦町は延岡市と合併し、19年3月31日には北川町とも合併して九州で2番目に広い市域を有する新生延岡市となった。

市域の拡大とともに交通網も着々と整備されつつあり、より一層の交流が深まることによって今後更なる発展が期待できる。



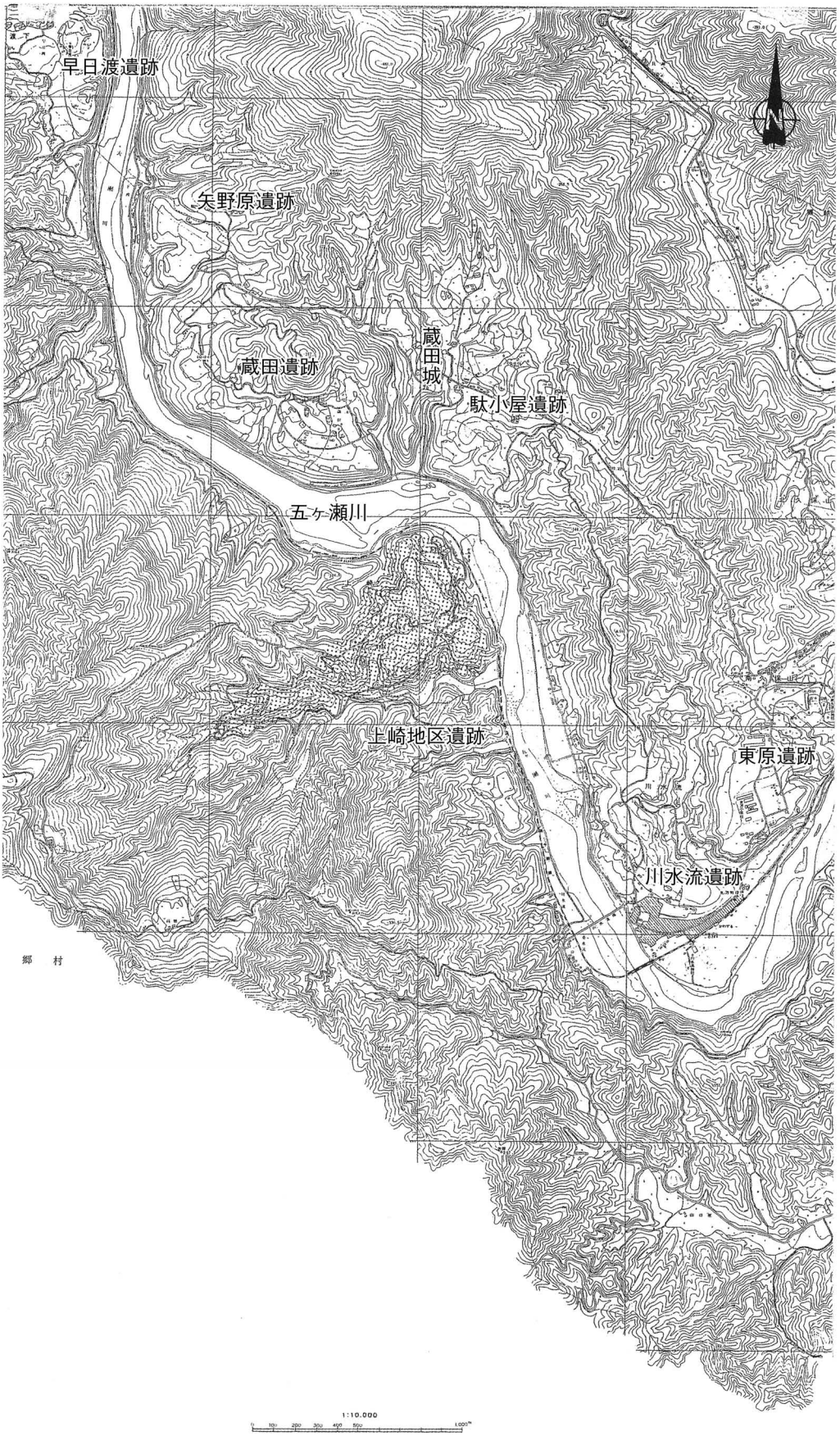
1. 延岡市北方町遺跡分布図（1／100,000）

番号	名　　称	所　在　地	種　　別	時　　代	備　　考
1	上鹿川東の内遺跡	上鹿川(東の内)申	散布地	縄文～近世	一部日之影町側へ分布が広がる
2	比叡山	菅原未	国指定名称		日之影町矢筈岳と合わせて指定
3	菅原洞穴・菅原遺跡	菅原未	散布地・洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和41年南九州短大により調査
4	槇峰遺跡	槇峰未	散布地	縄文～近代	鉱山跡
5	美々地遺跡	美々地未	散布地	縄文～中世	中世山城の可能性
6	三ヶ村桑の木遺跡	三ヶ村(桑の木)午	散布地	中世～近世	備前焼のすり鉢と多量の古銭が出土
7	三ヶ村内の口遺跡	三ヶ村(内の口)午	散布地	中世～近世	
8	上中尾遺跡	藤の木(上中尾)酉	散布地	中世～近世	和鏡5面と明銭2枚が出土
9	大保下遺跡	板上(大保下)亥	散布地	中世～近世	
10	石上遺跡	板上(石上)亥	散布地	中世～近世	
11	二股上遺跡	二股(二股上)戌	散布地	中世～近世	
12	唐立遺跡	二股(唐立)亥	散布地	中世～近世	
13	樫原遺跡	二股(樫原)亥	散布地	縄文～中世	平成4年確認調査、一部消滅
14	屋形原遺跡	板下(屋形原)戌	散布地	縄文～中世	
15	板ヶ平遺跡	板下(板ヶ平)戌	散布地	縄文～中世	
16	小原遺跡	板下(小原)戌	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
17	藤の木桑水流遺跡	藤の木(桑水流)酉	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
18	尾払遺跡	八峡(尾払)午	散布地	中世～近世	
19	八峡遺跡	八峡午	集落跡	弥生～近世	一部消滅
20	松舟遺跡	八峡(松舟)午	散布地	中世～近世	
21	椎畑遺跡	椎畑未	散布地	縄文～近世	多木遺跡(旧名)を変更
22	城遺跡	早上(城)巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
23	久保遺跡	早上(久保)巳	散布地	縄文～近世	
24	荒平遺跡	早上(荒平)巳	散布地	縄文～近世	
25	打扇遺跡	早中(打扇)巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
26	早日渡遺跡	早日渡巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
27	矢野原遺跡	蔵田(矢野原)辰	集落跡	旧石器～近世	平成5年調査、一部消滅
28	蔵田遺跡	蔵田辰	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
29	蔵田城	蔵田辰	中世山城	中世	堀等が良好に残る
30	駄小屋遺跡	蔵田(駄小屋)辰	散布地	旧石器～近世	
31	地山遺跡	蔵田(地山)辰	散布地	縄文～近世	平成9年調査、一部消滅
32	戸の上遺跡	蔵田(辰)戸の上	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
33	**上崎地区遺跡**	**上崎辰**	**集落跡**	**旧石器～近世**	**平成12年度～19年度まで調査、一部消滅**
34	船木谷遺跡	獺越(船木谷)子	散布地	縄文～近世	
35	獺越遺跡	獺越子	散布地	縄文～近世	
36	川水流遺跡	川水流卯	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
37	東原遺跡	川水流(東原)卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
38	南久保山小堀町遺跡	南久保山(小堀町)子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
39	十郎ヶ尾遺跡	南久保山(十郎ヶ尾)子	散布地	縄文～近世	
40	柳瀬遺跡	曽木(柳瀬)子	散布地	縄文～近世	
41	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	
42	猪渡遺跡	獺越(猪渡)子	集落跡	縄文～近世	一部消滅
43	上畑遺跡	獺越(上畑)子	散布地・中世山城	縄文～中世	西南戦争時に再利用
44	仲畑城跡	獺越(仲畑)子	中世山城	中世	堀等が残る
45	仲畑遺跡	獺越(仲畑)子	散布地	縄文～近世	
46	壱丁鐘遺跡	曽木(壱丁鐘)子	石棺群	古墳	県指定北方村古墳1号墳
47	後曽木遺跡	曽木(後曽木)子	散布地・石棺群	古墳	県指定北方村古墳3号墳
48	笹原遺跡	曽木(笹原)子	散布地	縄文～近世	
49	荒谷遺跡	曽木(荒谷)子	散布地	縄文～近世	一部消滅
50	曽木原遺跡	曽木(曽木原)子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
51	深谷遺跡	曽木(深谷)子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
52	古城遺跡	曽木(古城)子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
53	中野遺跡	曽木(中野)子	散布地	縄文～近世	一部消滅
54	黒仁田遺跡	曽木(黒仁田)子	散布地	縄文～近世	
55	権現原遺跡	角田(権現原)丑	散布地	縄文～近世	一部消滅
56	角田遺跡	角田丑	散布地・中世山城	縄文～近世	上屋敷・下屋敷・垣内の地名が残る
57	角田上ノ原遺跡	角田(上ノ原)丑	散布地	縄文～近世	
58	足鍋遺跡	角田(足鍋)丑	散布地	縄文～近世	
59	下崎遺跡	角田(下崎)丑	散布地	縄文～近世	
60	中山遺跡	川水流(中山)卯	散布地	縄文～近世	消滅
61	上田下遺跡	笠下(上田下)寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
62	岩土北平遺跡	笠下(岩土北平)寅	散布地	旧石器～近世	
63	岩土原遺跡	笠下(岩土原)寅	散布地	旧石器～近世	昭和44年南九州短大により調査
64	笠下遺跡	笠下寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
65	松尾原遺跡	笠下(松尾原)寅	散布地	旧石器～近世	
66	藤ノ木谷遺跡	笠下(藤ノ木谷)寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
67	伊木原遺跡	笠下(伊木原)寅	散布地	旧石器～近世	
68	炭ノ越遺跡	笠下(炭ノ越)寅	集落跡	旧石器～近世	
69	笠下下原遺跡	笠下(下タノ原)寅	散布地	旧石器～近世	下原は通称名
70	笠下黒原遺跡	笠下(黒原)寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
71	笠下山口原遺跡	笠下(山口原)寅	散布地	旧石器～近世	一部消滅
72	笠下(ゴルフ場)遺跡	笠下(塩田　外)寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

2. 延岡市北方町遺跡一覧表

引　用　・　参　考　文　献

1. 田中茂『東臼杵郡北方村先史遺物地名録』北方村教育委員会　昭和 34 年（1959）
2. 田中茂『東臼杵郡北方村の古墳』北方村教育委員会　昭和 37 年（1962）
3. 日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会『日本の洞穴遺跡』平凡社　昭 45 年（1970）
4. 鈴木重治「本邦における土器起源に関する研究―岩土原遺跡の調査を中心に」
『南九州大学園芸学部研究報告』第３号・別刷　南九州大学園芸学部　昭和 48 年（1973）
5. 北方町史編纂委員会『北方町史』北方町役場　昭和 47 年（1972）
6. 宮崎県教育委員会『宮崎県の文化財』昭和 52 年（1977）
7. 北方町教育委員会『北方町あの村この里』―古老が語る今と昔―　昭和 55 年（1980）
8. 江坂輝弥・芹沢長介・坂詰秀一編『日本考古学小事典』ニューサイエンス社　昭和 58 年（1983）
9. 角川書店『角川　日本地名大辞典』　45 宮崎県　昭和 61 年（1986）
10. 北方町教育委員会「笠下遺跡」『北方町文化財報告書』1（1986）
11. 北方町文化財保護審議会『北方町の古跡を訪ねて』　平成元年（1989）
12. 宮崎県『宮崎県史』資料編考古１　ぎょうせい　平成元年（1989）
13. 北方町教育委員会『槙峰鉱山史』　平成４年（1992）
14. 宮崎県『宮崎県史』資料編考古２　ぎょうせい　平成元年（1989）
15. 宮崎県『宮崎県史』資料編近世２　ぎょうせい　平成元年（1989）
16. 松村明監修『大辞泉』　小学館　平成７年（1995）
17. 宮崎県教育委員会「打扇遺跡・早日渡遺跡・矢野原遺跡・蔵田遺跡」『一般国道 218 号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』（1995）
18. 平凡社『宮崎県の地名』―日本歴史地名体系 46 巻　平成９年（1997）
19. 北方町史第２巻編纂委員会『北方町史第２巻』北方町役場　平成 11 年（1999）
20. 延岡市教育委員会『延岡の史跡と文化財』発行年不明
21. 宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ』平成 10 年（1998）
22. 宮崎県教育委員会『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅱ』平成 11 年（1999）
23. 北方町教育委員会「町内遺跡詳細分布調査報告書」『北方町文化財報告書』23（2004）



3. 上崎地区遺跡周辺地形図（1／30,000）

Ⅱ．調査の内容

1．調査の概要

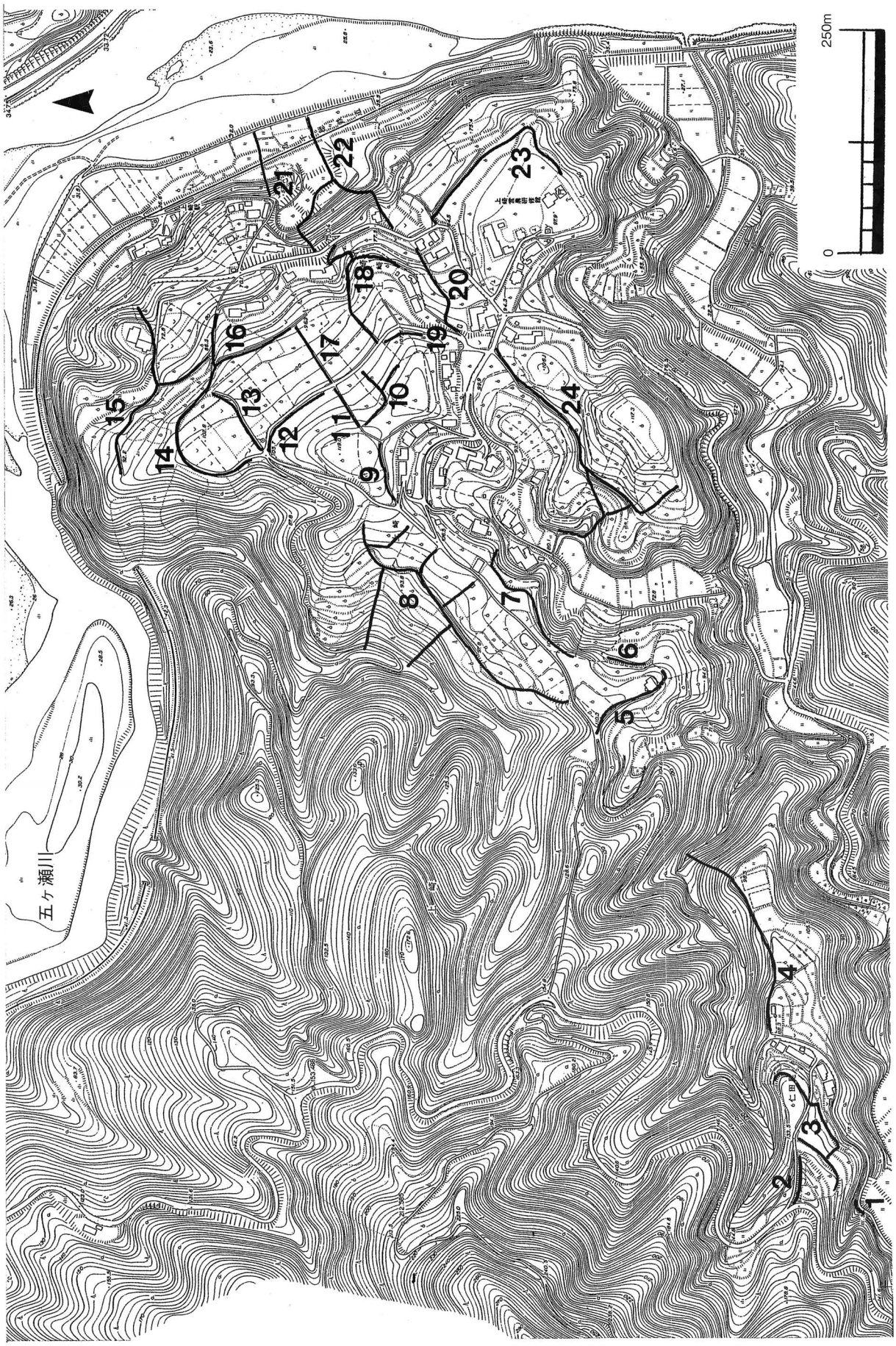
本遺跡が所在する上崎地区は、標高 868mの速日峰から派生した尾根の端部に位置し、「原」「上ノ原」と呼ばれる阿蘇溶結凝灰岩で形成された台地上あるいは傾斜地を利用して果樹（みかんやもも・なし等）の栽培が盛んである。このため、多くの調査区は包含層下の地山部分まで削平を受けていた。また、工事の多くが排水路工事等によりアカホヤ火山灰層をやや削る程度の軽微なものが多かったため、遺構の検出は少なく、遺物も埋土中に含まれる一括資料のほうが、発掘調査で出土するものを上回っている状況である。

農地保全整備事業に伴って発掘調査を行なった 24 ヶ所の内、多くの制限を受けた調査であったためか、遺構が検出された調査区は８ヶ所に過ぎない。しかし、これまで同地区において地元有志等による表面採集でいくつかの遺跡が知られている以外、本格的な埋蔵文化財調査は皆無であったことを考えると、剥片尖頭器の出土、縄文時代早期の集石遺構や弥生・古墳時代の竪穴住居跡の検出例は一定の成果といえよう。

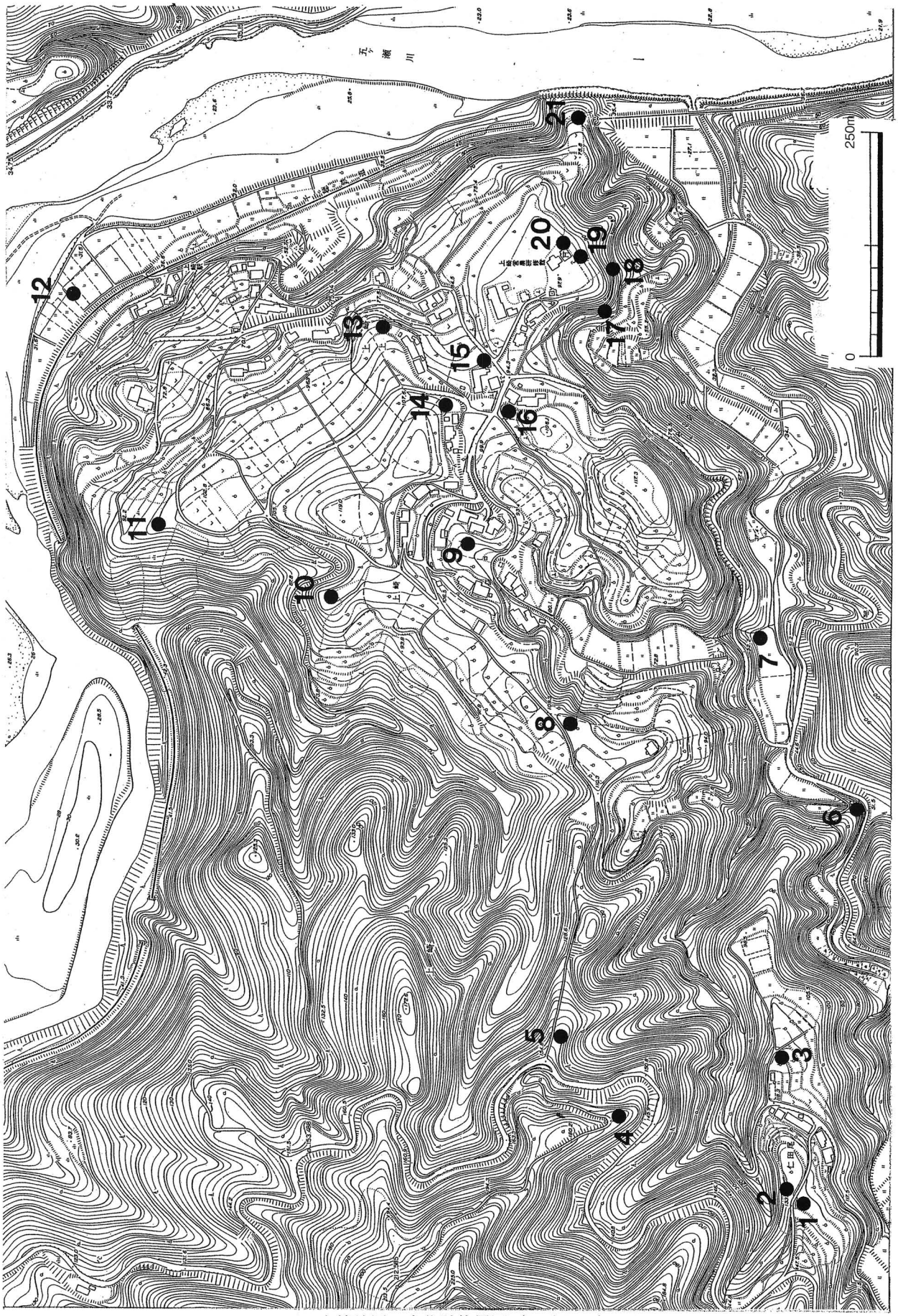
また、県営農地保全に伴う発掘調査事業の影響により、他の開発（個人農地改良事業、市道・農道・林道改良事業）に伴う事前の照会が行われるなど、文化財保護に関する啓発効果は十分に現れている。

調査区	調査年度	検出遺構	出土遺物	備考
1	18	なし	なし	
2	18	なし	なし	
3	13	なし	なし	
4	13	なし	なし	
5	18	土坑	石器・土器	
6	12	竪穴住居跡・焼土集中部	石器・土器	竪穴住居跡は一部のみ調査
7	12	なし	石器・土器	
8	13	なし	石器・土器	
9	14	なし	石器・土器	
10	17	なし	石器・土器	
11	19	竪穴住居跡・土坑・焼土集中部	石器・土器	竪穴住居跡は1部のみ調査
12	14	なし	なし	
13	14	竪穴住居跡・土坑・道路遺構	石器・土器	道路遺構は諸塚住還の一部
14	14・15	竪穴住居跡・土坑・集石遺構	石器・土器	竪穴住居跡・土坑・集石遺構は一部のみ調査
15	14	なし	なし	
16	15	なし	石器・土器	
17	17	竪穴住居跡	石器・土器	竪穴住居跡は一部のみ検出
18	14	なし	石器・土器	
19	19	なし	石器・土器	アカホヤ火山灰層が良好に残る
20	17	なし	石器・土器	周辺で遺物表採（個人蔵）
21	14	なし	なし	
22	14	なし	なし	
23	12	竪穴住居跡・土坑・溝	石器・土器	竪穴住居跡・土坑・集石遺構は　一部のみ調査
24	12	なし	宝永通宝	

4．上崎地区遺跡調査一覧表



5. 調査区位置図（1／6,000）



6. 上崎地区の文化財位置図（1／6,000）

2．基本層序

上崎地区遺跡の基本層序は、ほぼ以下の通りである。工事の都合で、Ⅵ層上面までの調査がほとんどである。五ヶ瀬川流域の阿蘇溶結凝灰岩台地の上では、この層序で比較的安定している。上鹿川東の内遺跡や三ヶ村遺跡などの山間部や支流の上・中流部では、阿蘇溶結凝灰岩関係の地層が発達せずに、四万十帯の砂岩層あるいは花崗斑岩の岩盤の上に薄い包含層が見られる。

Ⅰ層…表土層（約 20 cm）

Ⅱ層…茶褐色土層（約 20 cm）

Ⅲ層…黒色土層。パサつく。（約 30 cm）一部を除き削平されている。上部より主に縄文時代晩期の遺物や須恵器・陶磁器等が出土。畑作地域では、一部を除き削平されている。

Ⅳ層…アカホヤ層（約 20 cm）上鹿川などの山間部でも、比較的安定した堆積が見られる。遺跡によっては、前期・中期の遺物が内部より出土する。

Ⅴ層…黒褐色土層（約 20 cm）やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物が出土。住居跡の検出は無く、ほとんどが集石遺構である。最近では、連結土坑の検出例も増えている。

Ⅵ層…黄褐色土層（約 20 cm）粘質。旧石器時代の遺物が出土。堆積が良好な遺跡では、ＡＴ層までに、黒褐色土層や黄褐色土層が交互に見られる。

Ⅶ層…ＡＴ層（約 10 cm）今回の事業に伴う調査では、検出できなかった。五ヶ瀬川北部の矢野原遺跡や慈眼寺霊苑遺跡などでは比較的安定した堆積が見られる。

Ⅷ層…黒褐色土層（約 20 cm～50 cm）今回の事業に伴う調査では、検出できなかった。3～5 cmのブロック状を呈する。矢野原遺跡で県教育委員会が行った中位の埋土分析の結果、24,290±680（22,340B.C）という数値が得られている。

Ⅸ層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。上部で石器が出土する遺跡の調査例が県北地域で見られるようになった。

Ⅹ層…阿蘇溶結凝灰岩層。岩盤。山間部では、四万十帯の砂岩あるいは花崗岩・花崗斑岩が岩盤を形成している。

番号	名　称	説　明	番号	名　称	説　明
1	寺跡	延岡市南町にある専念寺が以前あったといわれる。	12	青面金剛像	文政6年(1823)の銘がある。足元に猿の姿が2匹彫られている。
2	五輪塔群	1 にあったものを移す。	13	墓地	
3	石塔群	文久3年(1863)銘の地蔵像と1 から移された五輪塔がある。	14	水神	詳細不明。
			15	上崎庚申塔群	6基の庚申塔が集められている。
4	石塔群	時期不明の弘法大師像がある。	16	石塔	無銘。詳細は不明。
5	馬頭観音	天保11年(1840)の銘あり。	17	稲荷	防空壕建設で移動。祠の中に祀られている。
6	山の神	年号等不明。			
7	土錘出土地	土錘(土で作った網の重り)が出土。付近に遺跡の存在が予想される。	18	庚申塔	以前埋もれていたのを掘り出して祀っている。
8	中西石棺跡	石棺があったといわれる。現在、所在不明。	19	薬師堂	観音菩薩像・薬師如来像・大師像の三体が祀られている。観音菩薩像に文化12年(1815)の銘がある。
9	水神	道路拡幅時に消滅。石塔のみ移動。			
10	台場跡	明治10年(1877)に起こった西南戦争時の台場跡。壕が残る。	20	上崎天満神社	祭神は菅原道真など四神。以前『原』と『山森』にあったものを合祀した。例祭日は12月7日である。
11	台場跡	10 に同じ。壕は消滅。	21	水神	現在行方不明。

7. 上崎地区遺跡の文化財一覧表

３．調査区の概要

遺構が検出された5区、6区、11区、13区、14区、16区、17区、23区を中心に報告する。

5区では、時期不明の土坑が1基検出された。道路の山側部分は地山まで削平されていたが、谷側において削平を免れて包含層が残っている部分があり、縄文時代早期の遺物が若干出土した。また、道路作成時に削った時の土を埋土に利用しているが、埋土中にもチャートの剥片や縄文土器・弥生土器片が見られる。

6区では、尾根が内側に傾斜する中腹部に位置するところで竪穴住居跡の一部を検出した。その外に、焼土の集中部分を1基検出したが、掘り込みは見られない。調査区内の包含層からの出土遺物も多くない。尾根の端部や裾部ではなく、中腹の僅かな平坦部を利用した竪穴住居跡を形成する事例である。類例は、五ヶ瀬川の上流に位置する打扇遺跡などでも見られる。

11区は、標高100～120m程の通称「原」と呼ばれる台地上に位置し、上崎地区でも一番広い平坦地域である。また、遺物集中部が見られる数少ない調査地点である。竪穴住居跡を1軒、土坑を1基、焼土集中部を1基検出している。竪穴住居跡は、検出面積から床面まで80㎝程で比較的深めの竪穴住居跡である。

13区も、「原」と呼ばれる台地上に位置し、以前から石鏃等が採集されていた。五ヶ瀬川からの比高差は60～80mである。アカホヤ層が確認され、上面で竪穴住居跡1軒や道路遺構を検出した。轍の跡と阿蘇溶結凝灰岩を削って整形した道路遺構は、最近舗装された農道以前に利用されていたもので、曽木から高千穂に向かう高千穂往還から分かれて諸塚に向かう「諸塚往還」の一部である。また、縄文時代早期と晩期の土坑を各1基ずつ検出した。

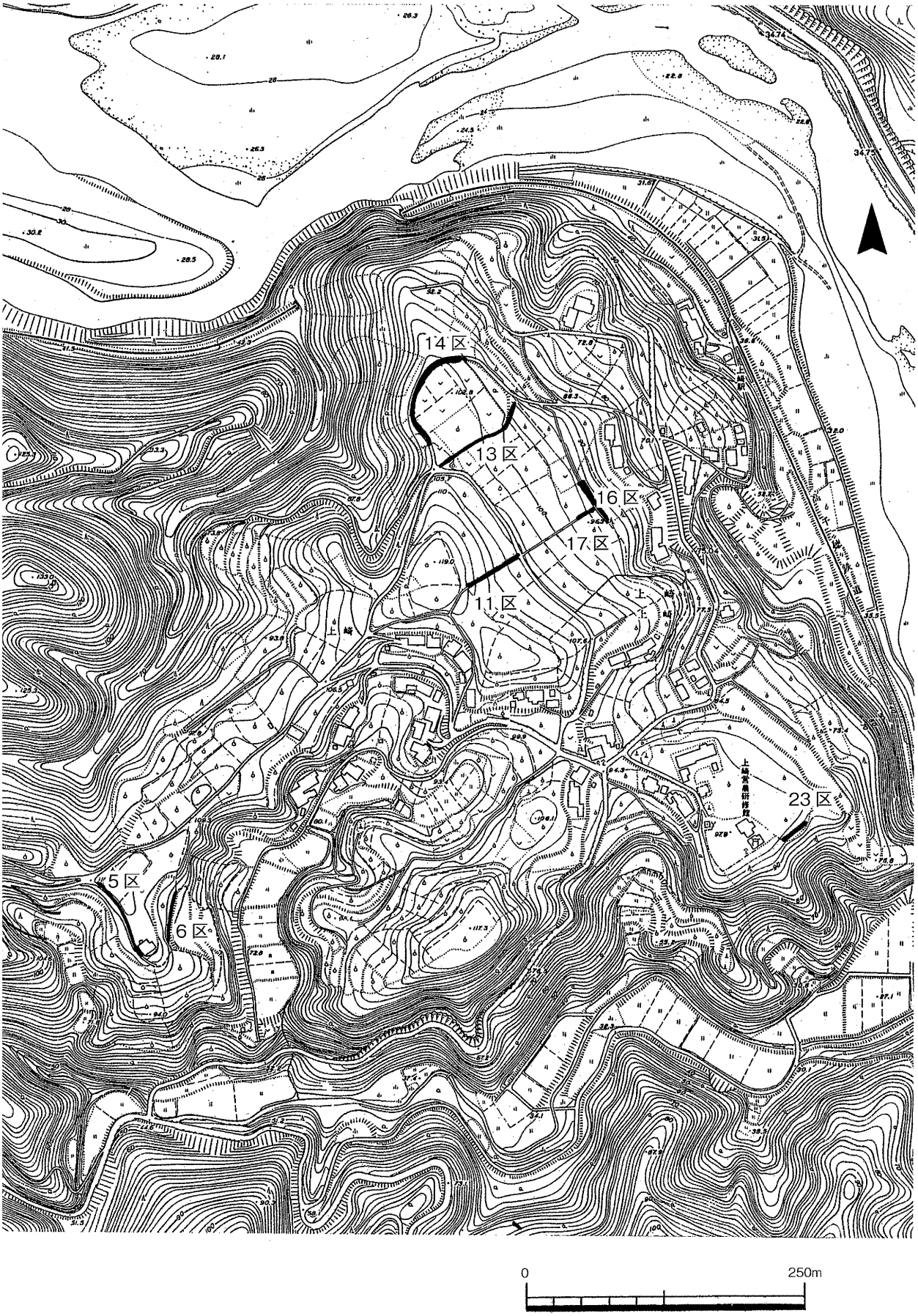
14区も「原」台地の一部である。普段から地元住民による生活道路として利用されており、周辺に寄せられた遺物から包含層が良好に残ると予想されたため、調査期間を道路横の部分を1次調査、道路部分を2次調査として行った。台地の下辺部を走る道路部分は地形的なものから発掘調査は工事立会いにして、地元利用者に負担がかからないようにした。調査の結果、集石遺構12基や土坑1基・竪穴住居跡1軒を検出している。

16区は、「原」の台地が北側の五ヶ瀬川に向かって下降する端部に位置している。集石遺構1基と土坑1基を検出している。また、倒木痕と思われる土坑内3ヶ所より縄文時代早期から弥生・古墳時代の遺物が混在して出土している。

17区は、水兼農道工事に伴い調査した16区に直角にあたる形で排水路建設が予定され、これに伴って調査した。80㎝程の調査幅ながら竪穴住居跡を1軒検出した。検出面から床面までの深さは山側で60㎝、五ヶ瀬川側で30㎝を測る。

23区は「原」の台地が東側、五ヶ瀬川に向かって下降する端部に位置している。竪穴住居跡を1軒と縄文時代晩期の土坑1基、時期不明の溝を1基検出した。出土遺物は多くない。

24区の各調査区とも工事の規模と耕作の影響等の状況から、遺構を完掘した事例は多くない。遺構が検出できたのも、水兼農道や現道の改良に伴う比較的広めの幅を調査した事例で、11区の排水路関係は、極めて稀な調査例である。各調査区ともに制限の多い調査で、多くの遺構が一部しか調査できなく、その成果は十分ではない。反面、調査例がほとんどなかった当地域において、速日峰地区遺跡や矢野原遺跡、蔵田遺跡、笠下ゴルフ場遺跡と言った北方地区を代表する遺跡に共通するような縄文時代早期の集石遺構、弥生・古墳時代の竪穴住居跡を確認でき、これまでの調査空白地帯を埋める結果となった。



8. 調査区位置図（1／5,000）

5区の概要

速日峰（868m）から東へ派生する尾根の端部、標高90～100m程の台地南西端に位置している。

現況は作業道であるため、遺跡は畑部分のみに残っているのみと予想したが、傾斜部分に包含層が確認され、縄文時代早期の土器・石器が出土している。

検出遺構

調査区の北西で土坑を1基検出した。阿蘇溶結凝灰岩の風化した地層面に掘り込まれている。楕円形を呈し、埋土には焼土と炭を含んでいる。遺物はないため、時期については不明である。

出土遺物

チャートや砂岩・流紋岩製の剥片や縄文時代早期の土器片、弥生・古墳時代の土器片が出土している。

遺物の量は多くない。

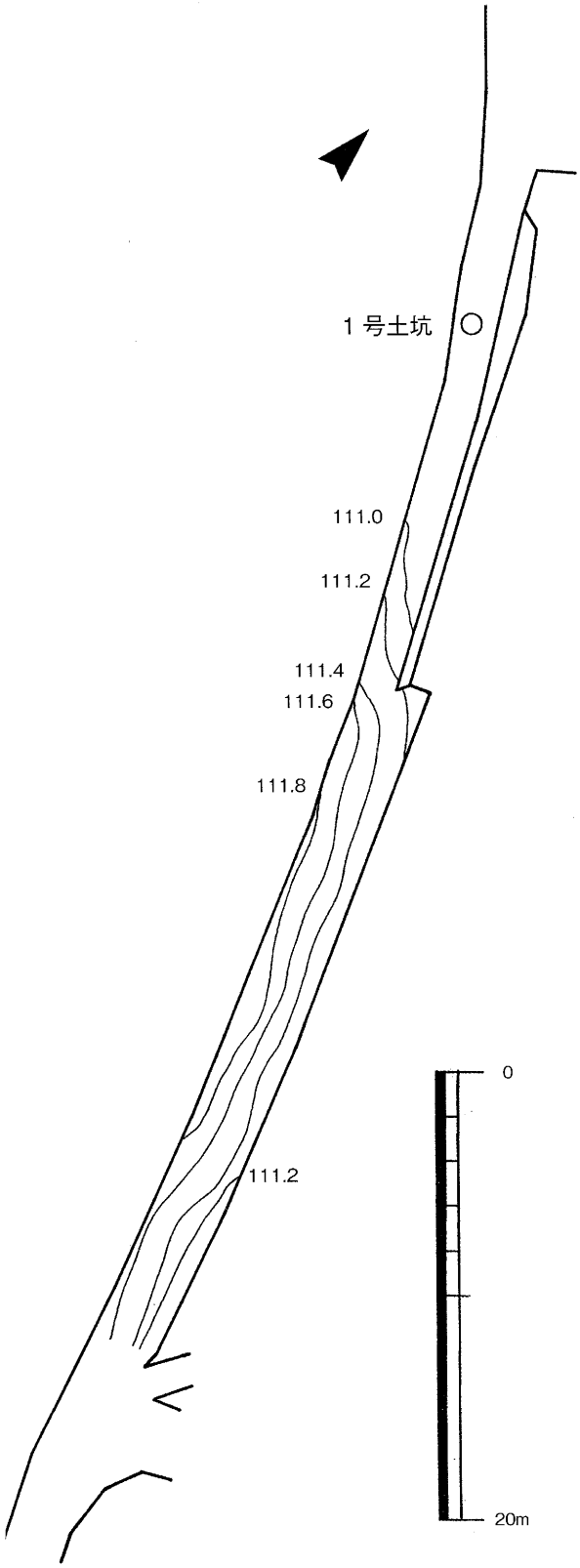
まとめ

調査区の北西側のがけ面で、谷に向かって地崩れが発生したと思われる痕跡を確認した。かなり煩雑に地崩れが発生したようである。

断面観察の結果、埋土中に遺物の発見はなかったものの、焼けた砂岩礫を認めた。

道路部分の埋土中にもかなりの焼けた礫が含まれていた。

周辺の開発には、十分注意する必要がある。



9. 5区遺構配置図（1／300）

6区の概要

5区の反対側、尾根が内側に傾斜する中腹部に位置する。

かなりな傾斜地にもかかわらず、包含層が良好に残るものの遺物の量は多くない。

現況は作業道であるため、復旧後の利用も考え考えて土手部分を残して調査を行った。

縄文時代早期の土器・石器が出土している。

検出遺構

調査区の中央部分で竪穴住居跡を1軒と調査区の南端部分で焼土集中部を1基検出した。竪穴住居跡は一部分の調査のため詳細は不明である。付属施設としてベッド状遺構がある。床面は平坦で、主柱穴等に関しては不明である。いずれも小破片であるが、弥生・古墳時代の土器片が出土している。

焼土集中部は掘り込みがなく、傾斜部に浅く堆積する程度である。遺物はなく、時期については不明である。

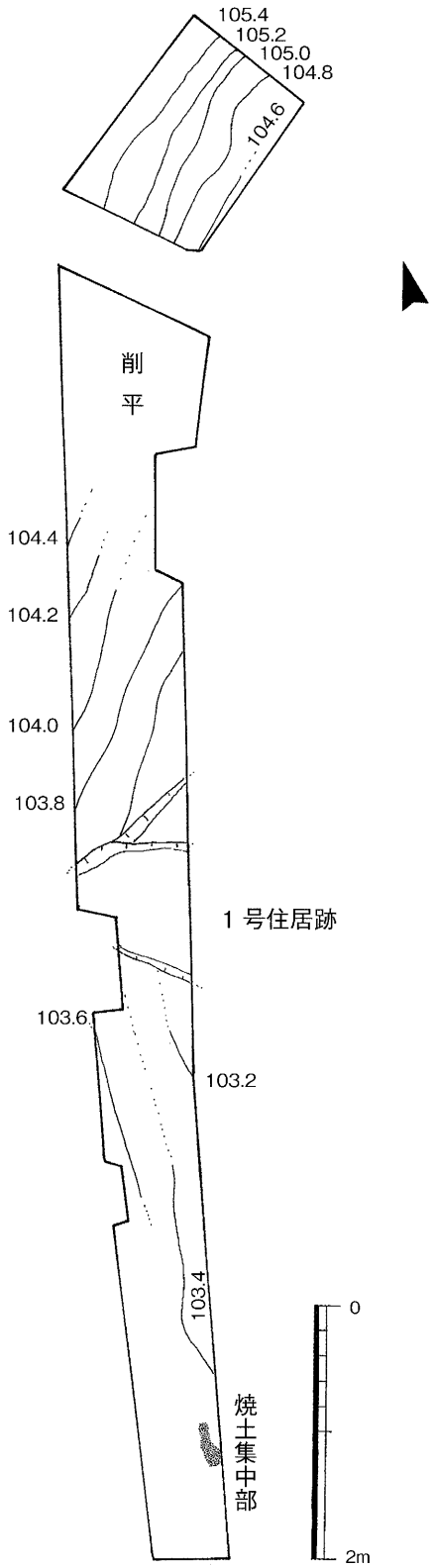
出土遺物

チャート製の剥片や縄文時代早期の土器片、弥生・古墳時代の土器片が出土している。

遺物の量は多くない。

まとめ

5区で調査した斜面のわずかな平坦部を利用して竪穴住居跡を営む事例が、少しずつではあるが増えている。県北地域の五ヶ瀬川中流域の集落の一端を垣間見るようで興味深い。周辺部の状況はどうなのか、開発等には十分注意しなければならない。



10. 6区遺構配置図（1／600）

11 区の概要

５・６区に比べて比較的安定した平坦部の台地上に位置している。北東側の五ヶ瀬川に向かって緩やかに傾斜する。「原」台地は、包含層も地形同様に比較的安定している。

調査区の北側はビニールハウスの排水パイプ工事により包含層のほとんどが削平されていた。

検出遺構

調査区の南側部分で竪穴住居を１軒と焼土集中部を、調査区の南端部分で土坑を１基検出した。

竪穴住居跡は一部分の調査のため詳細は不明である。付属施設としてベッド状遺構がある。床面は平坦で、主柱穴等に関しても不明である。凝灰岩の板状礫を壁に埋め込んだ、棚状のものが検出されている。出土遺物には、弥生・古墳時代の甕等がある。炭化物の分析で、1710±40YBP の年代が出ている。

焼土集中部は掘り込みが深く、焼土も 10cm の厚みがある。底は２段になっている。竪穴住居跡と同じ時期の遺物が出土している。炭化物の分析で、1770±40YBP の年代が出ている。

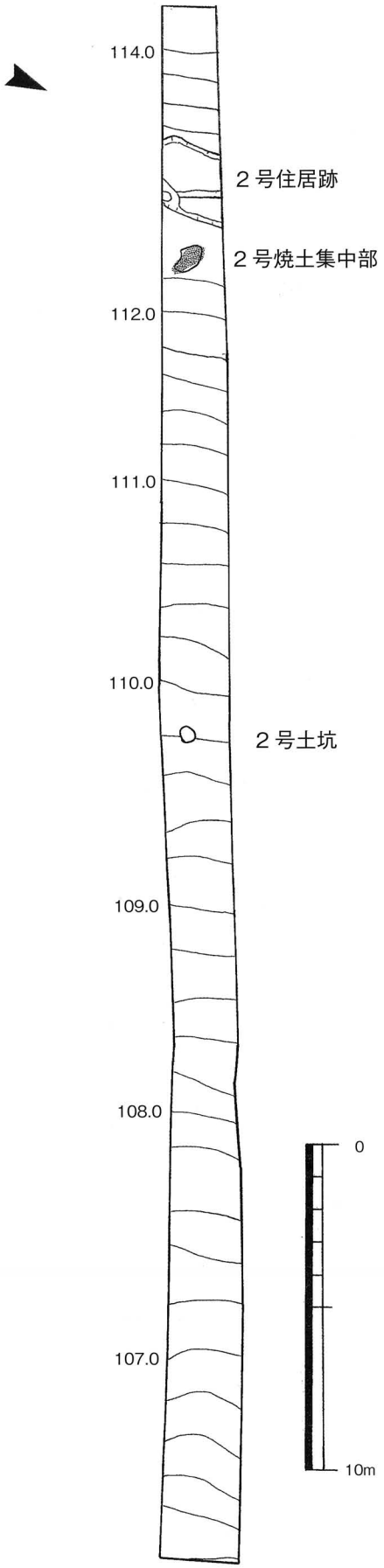
出土遺物

縄文時代早期の土器・石器が多く出土した。遺構に伴って、弥生・古墳時代土器・石器も充実している。

まとめ

周辺では、上崎地区一の立地条件が生かされ、縄文時代早期の集石遺構・連結土坑、弥生・古墳時代の竪穴住居跡が検出されている。

今回の調査地域外、あるいは調査区の間にも遺構の存在が予想される為、開発等には十分注意しなければならない。



11. 11 区遺構配置図（1／200）

13区の概要

「原」台地の北西側に位置している。調査区の北端から五ヶ瀬川に向かって急激に傾斜していく。

果樹園の造成によりかなり削平を受けているが、削平を逃れた部分から竪穴住居跡等を検出している。

柱穴も検出したが、調査区の制限から掘立柱建物復元できていない。現在は、大きく迂回する緩やかな傾斜の農道が利用されているが、以前には13区を利用して諸塚へ物資を運んでいたという。荷車の轍と思われる凹部と阿蘇溶結凝灰岩の岩盤を削って作った道の跡「諸塚往還」を確認した。

検出遺構

調査区の中央部分で竪穴住居を1軒と近接して縄文時代晩期の土坑を1基、時期不明の柱穴を若干、調査区南側で縄文時代早期の土坑を1基、中・近世期から現在まで使用したと思われる諸塚往還の一部を検出した。

出土遺物

縄文時代早期の土器・石器が多く出土した。

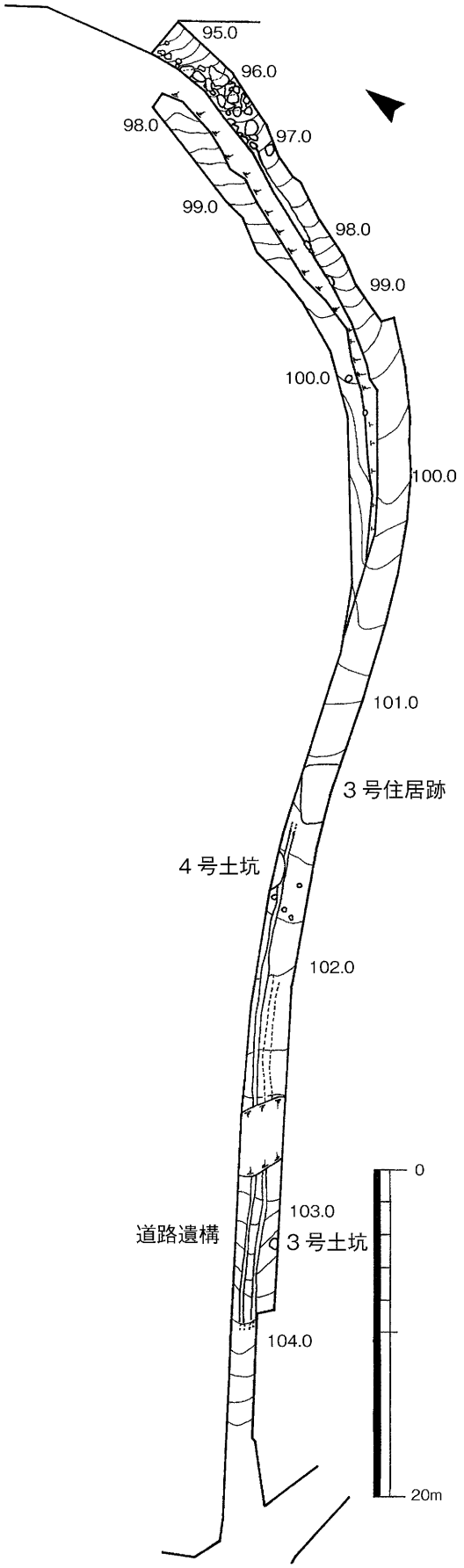
遺構に伴って、縄文時代早期の石鏃・環状石斧、縄文時代晩期の石器・土器、弥生・古墳時代の土器・石器が出土している。

まとめ

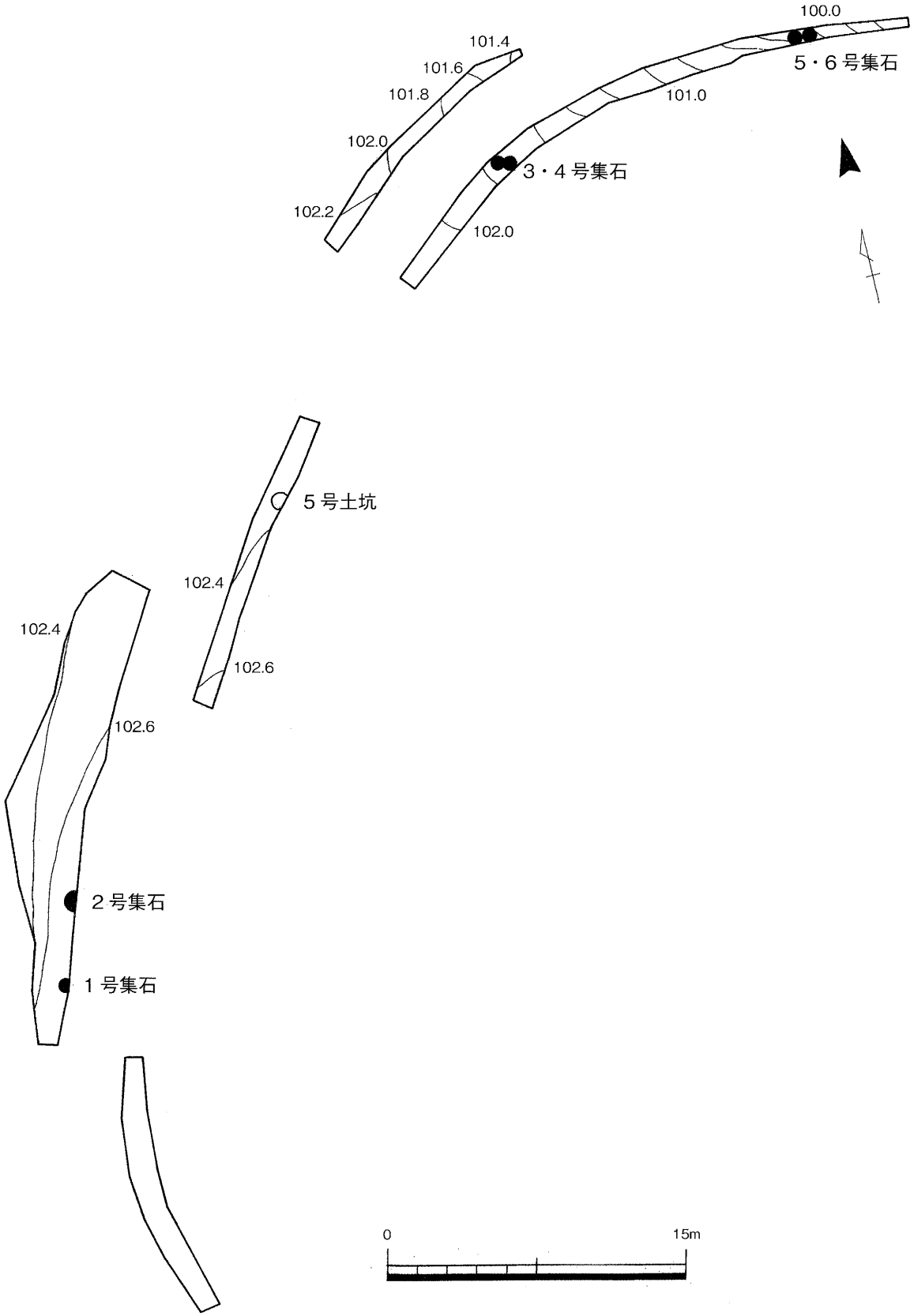
諸塚往還は、当初、城・滝下の船着場を発着としていたが、取り扱う産物の量が増加した為、次第に上崎や川水流、笠下へと分散して運ぶようになったといわれている。検出した諸塚往還は、阿蘇溶結凝灰岩の岩盤をかなり削り、勾配も工夫されており、工事量からその重要度が推察される。

幸いコンクリートで固められたものの大きく改変されずに残ることになった。

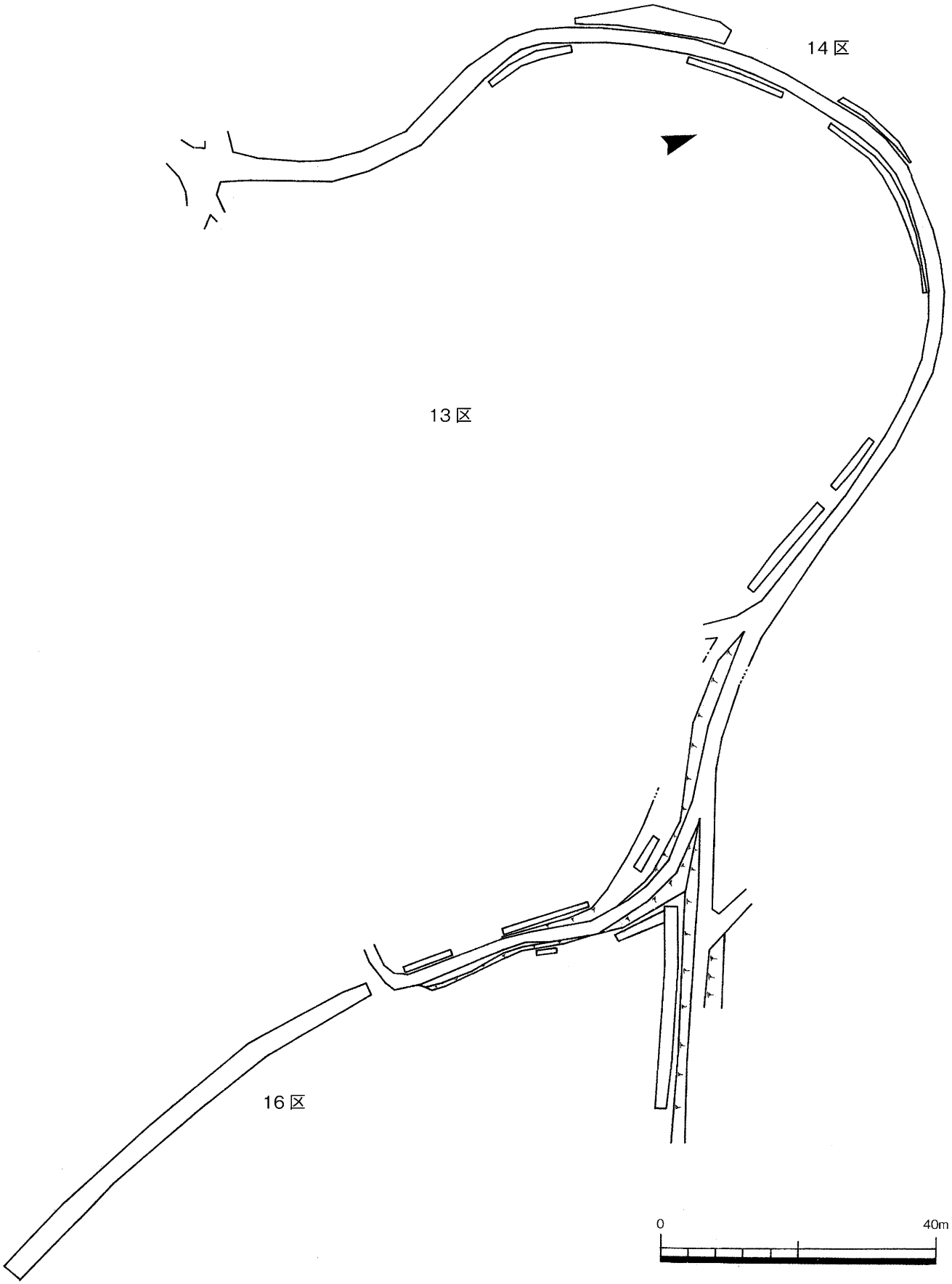
今後、こういった遺構にも目を向けて記録保存を図る必要がある。



12. 13区遺構配置図（1／400）



13. 14区（1次調査）遺構配置図（1／300）



14. 14区（1次調査）及び16区調査区位置図（1／800）

14区の概要

「原」台地の北西側の端部付近に位置している。調査区の北東端から五ヶ瀬川に向かって急激に傾斜していく。

地域住民の生活・作業用道路として使用頻度が高いため、交通の便と工事への迅速な移行を考慮して道路の横を中心に行った1次調査と、道路部分のみの調査を行った2次調査の2ヵ年に分けて調査を実施した。道路開設関係によるものか、コンクリートを剥ぐとすぐに縄文時代早期の集石遺構を検出した。

また、大分改変を受けていたが、竪穴住居跡を1軒検出した。

検出遺構

縄文時代早期の集石遺構12基、V層下面から掘り込まれた土坑1基、弥生・古墳時代の竪穴住居跡1軒を検出した。

出土遺物

縄文時代早期の土器・石器が多く出土した。

遺構に伴って、弥生・古墳時代の土器・石器が出土している。

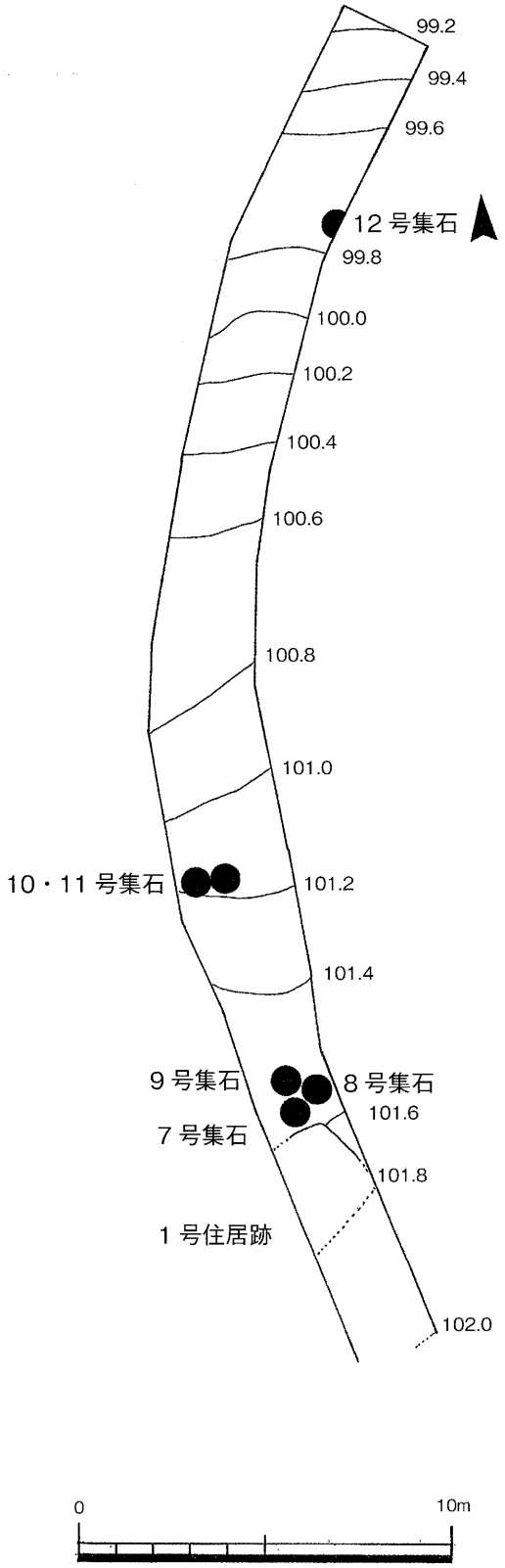
旧石器時代の包含層から、流紋岩製の剥片が若干出土した。

まとめ

地域へ配慮した調査ではあったが、遺構の一環した調査という観点では無理があった。地元に配慮しつつ、調査に伴う十分な期間を以下に確保してくか。今後に残された課題である。

また、道路幅だけではなく、工事車両に絡んだ付帯工事にも関心を払う必要がある。

竪穴住居跡は、木の根による影響からか壁の立ち上がりが不明瞭で、踏み固められた床面がなくなったところを竪穴住居跡の範囲としている。



15. 14区（2次調査）遺構配置図（1／200）

16区の概要

「原」台地の北東側の端部付近に位置している。調査区の北東端から五ヶ瀬川に向かって急激に傾斜していく。

アカホヤ火山灰層の堆積も良好であるが、一部を除き、V層までの調査を行っていない。

検出遺構

縄文時代早期の集石遺構1基と弥生・古墳時代の土坑1基を検出した。その他、倒木痕と撹乱と思われる土坑を検出した。内部には、縄文時代早期から古墳時代までの遺物が混在している。

出土遺物

旧石器時代及び縄文時代早期の包含層から若干の遺物が出土した。

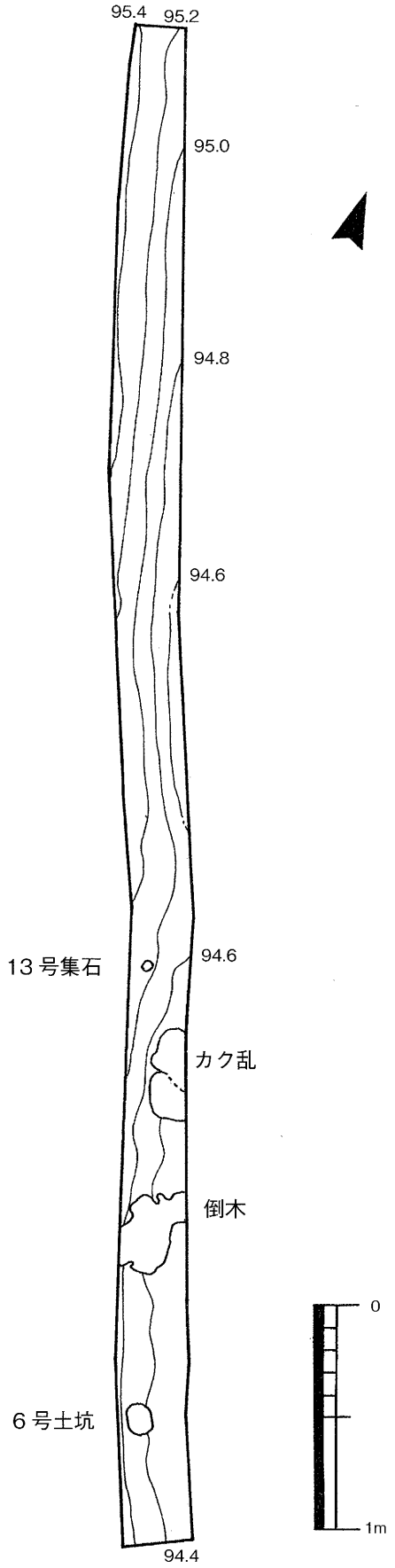
遺構に伴って、弥生・古墳時代の土器・石器も若干出土している。

まとめ

比較的良好な地理的条件を備えていたが、集石遺構及び土坑を各1基検出したにとどまった。

16区に直交する形で排水建設に伴う17区を調査し、弥生・古墳時代の竪穴住居跡を1軒検出した。

調査地の幅は僅かに80㎝である。



16. 16区遺構配置図（1／300）

17区の概要

「原」台地の北東側の端部付近に位置している。13区及び16区をつなぐ調査区であるが、排水路工事に伴う調査のため、幅は僅かに80㎝である。

それでも、竪穴住居跡を1件検出している。

検出遺構

弥生・古墳時代の竪穴住居跡を1軒検出した。

出土遺物

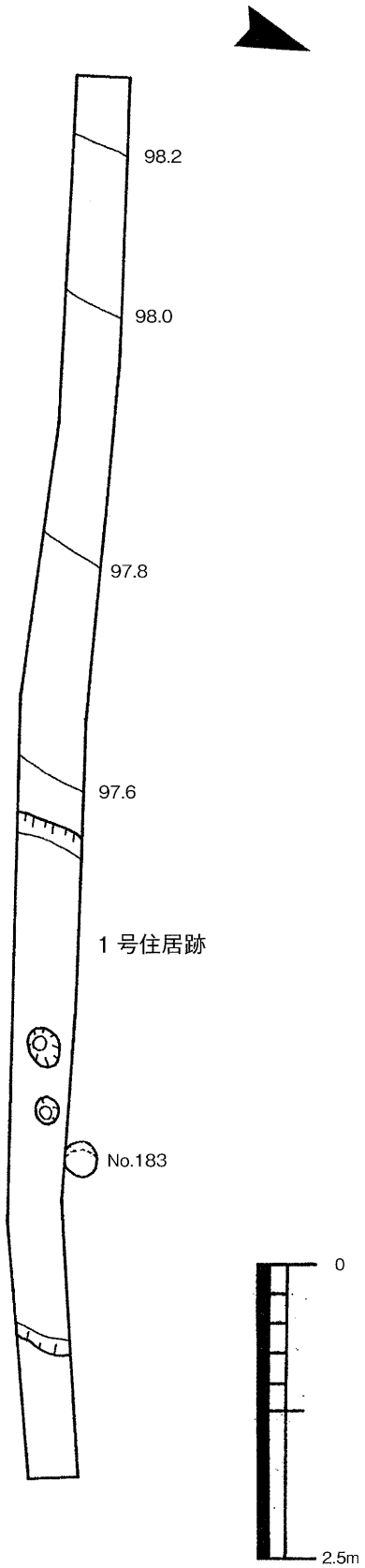
壁際ぎりぎりで弥生・古墳時代の甕の口縁部が出土している。

縄文時代早期及び旧石器時代の包含層から遺物が出土しているが、量は多くない。

まとめ

比較的厳しい調査条件であったが、竪穴住居跡を検出できたことは1つの成果であった。今後も僅かな条件でも整えば、調査を行う必要がある。

遺物包含層は安定しており、今回のような調査を今後とも積み重ねていく必要がある。



17. 17区遺構配置図（1／60）

23区の概要

「原」台地の南東側の端部付近に位置している。調査区の南東端から五ヶ瀬川に向かって急激に傾斜している。

作業道の改良工事に伴う調査である。アカホヤ層の一部まで削平されていた。竪穴住居跡1軒、土坑1基、溝1基を検出した。遺物は多くはない。

竪穴住居跡内より旧石器時代の使用痕剥片が出土している。

検出遺構

縄文時代晩期の土坑1基と弥生・古墳時代の竪穴住居跡1軒を検出した。その他に、時期不明の溝を1基検出している。

出土遺物

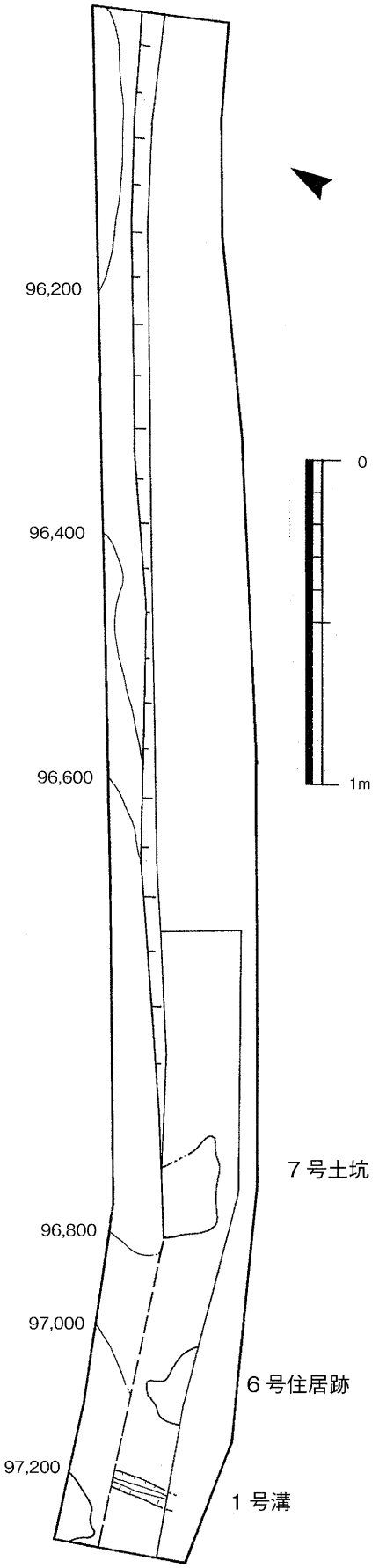
縄文時代早期の土器・石器が若干出土した。

遺構に伴って、弥生・古墳時代の土器・石器も若干出土している。

まとめ

作業道のため、アカホヤ火山灰層の一部を残し上部は削平されていたが、Ⅳ層下面で竪穴住居跡、土坑、溝を検出した。

傾斜地であれば、包含層や遺構が削平を免れて残されている可能性が高い。周辺の開発には十分注意する必要がある。



18. 23区遺構配置図（1／200）

番号	遺構名		調査区	長軸	短軸	深さ	出土遺物(遺物番号)	備考(付属施設等)
1	1号	集石遺構	14区(1次)	70	60	15	石器 (8)	一部削平、遺物は別時代(?)
2	2号	集石遺構	14区(1次)	140	80+	20	なし	一部のみの調査
3	3号	集石遺構	14区(1次)	(85)	(50+)	15	なし	一部削平、4号と近接する。
4	4号	集石遺構	14区(1次)	40	30	15	石器 (6)	一部削平、3号と近接する。
5	5号	集石遺構	14区(1次)	65	(50+)	15	なし	一部削平、6号と近接する。
6	6号	集石遺構	14区(1次)	(115)	(100)	20	なし	一部削平、5号と近接する。
7	7号	集石遺構	14区(2次)	105	100	20	土器 (14.15)	人頭大の川原石を使用、8・9号と近接する。
8	8号	集石遺構	14区(2次)	(65+)	50	13	なし	7・9号と近接する。敷石を使用する。
9	9号	集石遺構	14区(2次)	85	70	28	なし	7・8号と近接する。敷石を使用する。
10	10号	集石遺構	14区(2次)	130	(90)	25	土器 (9.10.12)	一部のみの調査、11号と近接する。
11	11号	集石遺構	14区(2次)	(95+)	90	20	土器 (5.11)	10号と近接する。
12	12号	集石遺構	14区(2次)	(105+)	(60+)	20	なし	一部のみの調査
13	13号	集石遺構	14区(1次)	50	40	12	土器 (16) 打製石斧 (7)	アカホヤ層～Ⅳ層上面まで削平
14	1号	竪穴住居跡	6区	(350+)	(235+)	(45)	なし (周辺に同時代土器:150～151)	ベット状の遺構、一部のみの調査
15	2号	竪穴住居跡	11区	210+		80	土器 (152～158)	礫棚(?)ベット状の遺構、一部のみの調査
16	3号	竪穴住居跡	13区	360	240+	40	土器・石器 (159～161)	
17	4号	竪穴住居跡	14区(2次)	(280+)		30	土器・石器 (162～182)	浅い土抗(焼土多?)、一部のみの調査
18	5号	竪穴住居跡	17区	440	(80+)	55	土器 (183～188)	pit有、一部のみの調査
19	6号	竪穴住居跡	23区	(285+)	(100+)	93	土器 (189～190)	階段状施設、一部のみの調査
20	1号	土抗	5区	60	53	13	なし	
21	2号	土抗	11区	55	52	9	土器 (191～192)	
22	3号	土抗	13区	160	140	8	土器・石器 (4～5)	一部のみの調査
23	4号	土抗	13区	(225+)	(70+)	42	土器・石器 (17～20)	一部のみの調査
24	5号	土抗	14区(1次)	95	(55+)	35	土器	一部のみの調査
25	6号	土抗	16区	100	85	20	土器・石器	
26	7号	土抗	23区	(360+)	(96)	86	石器 (21)	階段状施設、一部のみの調査 住居跡(?)
27	1号	焼土集中部	6区	173	88		なし	焼土の厚み 5cm
28	2号	焼土集中部	11区	118	65	28	土器	上面に焼土が厚く堆積 (10cm)
29	1号	溝	23区	(163+)	57	10	なし	一部のみの調査

(　　)は検出部分の計測値　単位はcm

19. 検出遺構一覧表

４．遺構と遺物

旧石器時代

主にⅥ層上面から出土している。上部が削平されている調査区の一部や竪穴住居跡内からの出土例がほとんどで、量も多くない。遺構の検出もなかった。工事の大半が、旧石器時代包含層まで達するものでないため、ほとんどの地区で包含層が保存されることになった。

１は、頁岩製の剥片尖頭器である。石材が良質ではなく、全体に荒い加工が施されている。片面には自然面をそのまま残している。先端部は欠損している。

２は、流紋岩製のスクレイパーである。形状は先頭状石器に似る。先端部を作り出し、全周に丁寧な加工を施している。先端部は欠損している。

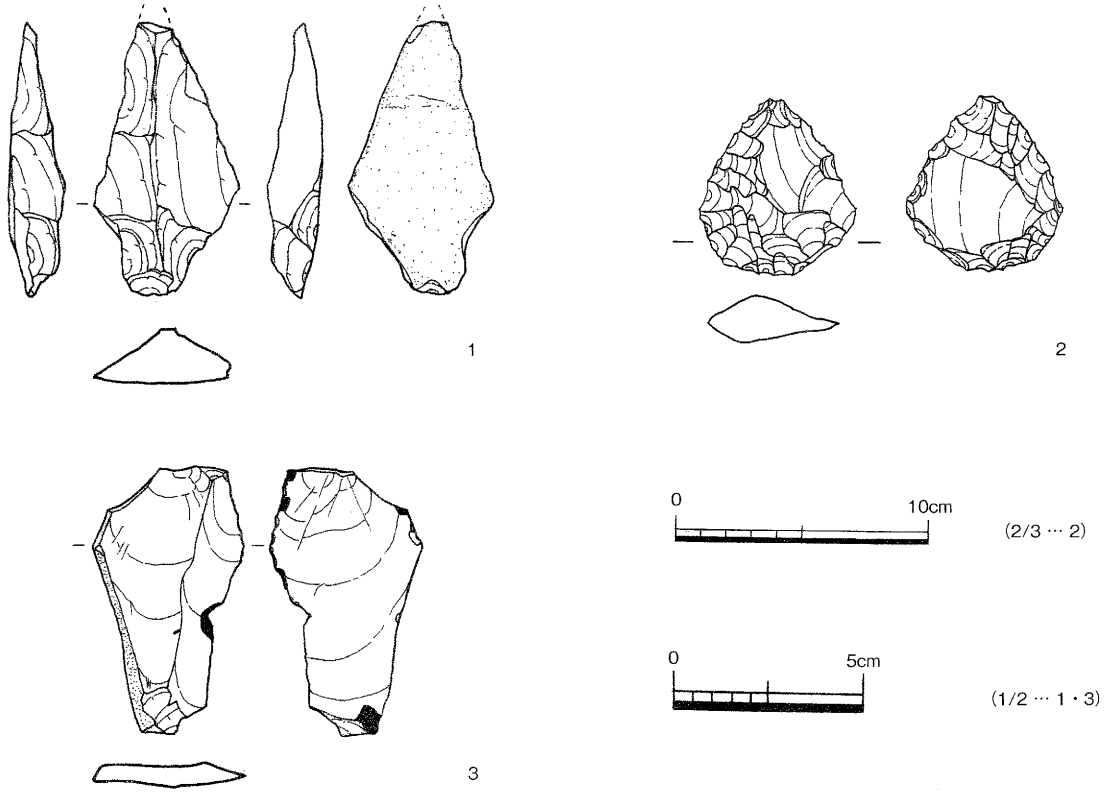
３は、流紋岩製の使用痕剥片である。１号竪穴住居跡内より出土している。打面を有し、一部に自然面が残る。

上崎地区遺跡については、調査区の制約からAT層までの掘り下げは行なっていない。五ヶ瀬川を挟んだ対岸には、蔵田遺跡、駄小屋遺跡、矢野原遺跡などの旧石器時代の遺跡が所在する。

特に、矢野原遺跡ではAT層下位の黒色帯のさらに下層から遺物の出土例があり、上崎地区でも良好な包含層が残されている可能性が高い。

縄文時代早期

主にアカホヤ層の上面で土坑１基を、下面で集石遺構１２基と土坑２基を検出した。また、Ⅳ層に掘り込まれる形で集石遺構を１基検出したが、アカホヤ層及びⅣ層の一部が削平され、寄せられた礫と一緒に砂岩製の打製石斧と撚糸文土器が出土している。遺物の集中部分は11区・13区・14区の一部で見られる。しかし、ほとんどの調査区で量は少ないが確実に出土している。



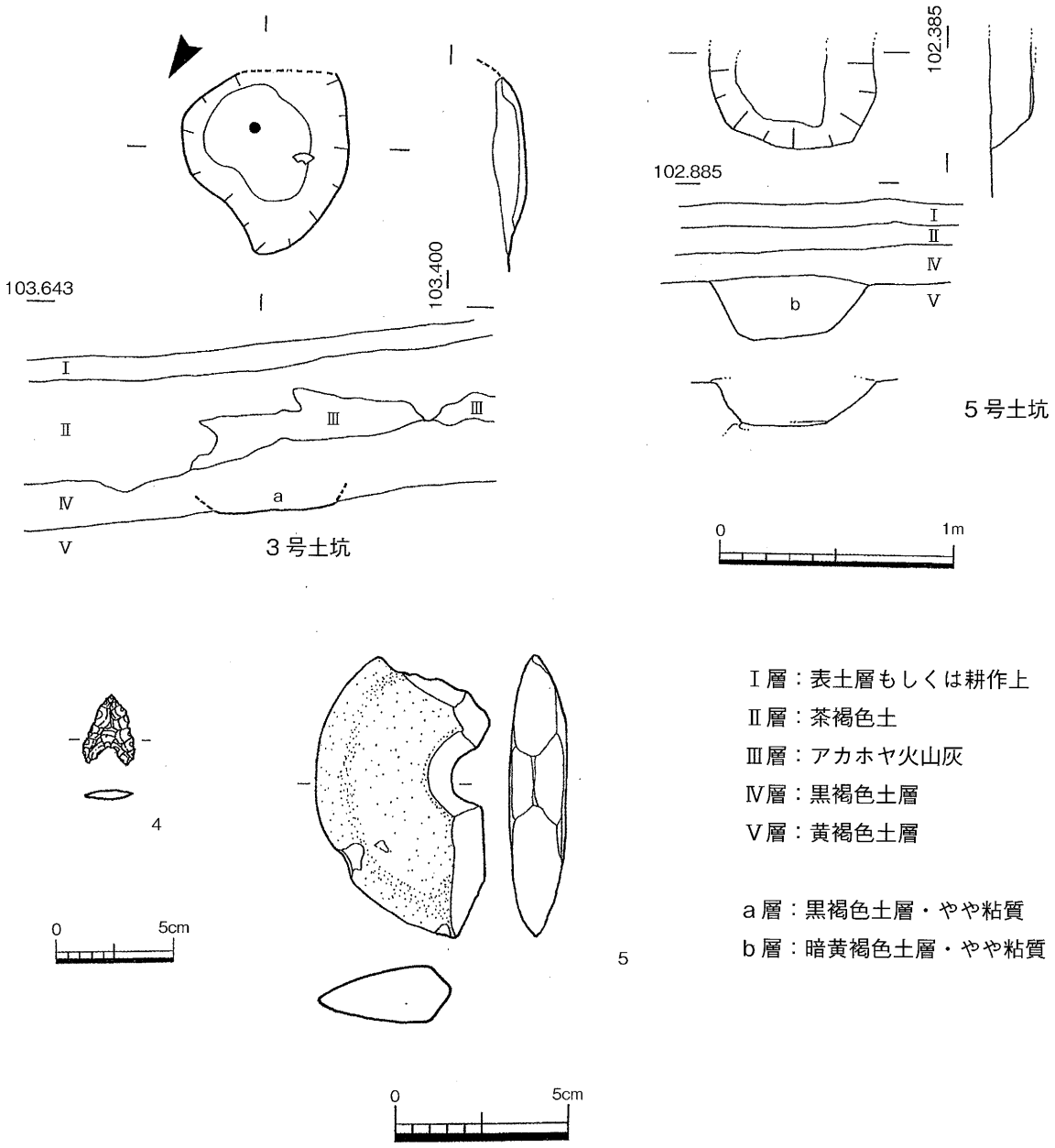
20. 旧石器時代出土遺物（石器）実測図（1／2・2／3）

3 号土坑及び 5 号土坑は、アカホヤ層の下位で検出された。いずれも一部用地外へ延びている。平面形はやや変形した円形である。3 号土坑はⅤ層の上面をやや浅く削った程度であるが、5 号土坑は下面までの深さが約 35cm ある。5 号土坑ではチャート製石鏃（35）の他若干の遺物が出土した。

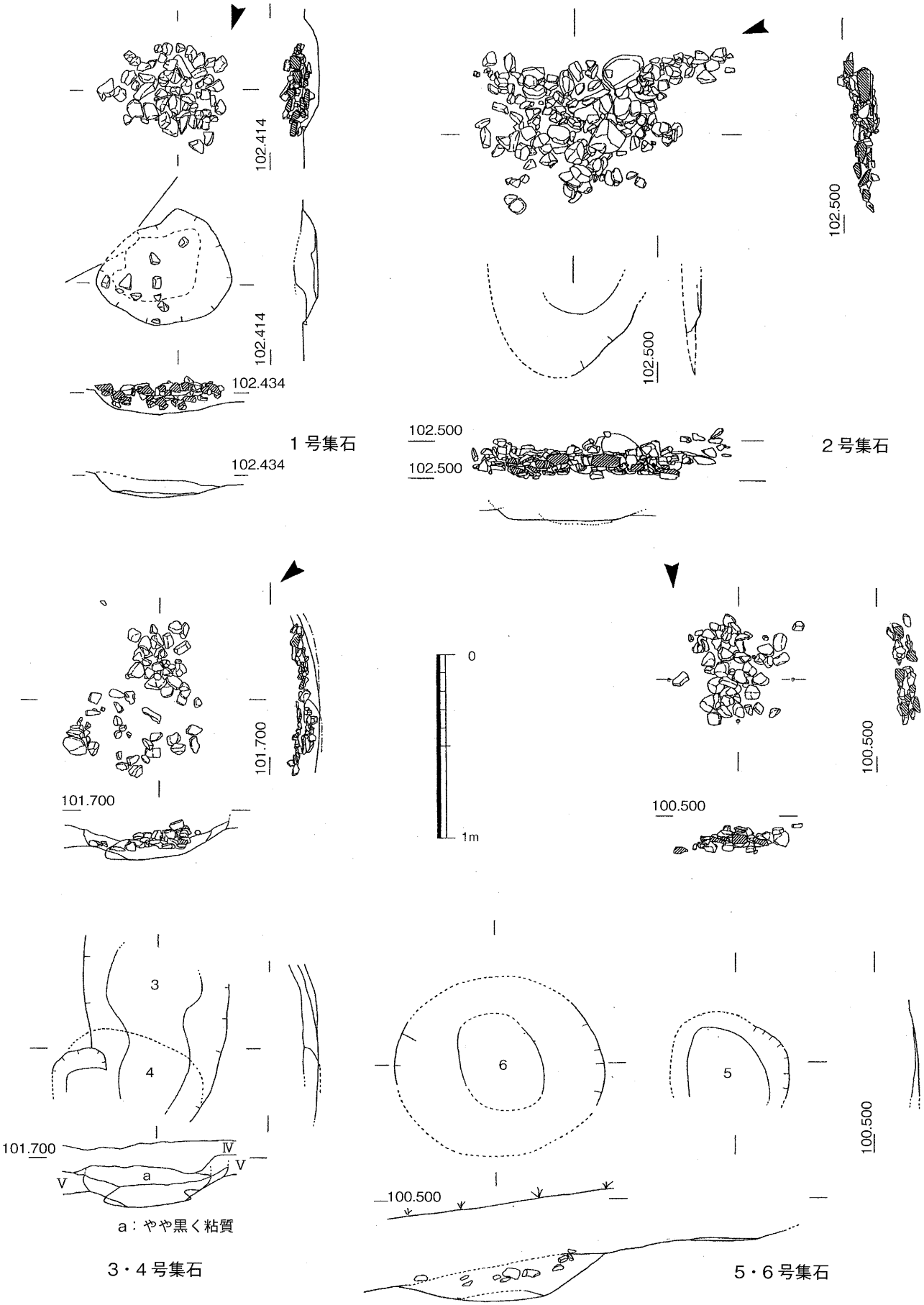
3 号土坑では、チャート製の石鏃と砂岩製の環状石斧が各 1 点出土した。環状石斧は薄手で、半分欠損している。

集石遺構は、13 基検出した。敷石を有するものが 2 基（7・8 号）、近接するタイプが 3 例（3・4 号、5・6 号、10・11 号）、人頭大の川原石を集めたものが 1 基（9 号）検出された。その外に、縄文時代早期の撚糸文遺物と後・晩期所産と思われる打製石斧が礫と一緒にまとめられている事例が 1 基（13 号）ある。

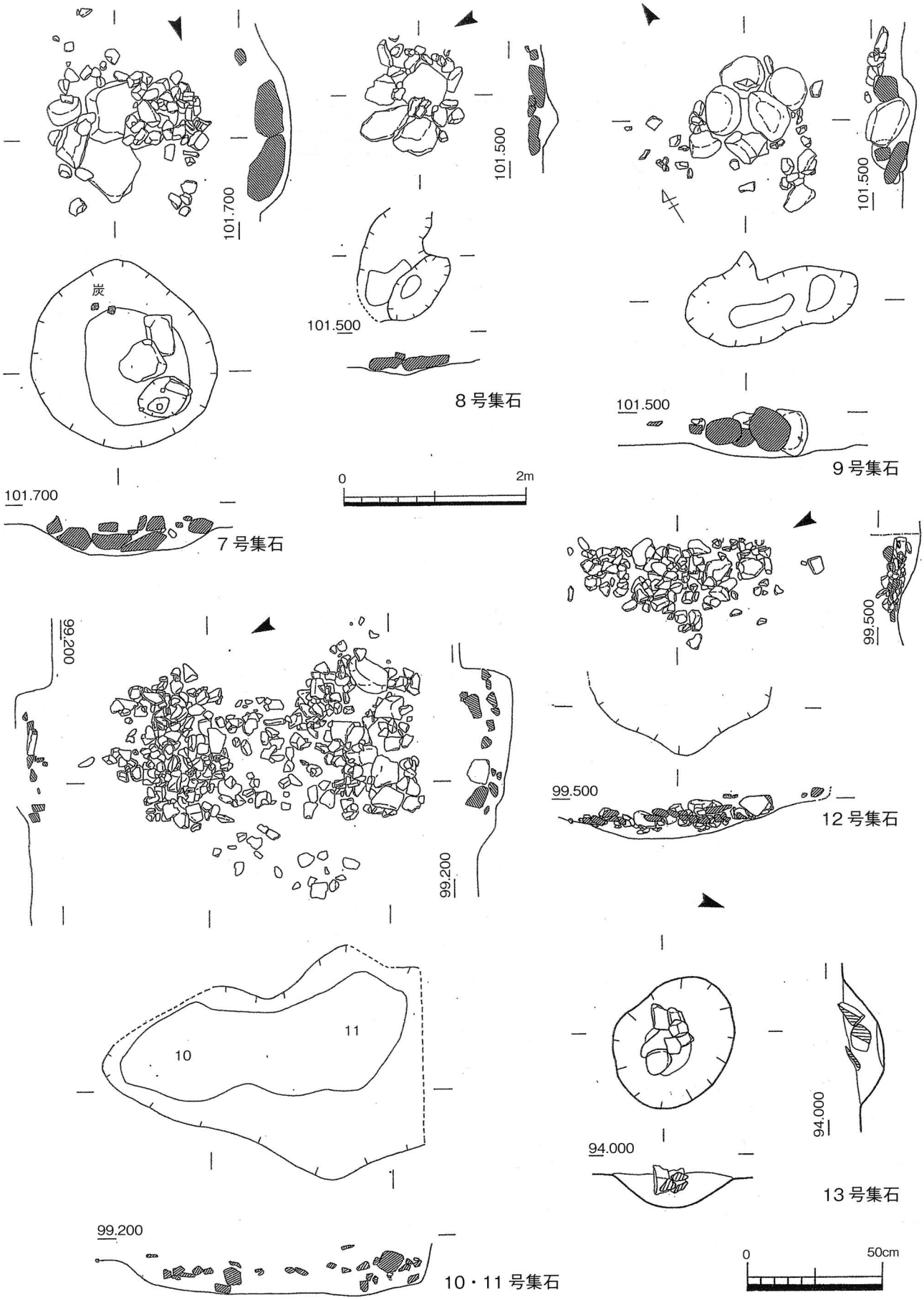
集石遺構からの出土遺物は少なく、土器は一例を除き全て楕円押型文である。



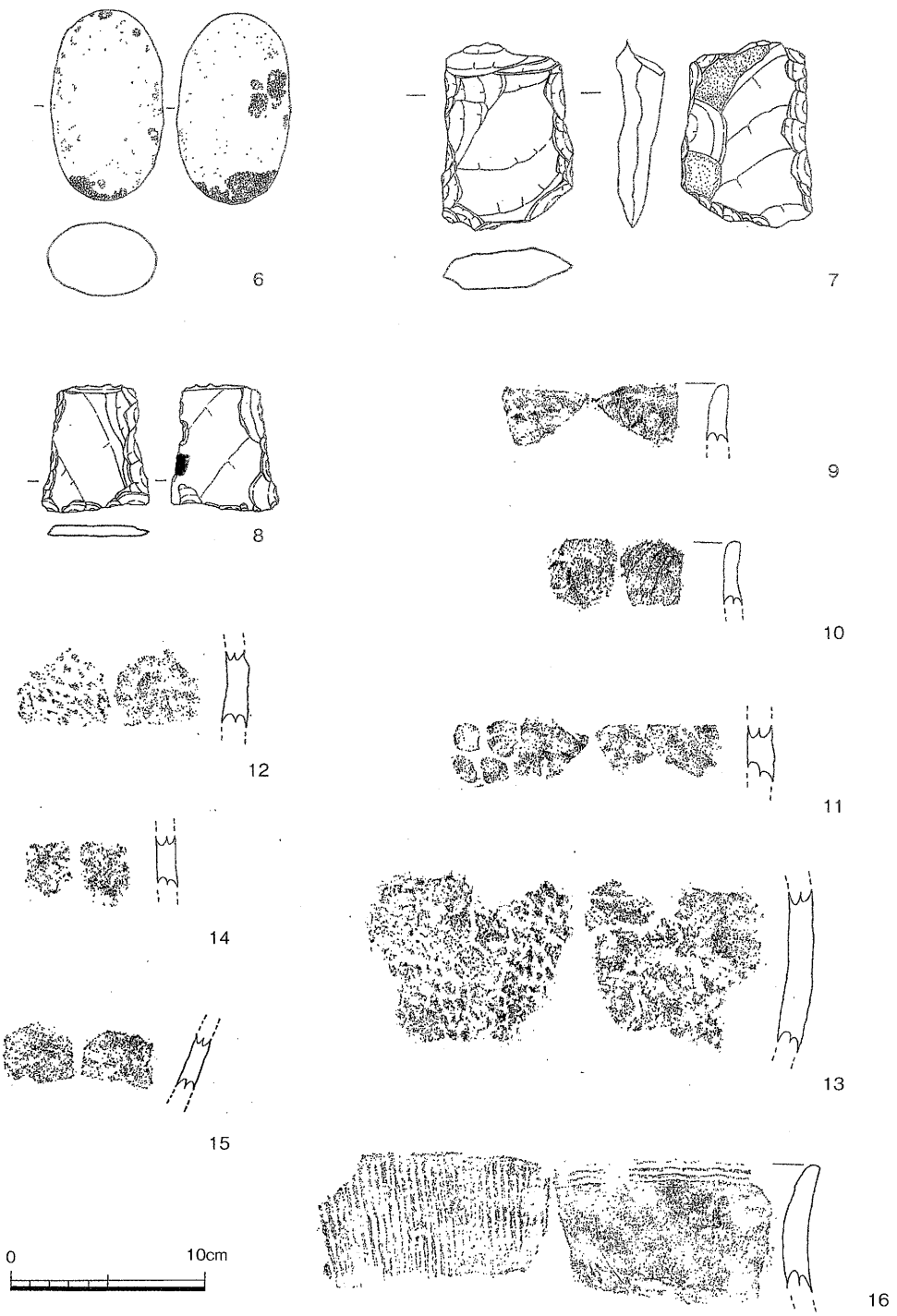
21. 縄文時代早期土坑実測図（1／30）及び出土遺物（1／3・2／3）



22. 集石遺構実測図①（1／30）



23. 集石遺構実測図②（1／20〈13号集石のみ〉・1／30）



24. 集石遺構内出土遺物実測図（1／3）

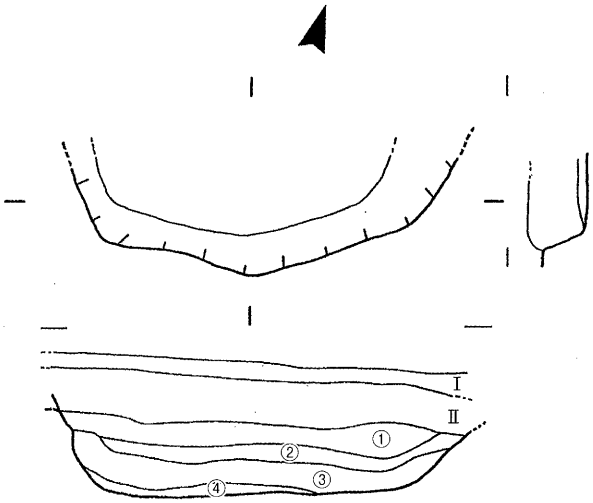
また、狭い調査範囲の影響からか集石遺構の一部が用地外へ延びる例が多い。竪穴住居跡や上部からの撹乱もあり、№8のような打製石器や弥生土器片が集石遺構の間から出土している。

6は、阿蘇溶結凝灰岩製の叩石である。端部に打痕が見られるものの顕著ではない。赤変している。

7は、砂岩製の打製石斧である。一部自然面が残り、上部半分と刃部が欠損している。

8は、千枚岩製の打製石器である。収穫具の一部とも考えられるが、欠損の為詳細は不明である。一部に磨痕が残り、縁の部分に丁寧な加工が施される。

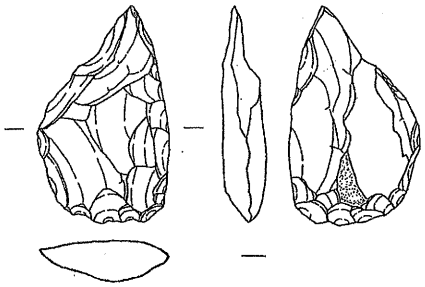
9～15は、楕円押型文土器である。9～11は楕円粒が大きく、灰褐色を呈する。12と13・16は器壁が厚い。撚糸文を表面は縦方向に、口唇部裏面には横方向に施文する。



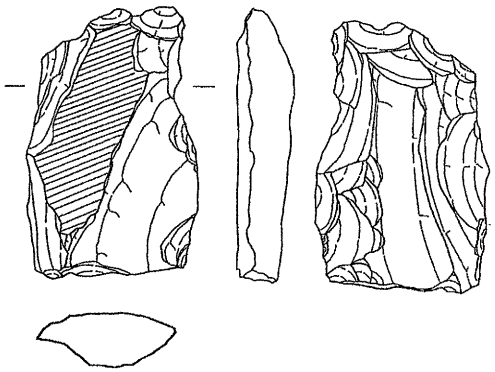
Ⅰ：表土
Ⅱ：茶褐色土
①：暗茶褐色土（パサつく）
②：黒褐色土（パサつく）
③：明黄褐色土（やや粘質）
④：暗黄褐色土（粘質）

0　2m

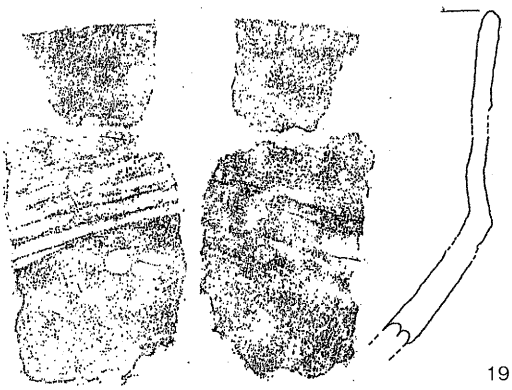
4号土坑



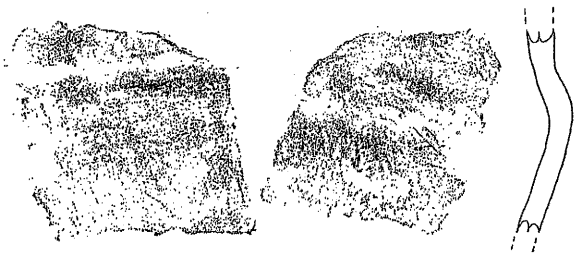
17



18



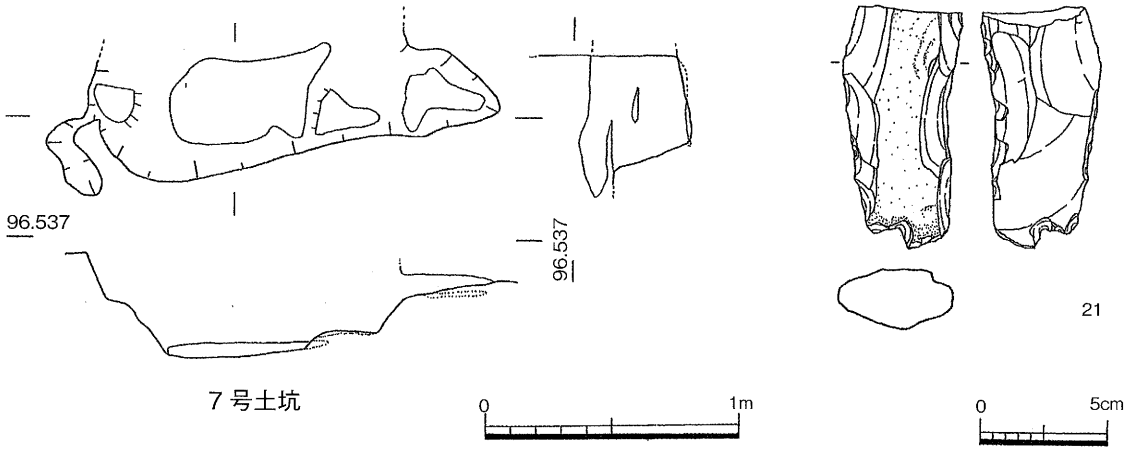
19



20

0　10cm

25. 縄文時代晩期土坑実測図①（1／30）及び出土遺物実測図（1／3）



26. 縄文時代晩期土坑実測図②（1／60）及び出土遺物実測図（1／3）

縄文時代後・晩期

北方地域では、この時期の遺構の検出は早期に比べて極めて少ない。上崎地区遺跡では、土坑を2基検出するにとどまった。黒色磨研土器が 16 区の倒木痕内及びその周辺で比較的まとまって出土している。

4号土坑及び7号土坑は、アカホヤ層上面で検出した。いずれも一部用地外へ延びている。

4 号土坑の平面形は円形と思われるが、大部分は用地外にあり詳細は不明である。床面は平坦である。付属施設等は不明である。

出土遺物には砂岩製の打製石斧（17・18)、精製磨研土器の浅鉢（19・20）等が出土している。

17 と 18 は砂岩製の打製石斧である。17 は細身で薄く全体に丁寧なつくり、18 はやや幅広で厚く荒い加工が施される。

19 と 20 は精製磨研土器の浅鉢である。この他、粗製深鉢の胴部片も出土している。

19 は外側から穿孔されている。頸部から胴部への屈曲部に浅い沈線が 4 条施文されている。口縁部から頸部にかけてススが付着している。

7 号土坑は、平面形は不定形で、両端には段が作られる。遺物も砂岩製の打製石器（21）を除いて出土していないので、詳細は不明である。

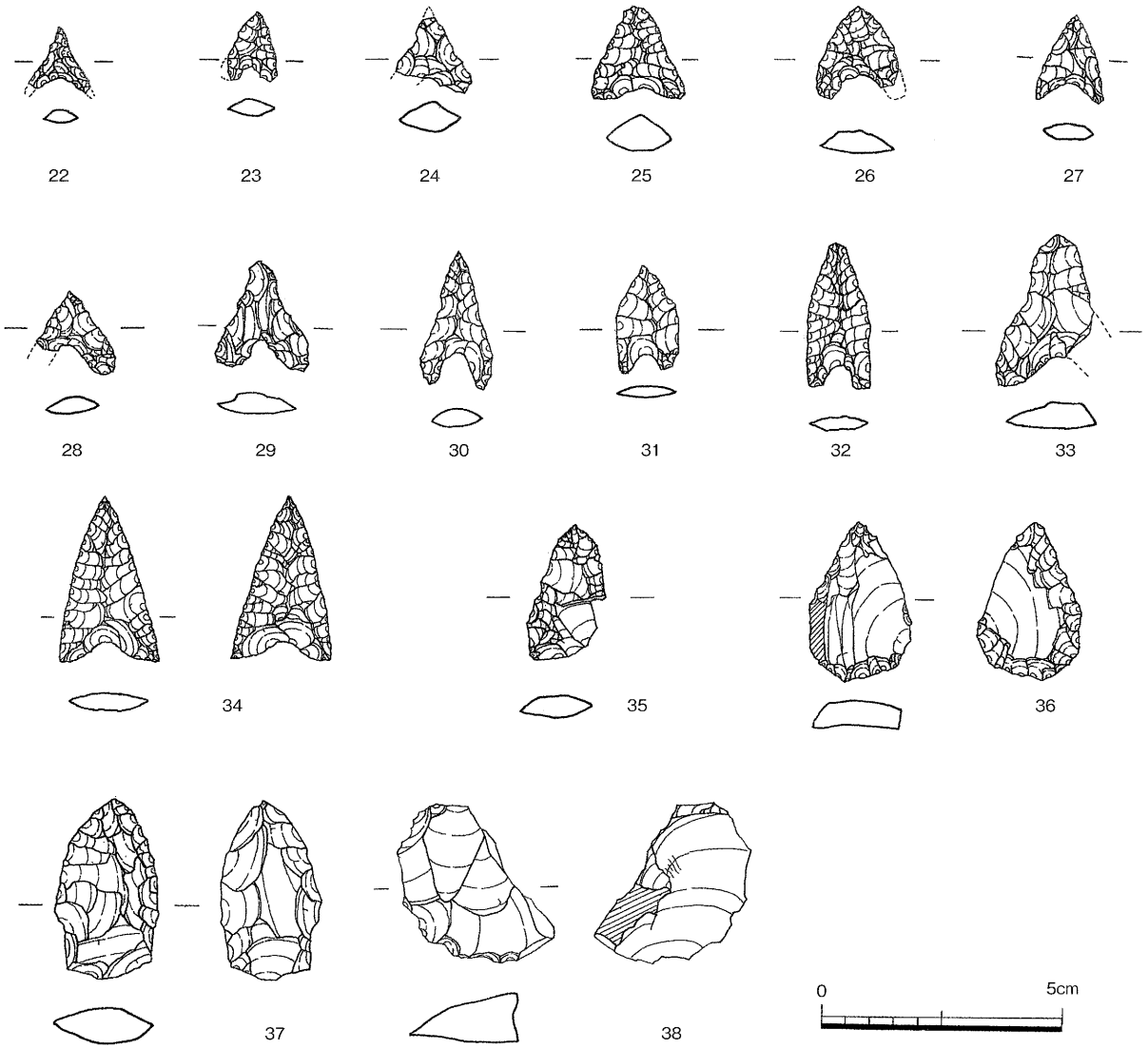
21 は砂岩製の打製石器である。半分は欠けているが、全体は三日月状をしていたと思われる。自然面を有し、中央部は厚く、端部に向かって刃部を作り出す加工が見られる。収穫具として使用されたと思われる。刃部は一部欠損している。

縄文時代の石器

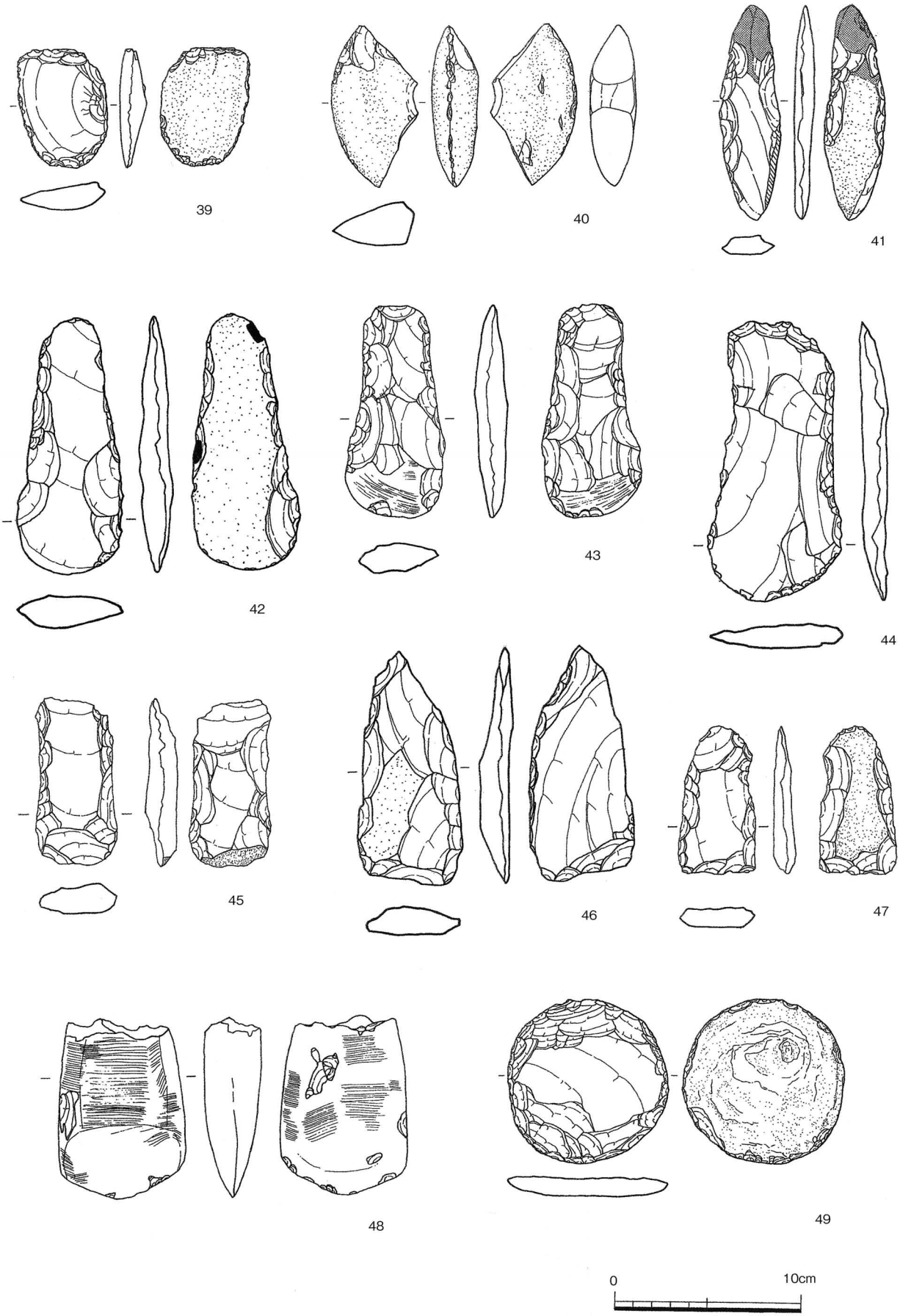
縄文時代の石器として、石鏃、スクレイパー、環状石斧、石槍、打製石斧、磨製石斧、礫器、石核、磨石、凹石、石皿等が出土している。包含層として比較的まとまって出土するのは、11 区、13 区、14 区である。量的には少ないものの、外の調査区でも出土している。環状石斧や石槍、蛇紋岩製の磨製石斧、局部磨製石斧、石皿などの重要な石器の多くは表採品である。これらの遺物の多くは、調査区以外の畑の隅に焼け石と一緒に無造作に寄せられていた。今後、周辺の面的な調査が切望される。

22 から 35 は石鏃である。石材はチャートが多く、流紋岩や安山岩・ホルンフェルスなども使われている。形態はすべて凹基無茎鏃で、基部の抉りが非常に深い鍬型鏃の他、抉りが浅く長さが長いタイプや幅と長さが同じくらいのものがある。

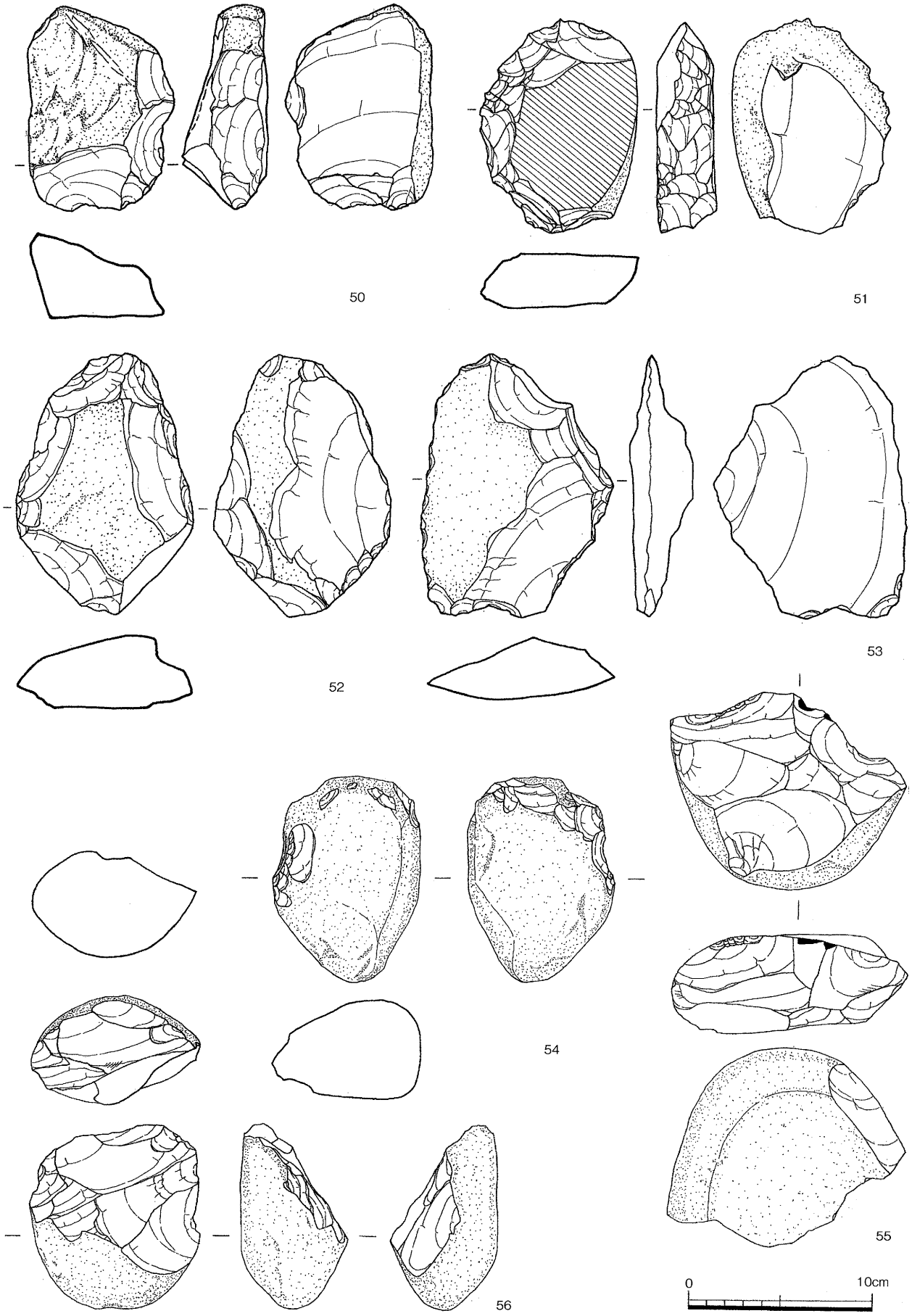
36 はチャート製のスクレイパーである。先端部は錐としての機能も考えられる。人差し指を当てる部分を切断技法にて作り出している。



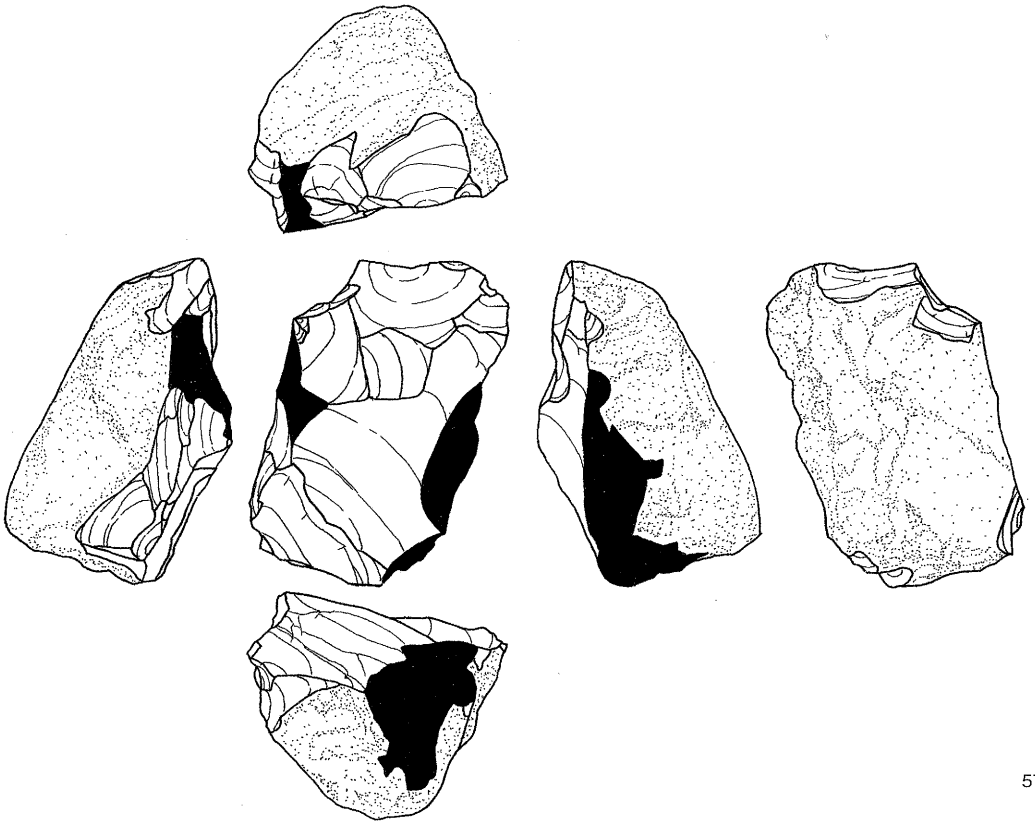
27. 縄文時代出土遺物①（石器）実測図（2／3）



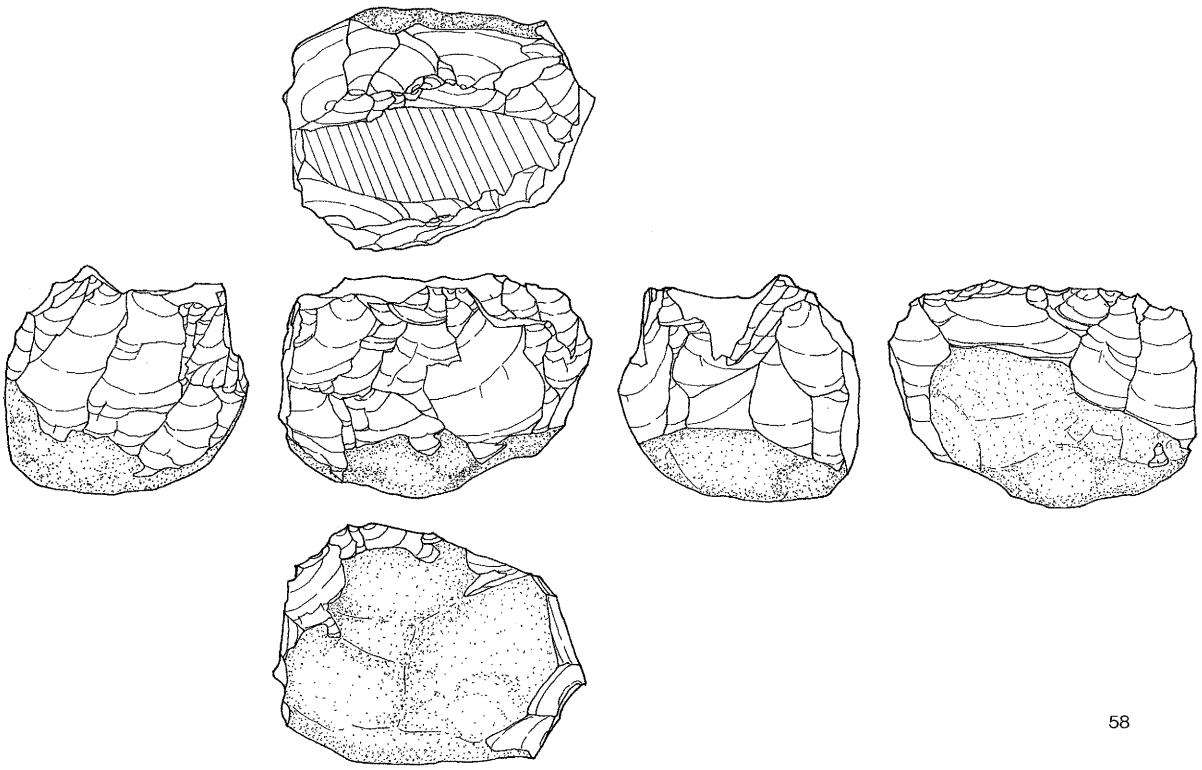
28. 縄文時代出土遺物②（石器）実測図（1／3）



29. 縄文時代出土遺物③（石器）実測図（1／3）



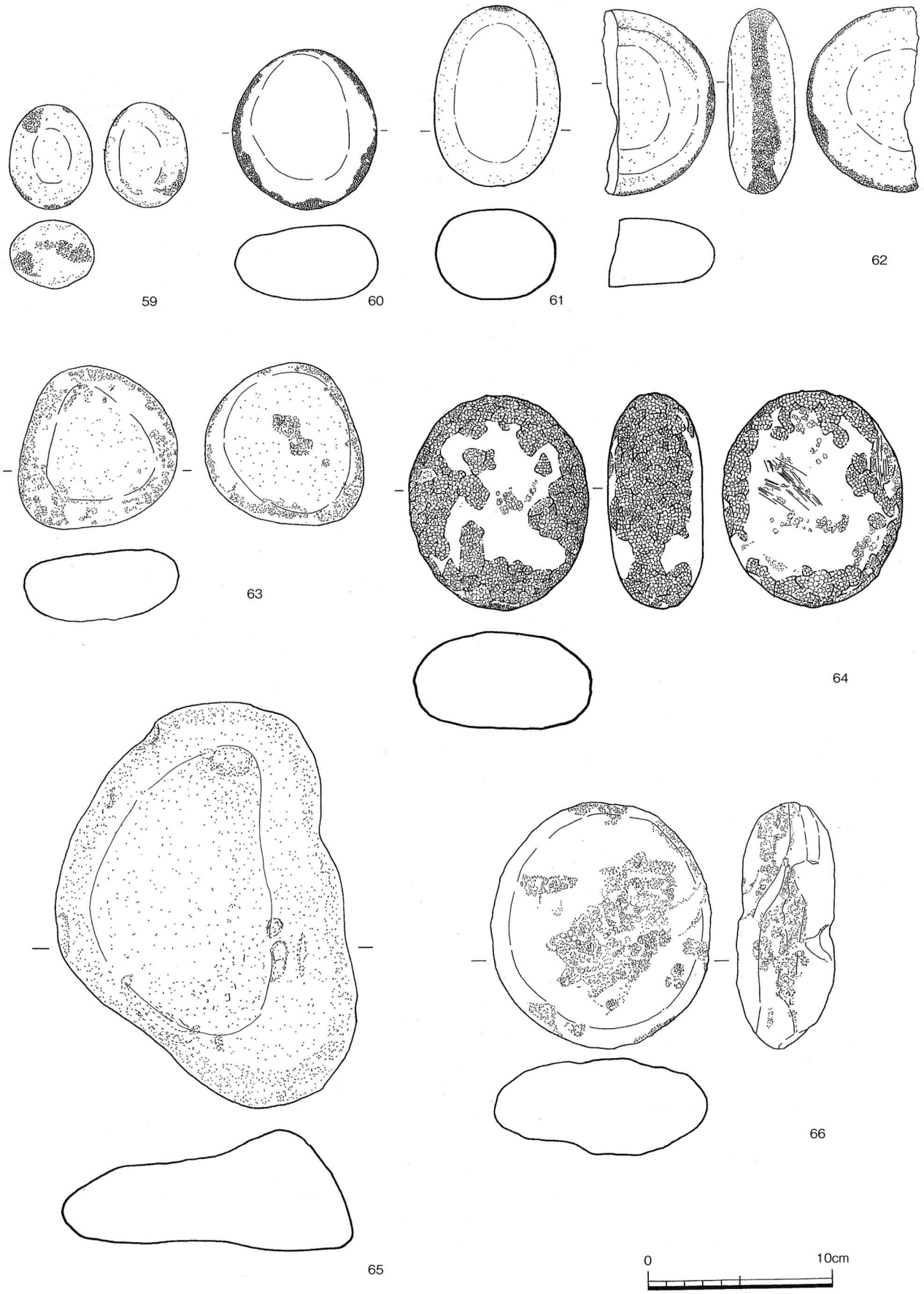
57



58

0 10cm

30. 縄文時代出土遺物④（石器）実測図（1／3）



31. 縄文時代出土遺物⑤（石器）実測図（1／3）

37はホルンフェルス製の石器で、基部が欠損している。両面ともに丁寧な加工によって丸みを帯びた先端部を作り出している。中央部にはかすかな磨痕が残る。形態的な特徴から石鏃としたが、類例が少なく詳細は不明である。

38はチャート製のスクレイパーである。鋸歯状の加工が施される。

39は頁岩製のスクレイパーである。全周に細かい加工を施す。半面はすべて自然面である。

40はホルンフェルス製の環状石斧である。5に比べ厚手である。2/3が欠損している。

41はホルンフェルス製で石槍と思われる石器である。一方の端部には粗い磨痕が見られる。

42～47は砂岩製の打製石斧である。42の半面はすべて自然面である。43の刃部は丁寧な磨きによって作り出されている。44から47は扁平打製石斧である。45と47は幅身が狭く小ぶりである。

48は蛇紋岩製の磨製石斧である。上部が欠損している。刃部がきれいなU字形をなしていない。蛇紋岩製の磨製石斧は、北方地区でも出土例は多くない。石材である蛇紋岩も五ヶ瀬川上流域に包蔵地があり比較的手に入れにくいため、刃こぼれを丁寧に再生しながら使ったのではないかと思われる。

49は緑色岩製で、片面に自然面の残し円形に仕上げた打製石器である。

50から54は礫器である。石材は、50・51が頁岩、52から54が砂岩製である。

55から58は石核である。石材は55・56がホルンフェルス、57・58は流紋岩である。55・56は礫の一面からのみ剥離を行っている。57は打面調整後に打面を移動させながら剥離を行っている。58は打面形成後にその打面を基準にして剥離作業が行われている。

59から64は敲打器である。59から62が砂岩、63と64は祖母系火山岩類である。59から61には部分的に、63と64には両面に磨痕が入る。63には加工によって凹部を作り出している。

65は砂岩製の石皿で、中央部がかなり凹んでいる。

66は凝灰岩製の石器で両面に比較的大きな凹部を作り出し、側面には一部敲打痕が見られる。

縄文土器

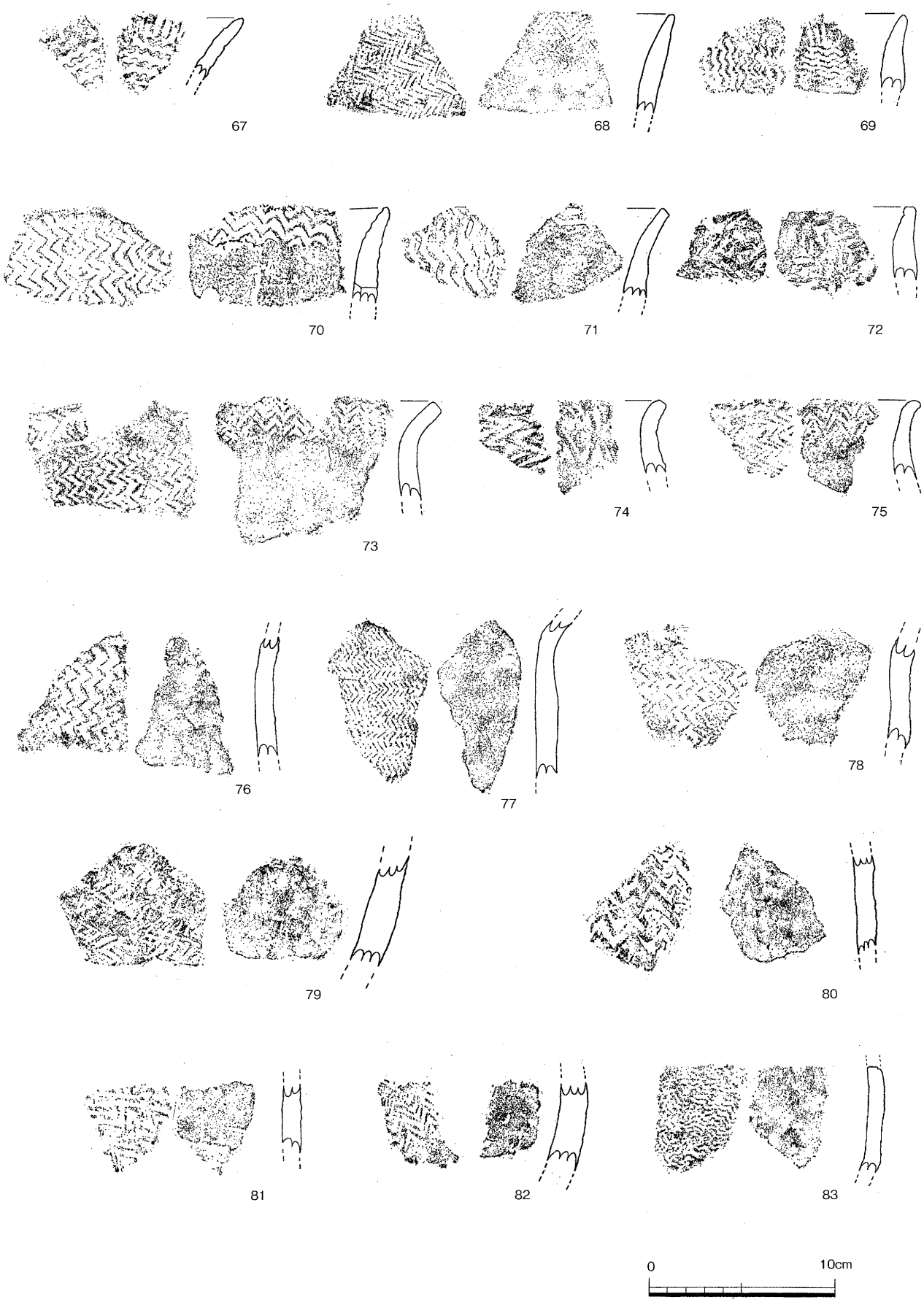
縄文土器は、早期の山形・楕円などの回転施文による押型文土器を中心として、撚糸文・刺突文・押引文・条痕文・無文土器の他、塞ノ神式土器等が出土し、空白期間をおいて、後期から晩期にかけての黒色磨研土器の浅鉢や口縁下部に突帯をもつ粗製深鉢土器が出土する。

出土状況は、石器と同じで、縄文時代早期の土器が包含層として比較的まとまって出土するのは、11区、13区、14区である。量的に少ないものの外の調査区でも出土し、16区の倒木痕及び撹乱と思われる掘り込み中から黒色磨研土器が比較的まとまって出土している。

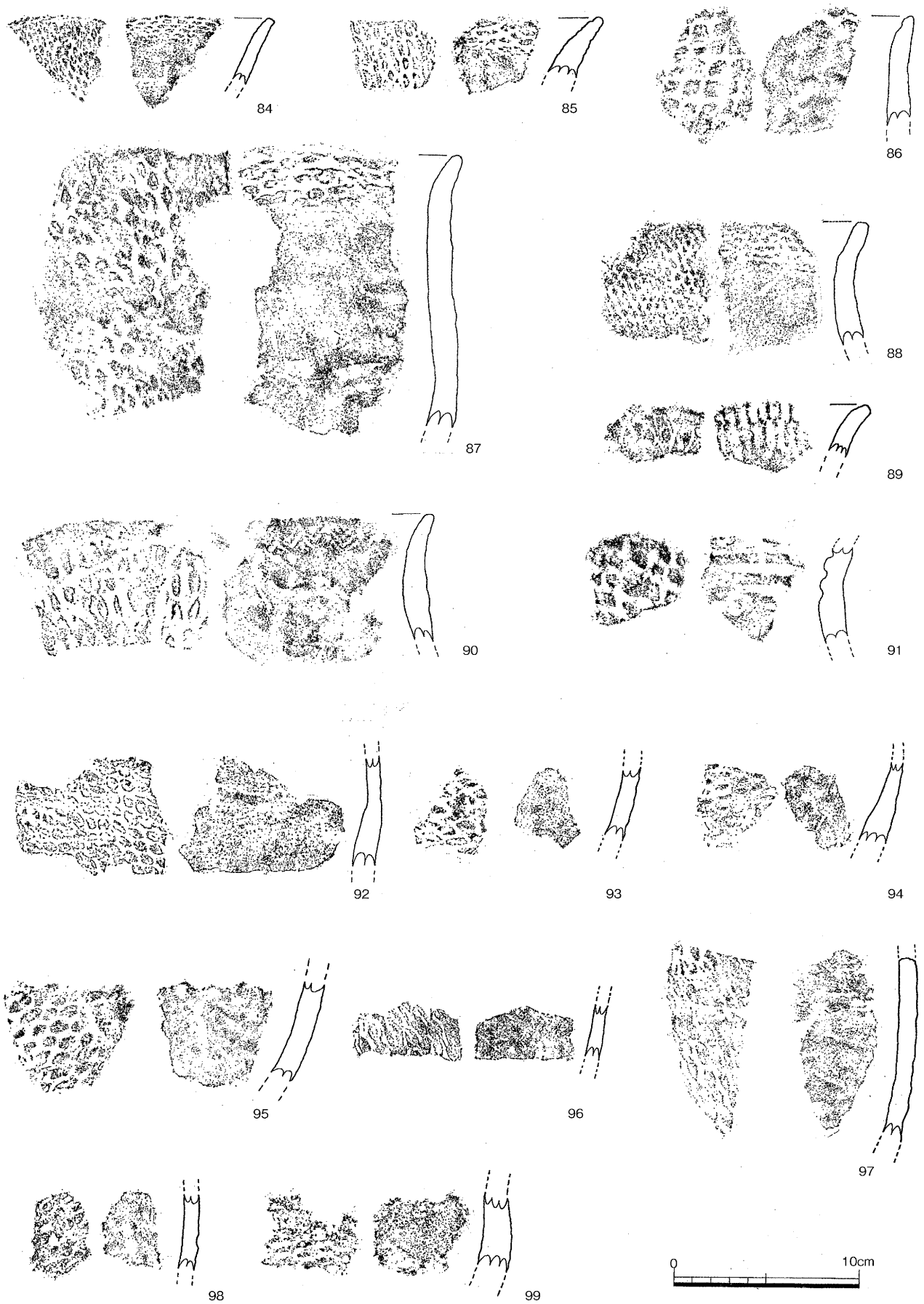
67から83は山形押型文土器である。口縁が外反し、山形押型文を表面には横あるいは縦方向に、内面の口唇部には施文原体を下方向に押圧する例（67・69）と山形押型文を横方向に施文する例（70・73・75）がある。口縁部は口唇下部でさらに屈曲する例（71・73～75・77）もある。

84から99は楕円押型文土器である。山形押型文土器と同様に、口縁が外反し、表面には楕円押型文を横あるいは縦方向に、内面の口唇部には施文原体を下方向に押圧する例（89）と横方向に押圧する例（91）楕円押型文を横方向に施文する例（84～88）がある。口縁部は同様に、口唇下部でさらに屈曲する例（87・88・90・91）がある。

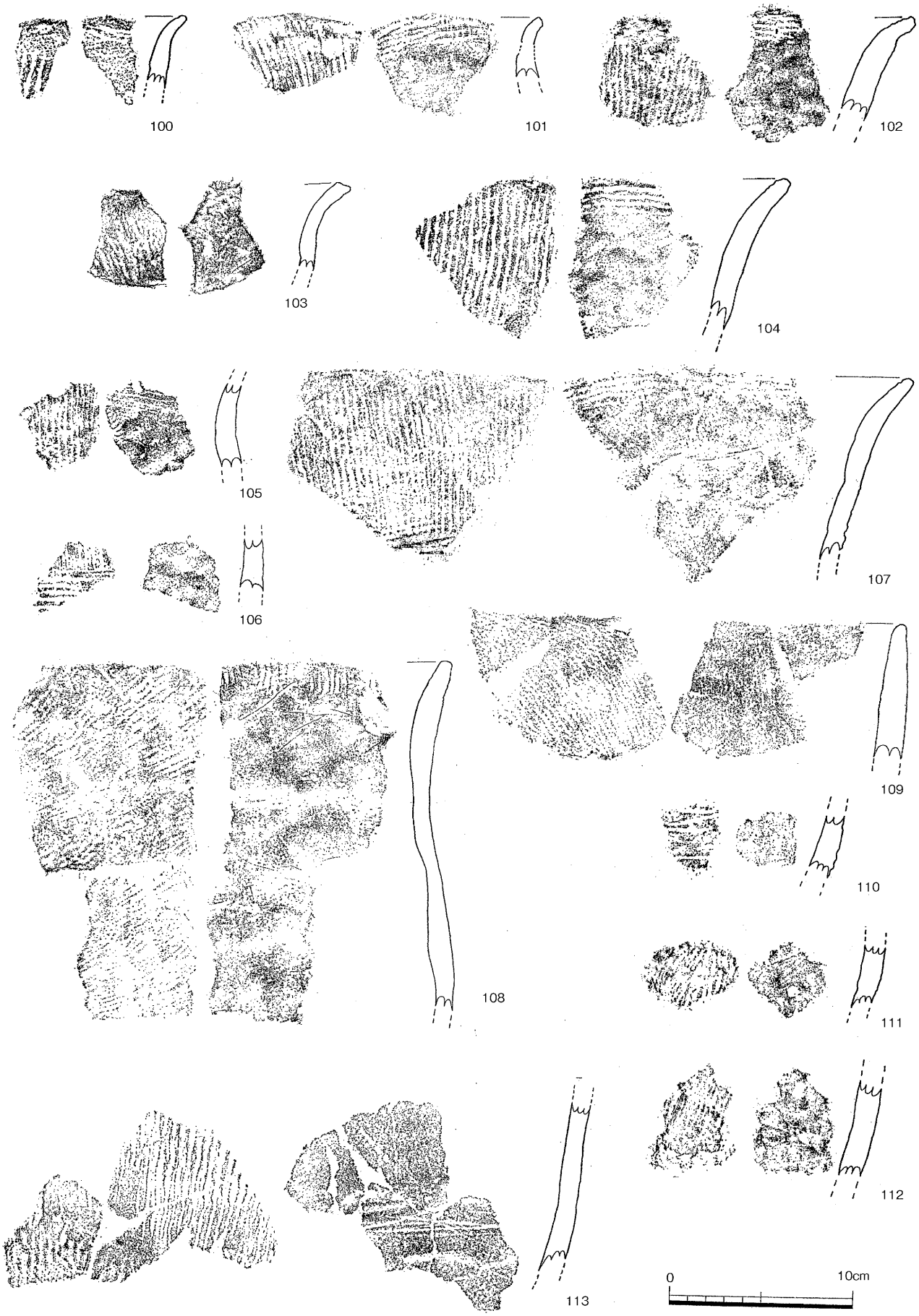
100から114は撚糸文土器である。同様に、口縁が外反し表面には撚糸文を縦さらには横方向に、内面の口唇部に施文原体を下方向に押圧する例（108）と撚糸文を横方向に施文する例（100～104・107）がある。口縁部は同様に、口唇下部でさらに屈曲する例（100～104）がある。113は内面調整に撚糸文の原体を利用している。106・107の事例は、口縁部から頸部にかけて撚糸文を縦方向に、



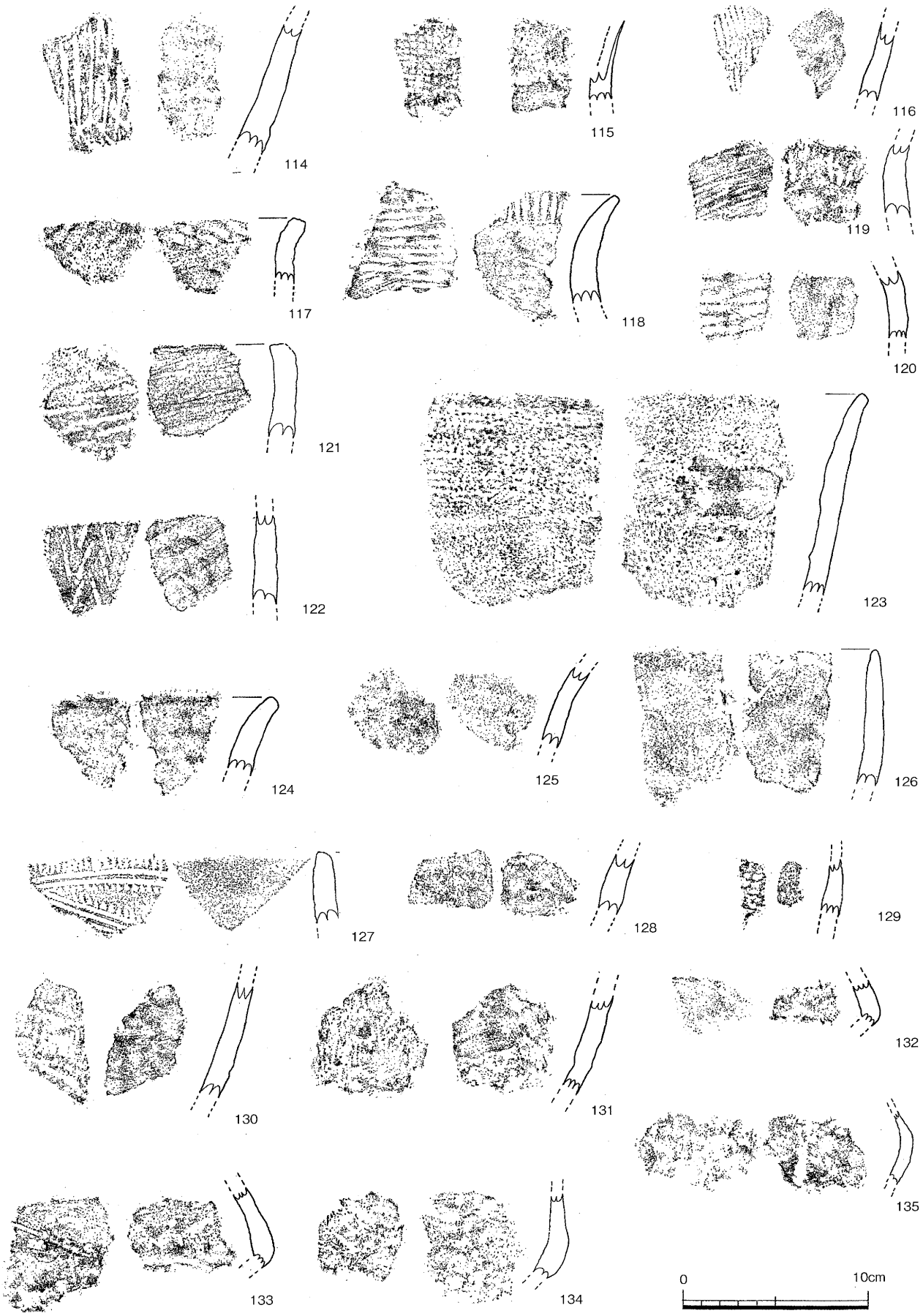
32. 縄文時代出土遺物⑥（土器）実測図（1／3）



33. 縄文時代出土遺物⑦（土器）実測図（1／3）



34. 縄文時代出土遺物⑧（土器）実測図（1／3）



35. 縄文時代出土遺物⑨（土器）実測図（1／3）

頸部から胴部にかけては横方向に施文するものである。

115 は格子目押型文である。裏面は、剥落している。格子目押型文は、山形や楕円と違って極端に出土例が少ない。

116 は、表面に斜め方向の縄文を施す土器である。内側は、ナデによる調整を行っている。

117 は、風化で施文がはっきりしない。表面には粗い縄文を斜め方向施す。口縁部は外反し、内側の口唇部にも斜め方向に縄文による施文とナデによる調整が施されている。

118 と 119 は貝殻条痕文土器である。口縁は外反、口唇部には原体による押引き文が施される。

120 は表面に横方向に凹線による施文がみられる。

121 と 122 は、貝殻円筒系の土器と思われる。口縁が内傾し、端部が平たく調整され、貝殻による押引きや腹縁部をV字状に押し付ける等の施文方法から、吉田・前平式土器と思われる。当地域の押型文土器の中には、この土器の影響を受けたと思われるものが散見される。

123 には、外側口縁下部に横方向に貝殻押引き文を施し、さらにその下方に数条の櫛歯状掻痕が見られる。貝殻による土器調整と思われるが、内外面ともに風化が著しい。裏面は、一部を残しては剥落している。口縁下部は外側にやや開く程度である。

124～126 は無文土器である。124・125 は口縁が外反するが、126 はやや内傾する。125 は風化が著しい。

127 は、箆描沈線文や連点文などの施文技法から、平拵式土器と思われる。アカホヤ層下位ではなく、上面の茶褐色土層（Ⅱ層）からの出土である。

128 と 129 は、表面に刺突文が施された土器である。128 には不規則に施文され、129 には列状に刺突が施されている。どちらもアカホヤ層下位から出土している。

130 の表面には貝殻押引き文が施される。一部ススが付着している。

131 の表面には丁寧なナデ調整が施される。ところどころに、撚糸文ではないかと思われる地文がかすかに見える。

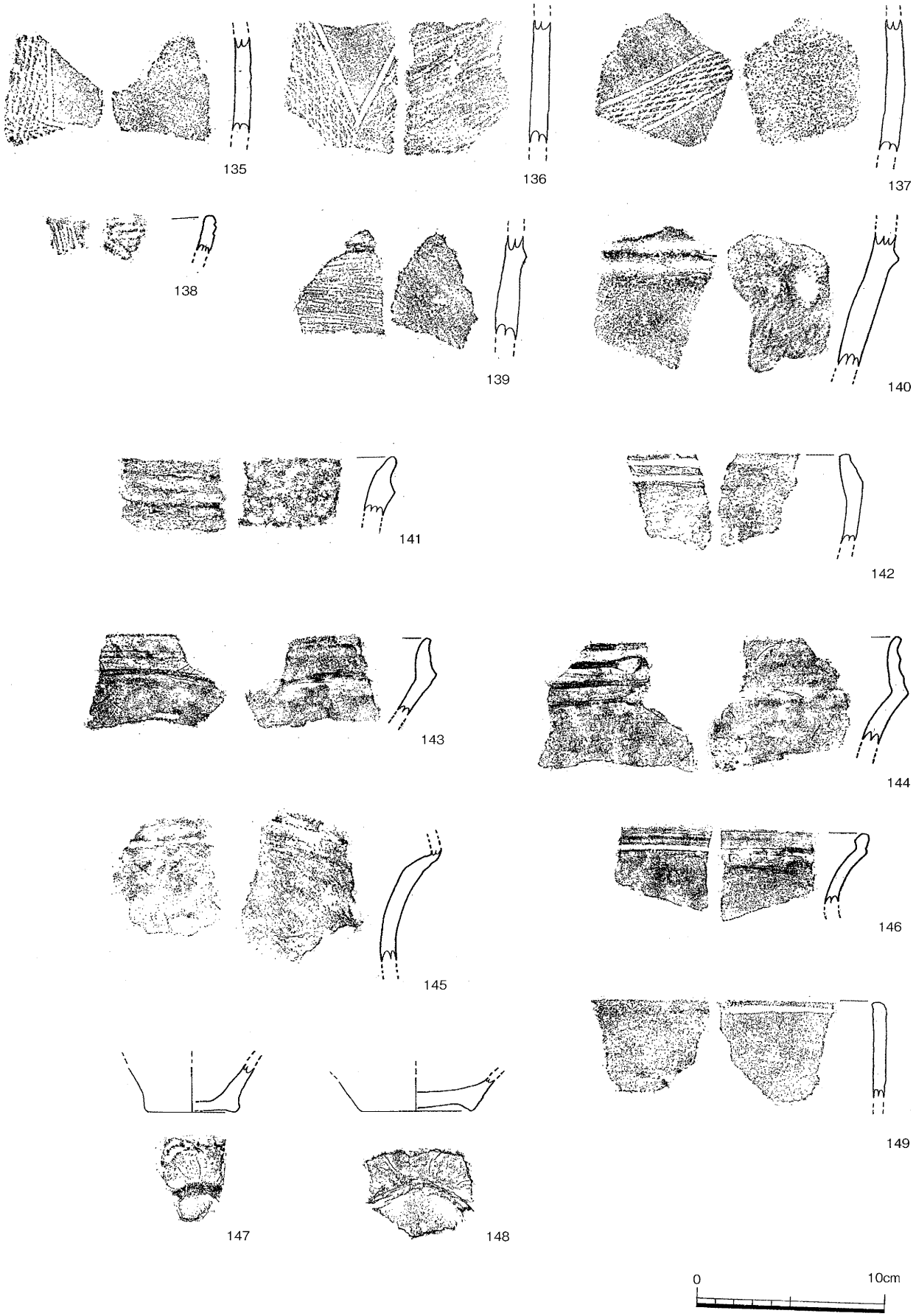
132 から 135 は胴部から底部にかけての土器である。内外面ともに丁寧なナデが施されている。133 は一部に沈線が見え、斜め方向に微細な撚糸文が施される。いずれもアカホヤ層下位からの出土例である。132 と 133 は焼成等から判断して同一固体である可能性が高い。135 は、外の 3 点に比べ薄手である。

136 から 138 は、表面に沈線区画の間に撚糸文を施す塞ノ神式土器である。町内には、アカホヤ層下位から貝殻押引き文を施す塞ノ神式土器の出土例もある。アカホヤ層上位からの出土である。

139 は表面に横方向の沈線文を、内側には縦方向の沈線文が施されている。小破片のため、詳細は不明であるが、胎土・焼成から後期に属する土器と思われる。

140 と 141 は貼付け突帯文を有する粗製深鉢土器である。

142～147 は精製磨研土器で、148 と 149 はその底部である。142・143・146 が浅鉢、144・145 は深鉢、147 は椀と思われる。144 と 145 は焼成等から判断して同一固体である可能性が高い。



36. 縄文時代出土遺物⑩（土器）実測図（1／3）

弥生・古墳時代

この時代の遺構として、竪穴住居跡を６軒と土坑２基、焼土集中部２ヶ所を検出した。出土遺物のほとんどは、遺構およびその周辺から出土している。竪穴住居跡は、台地平坦部に営まれる例が３軒、台地端部に営まれる例が２軒、傾斜地に営まれる例が１軒である。傾斜地に営まれる例は、斜面のわずかな平坦部を利用している。

住居跡の規模は、すべての住居跡を全面調査していないため不明であるが、一辺が 3.5～4.5mの小規模なものである。深さは検出面から 30 ㎝～1m とバリエーションに富んでいる。壁は山側が深く、谷側が浅くなっている。床面はほぼフラットであるが、柱穴を検出した例は多くない。他地区の調査例から、主柱穴はほぼ４本と思われる。付属施設には、ベッド状遺構や入り口に利用したと思われる階段状遺構、土坑、阿蘇溶結凝灰岩の礫を壁に埋めて棚状にしたもの等がある。

住居跡内の出土遺物には、土器類として高杯、甕、鉢、椀、二重口縁壺などがある。石器類には、石錘、石包丁、叩石、打製石斧、砥石などがある。須恵器や鉄器類は出土していない。

１号竪穴住居跡（３７）

6 区、尾根が内側に湾曲する斜面の中腹のわずかな平坦部で検出した。1/4 ほどの検出で、長軸約 3.5m、短軸約 2.35m、深さ約 45 ㎝を測るが、大部分は用地外へ延びている。床面はフラットで、60 ㎝ほど掘り込まれた柱穴を１ヶ所、底面の長軸約 80 ㎝、短軸約 50 ㎝、深さ 20cm の土坑を１ヶ所検出した。ベット状遺構と思われる高まりがあり、床面ほどではないが、表面はやや硬くなっている。

住居跡内からの遺物の出土はないが、周辺部より高杯の口縁部（150）と胴部（151）が出土している。

２号竪穴住居跡（３８）

五ヶ瀬川に向かって緩やかに傾斜するものの、6 区に比べるとほぼ平坦部と思われる台地上で検出された。両辺と 1/4 のコーナーのみの検出で、大部分は用地外へ延びている。一辺の長さ約 2.1m のみ確認した。検出面から床面までの深さは、約 80 ㎝を測る。床面は途中で段がつくもののほぼフラットで、コーナーで 10 ㎝ほど掘り込まれた柱穴を１ヶ所検出した。一部上部からの掘り込みの影響で、床面が削られている。ベット状遺構と思われる高まりがあるが比高差は 10 ㎝程度である。北側の壁、床面から 30～40 ㎝のところに阿蘇溶結凝灰岩の扁平礫を埋め込んだ棚状のものを検出した。上面からの遺物等はなく、詳細は不明である。

住居跡からの出土遺物として、甕（152・154・156・158）、高杯（153）、鉢（155）、壺（157）がある。156 の甕は、外面に荒いタタキが施され、指圧痕もみられる。胴部の最大径が口縁部径を下回る。上部にはススが付着し、底部が欠損している。

３号竪穴住居跡（４０）

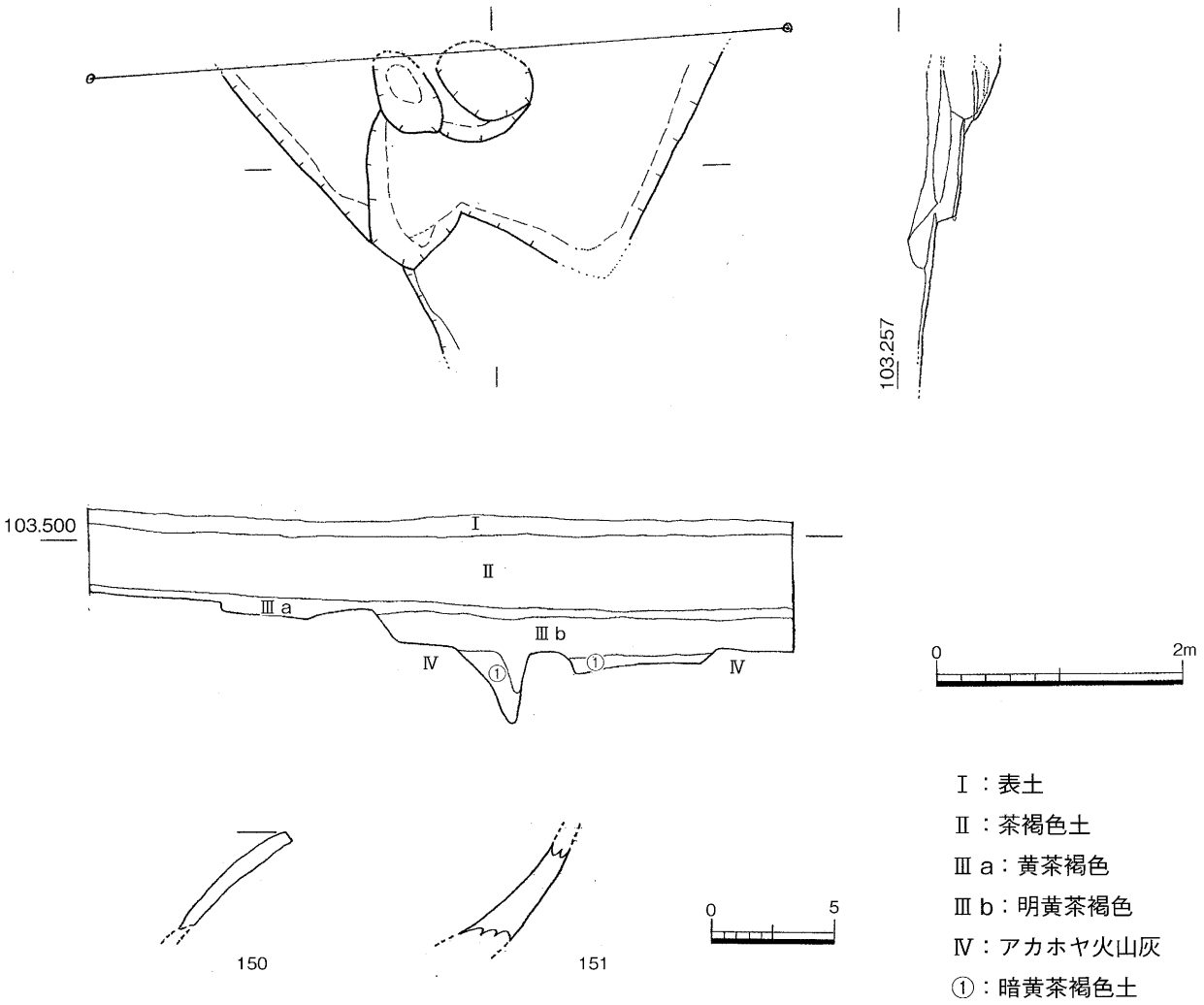
13 区のほぼ中央部で検出した。住居跡の 1/2 を検出している。一辺は 4.4 m を測る。他辺は調査区外で不明である。ベッド状遺構は確認されなかった。床面はほぼフラットで、検出面から床面までは約 10 ㎝を測るが、土層断面の観察では、西側で 20、東側で 40 ㎝である。確実な柱穴は１ヶ所のみの検出で、床面からの深さは５㎝と浅い。中央部には焼土の集中部があるが、下面に掘り込みはなかった。北東の隅には、直径約 50 ㎝、深さ 10 ㎝及び直径約 40 ㎝、深さ 20 ㎝ほどの土坑がある。内部からの遺物はない。

住居跡からの出土遺物として、若干の土器片と砂岩製の打製石斧（159）、同じく砂岩製の砥石（160）及び砂質頁岩製の石錘（161）がある。砥石は熱を受けていて一面のみを使用している。石錘は打欠き石錘である。重さが 164 g ほどあり、比較的重量がある。

４号竪穴住居跡（４１、４２）

14 区の 2 次調査で検出した。住居跡は木の根の影響で壁の立ち上がりが不明瞭な部分があり、床面の確認できるところまでを住居跡の範囲としている。したがって、確実に検出したのは 1/4 のコーナーのみであり、一辺 2.8 m＋は仮の計測値である。ベッド状遺構は確認できなかった。床面はほぼフラットで、検出面から床面までは約 30 ㎝を測る。柱穴も検出できなかった。中央部には焼土の詰まった土坑があり、直径約 70 ㎝、深さ 20 ㎝を測る。内部からの遺物はない。

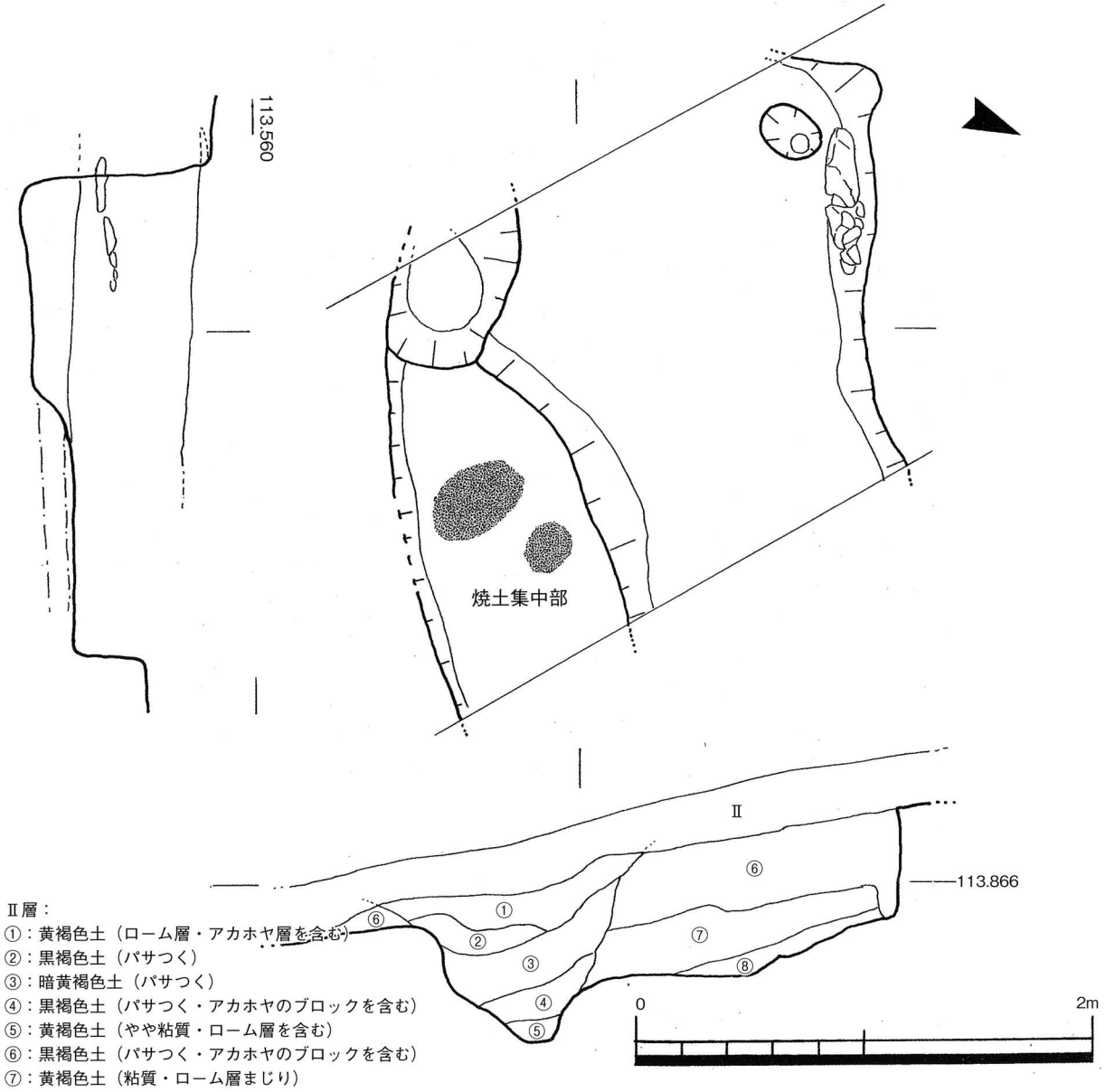
小規模な住居跡ではあるが、出土遺物は充実している。162 は二重口縁壺の口縁部である。櫛描波状文が施される。安国寺式土器である。163 は椀である。内外面ともに磨かれ丁寧なナデ調整が施される。外側から穿孔されている。164 は高杯の胴部である。外面頸部にはナデによる調整が施され、



37. 1 号竪穴住居跡実測図（1 ／ 60）及び 6 区出土遺物実測図（1 ／ 3）

ススが付着する。165 は甕で、復元口縁部の直径は 14.5 ㎝を測る。胴部の最大径と口縁部径は、ほぼ等しい。外面にはタタキのあと、口縁部から頸部にかけてと内面にナデ調整が施される。ススが付着する。166 は甕の胴部である。内外面ともにナデ調整が施される。167 は胴部から底部にかけての壺である。外面にはハケ目のあと、内外面ともに指押さえとナデ調整が施される。168 は甕の胴部である。外面にはタタキのあと、口縁部から頸部にかけてと内面に指押さえとナデ調整が施される。

169 は鉢の底部である。若干上げ底で、内外面ともに指押さえとナデ調整が施される。170 は壺の底部である。内外面ともにナデ調整が施される。171・172 は甕の底部である。外面はタタキのあと指押さえによる調整が行われる。内面は指押さえとナデ調整が施される。173 は泥岩製の砥石である。一部欠損し、底面と側面に顕著な磨痕が見られる。174 は千枚岩製の方形石包丁である。刃部は丁寧に磨いて作られている。両端に抉りが入る。175 は礫岩製の叩石である。端部に剥離痕が残る。176 は砂岩製の打製石斧である。やや湾曲し、刃部の一部が欠損している。土堀具よりも工具的な使われ方が想起される。177 は砂岩製の砥石である。棒状の礫を利用し、側面の利用は認められない。端部には打痕が残る。178 は、砂岩製の石錘である。両端を打欠いている。179 から 181 は砂岩製の砥石

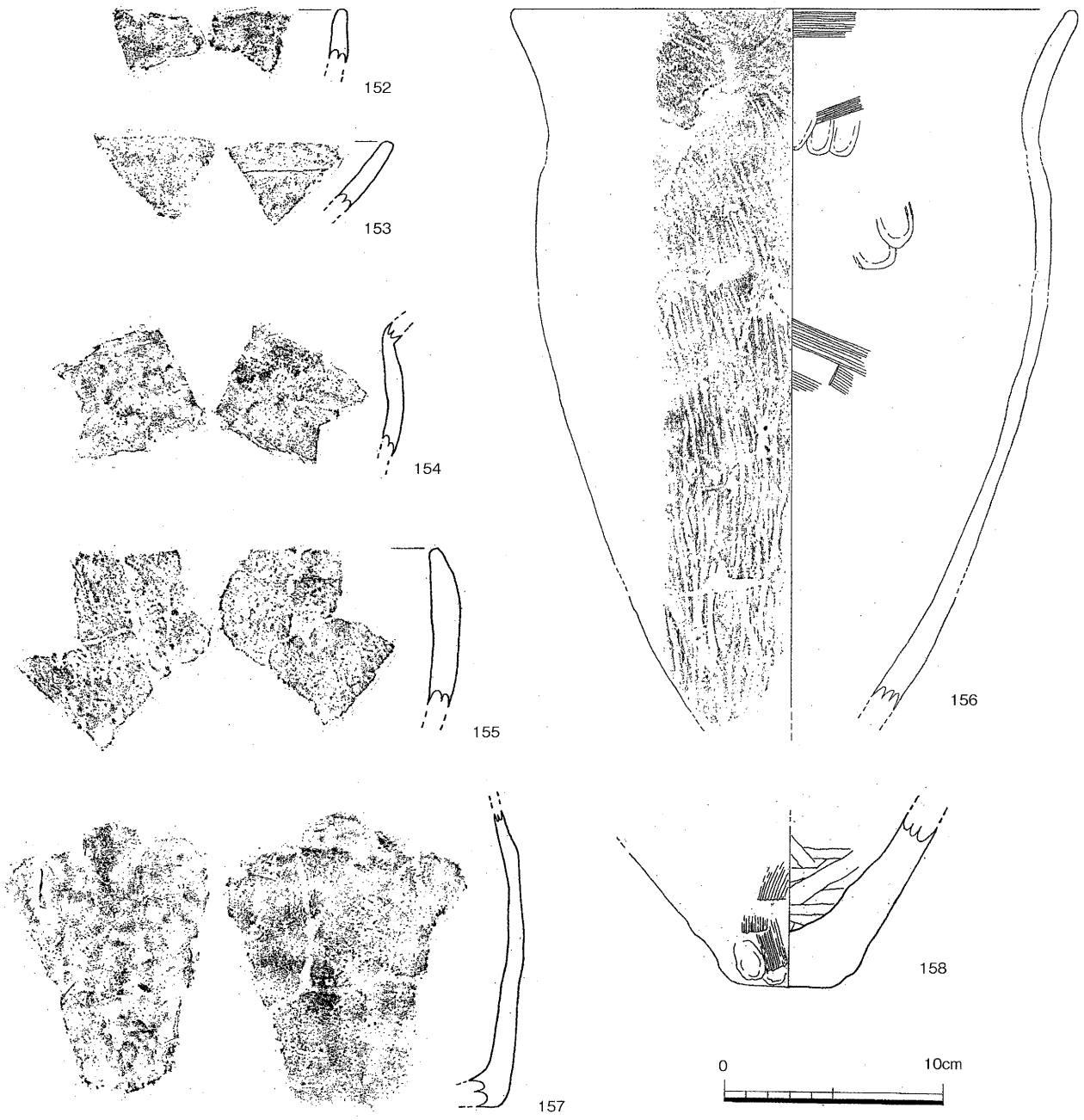


38. 2 号竪穴住居跡実測図（1／30）

である。179 は全面に磨痕がみとめられ、かなり使い込まれているが、180 と 181 は一面のみに使用痕が認められる。179 は、手に持って使用し、180 と 181 は台等に設置して使われたものと思われる。182 は頁岩製の石器で、片面の中央部に残る磨痕からと砥石とも考えられるが、重量もあり形状も特異である。

5号竪穴住居跡（４３）

17 区で検出した。排水路工事のため、検出範囲の幅が 80 ㎝である。大部分は用地外へ延びているため、平面形や付属施設・主柱穴等は不明である。一辺の長さは 4.4m を測るが、長軸・短軸のどちらに該当するのかは不明である。床面はほぼフラットで、検出面から床面までの深さは、山側で約 55



39. 2号竪穴住居跡出土遺物実測図（1／3）

cm、谷側で30 cmを測る。中央部で柱穴を2ヶ所検出した。床面からの深さは20 cm前後である。内部からの遺物はない。出土遺物はほとんどが甕の口縁部と胴部である。183は壁際で出土した。胴部から底部を欠く。口縁部径が胴部最大径をわずかに上回る。調整は内外面ともにハケ目とナデである。ススが付着する。184から186は、内外面ともにナデ調整である。187と187は外面にハケ目と指押さえナデ、内面には指押さえナデによる調整が施される。188の口縁はやや波状を呈す。

6号竪穴住居跡（４４）

23区の谷側で検出した。部分は用地外へ延びているため、平面形や付属施設・主柱穴等は不明である。検出した短軸の床面はほぼフラットで、床の状況及び柱穴等から住居跡と判断したが、今後の用地外の調査に期待したい。検出面から床面までは70～93 cmを測る。セクション部では床面は緩やかにくぼむ。詳細については不明である。柱穴は隅で1ヶ所検出した。床面からの深さは10 cmほどである。北側の壁に段が設けられているが詳細は不明である。弥生土器胴部小片が数点出土している。他に縄文時代後・晩期の精製磨研土器の浅鉢胴部（189）と粗製深鉢土器の口縁部（190）が出土している。189は外面がミガキ、内面にはナデで調整されている。190は口縁下部に突帯文を貼り付けた粗製深鉢土器である。内面には指圧痕が見られる。

2号土坑は11区の中央部、アカホヤ層上面で検出された。平面形はほぼ円形を呈し、長軸55 cm、短軸52 cm、検出面からの深さ9 cmを測る。甕の底部（191）と胴部（192）の他に若干の縄文土器やチャート片・焼け石が出土している。191の内外面ともにナデと指押さえが施され、外面にはススが付着している。192はナデによる調整が、内面には指押さえが施される。外面にはススが付着している。

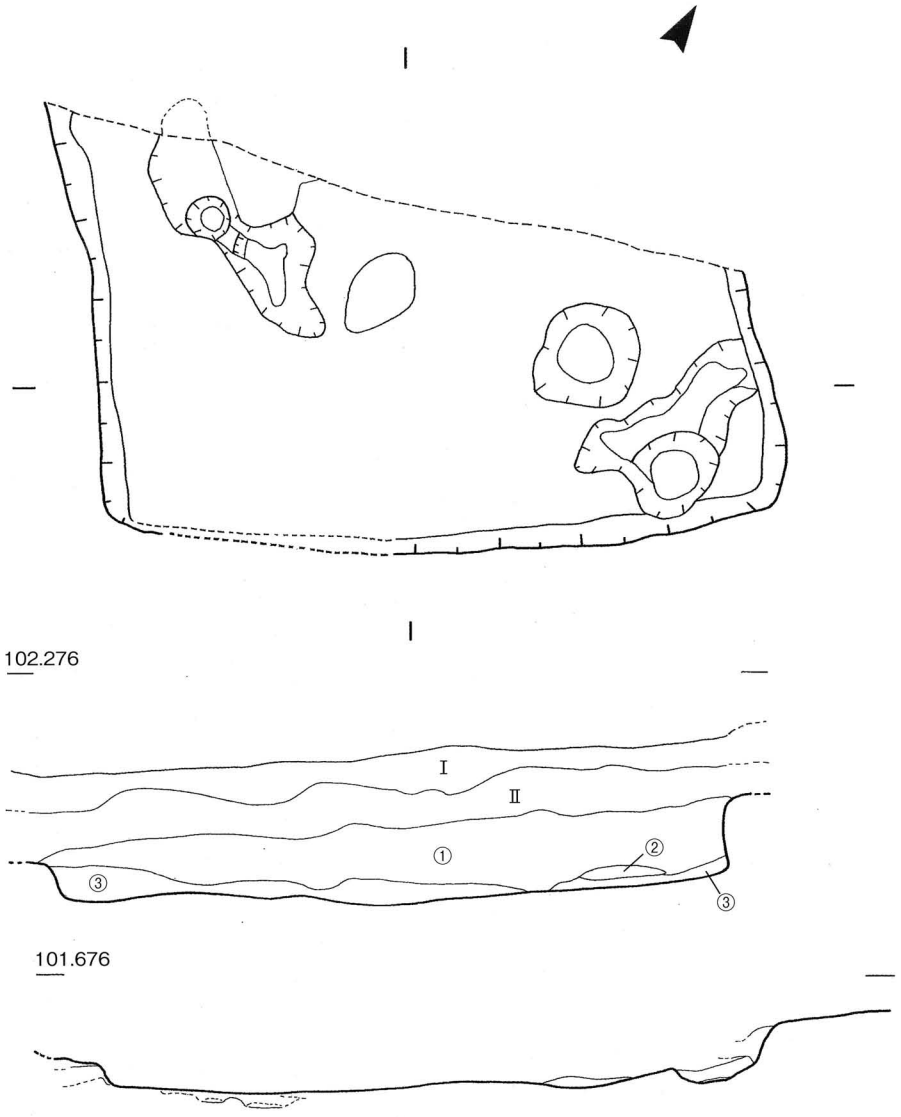
6号土坑は16区のアカホヤ層上面で検出された。平面形は楕円形を呈し、長軸100 cm、短軸85 cm、検出面からの深さ20 cmを測る。床と壁の境に柱穴が2ヶ所掘り込まれている。柱穴の深さは20 cmと40 cmを測る。遺物としては焼礫が若干と砂岩の剥片、弥生土器の小片が出土している。

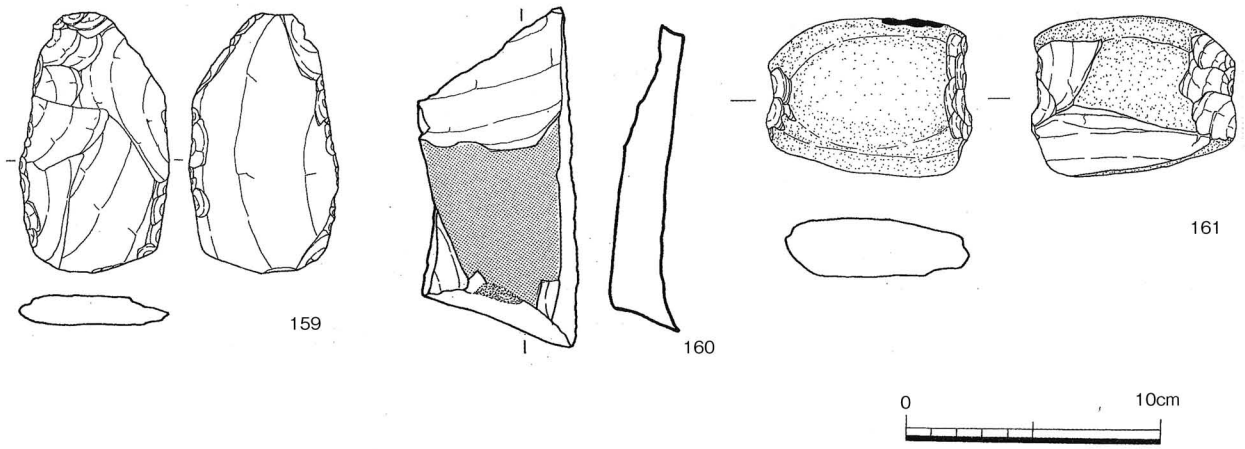
1号焼土集中部は、6区の1号住居跡の西側4mほど離れたところで検出された。掘り込みはなく焼土が5 cmほど堆積している状況である。内部からの出土遺物はない。

2号焼土集中部は、11区の2号住居跡の近くで検出された。アカホヤ層上面で直径50 cmほどの焼土及びそれに連なる炭の集中部を検出した。焼土の厚さは10 cmほどである。焼土と炭の下部で、平面形が細長い楕円形を呈す土坑が検出された。土坑は長軸118 cm、短軸65 cm、検出面からの深さ28 cmを測る。途中で深さ7～8 cmほどの段がつく。長軸方向に底面にも、主軸から約40度ずらして円形の段がつく。5 cmほど堀くぼめている。内部からの出土遺物には、甕の破片等のほか縄文土器や焼け石などがある。50 cmほど離れた調査区の東側壁でも、厚さが5 cmほどの焼土集中部がある。掘り込みはない。2号焼土集中部に関連する焼土と思われる。

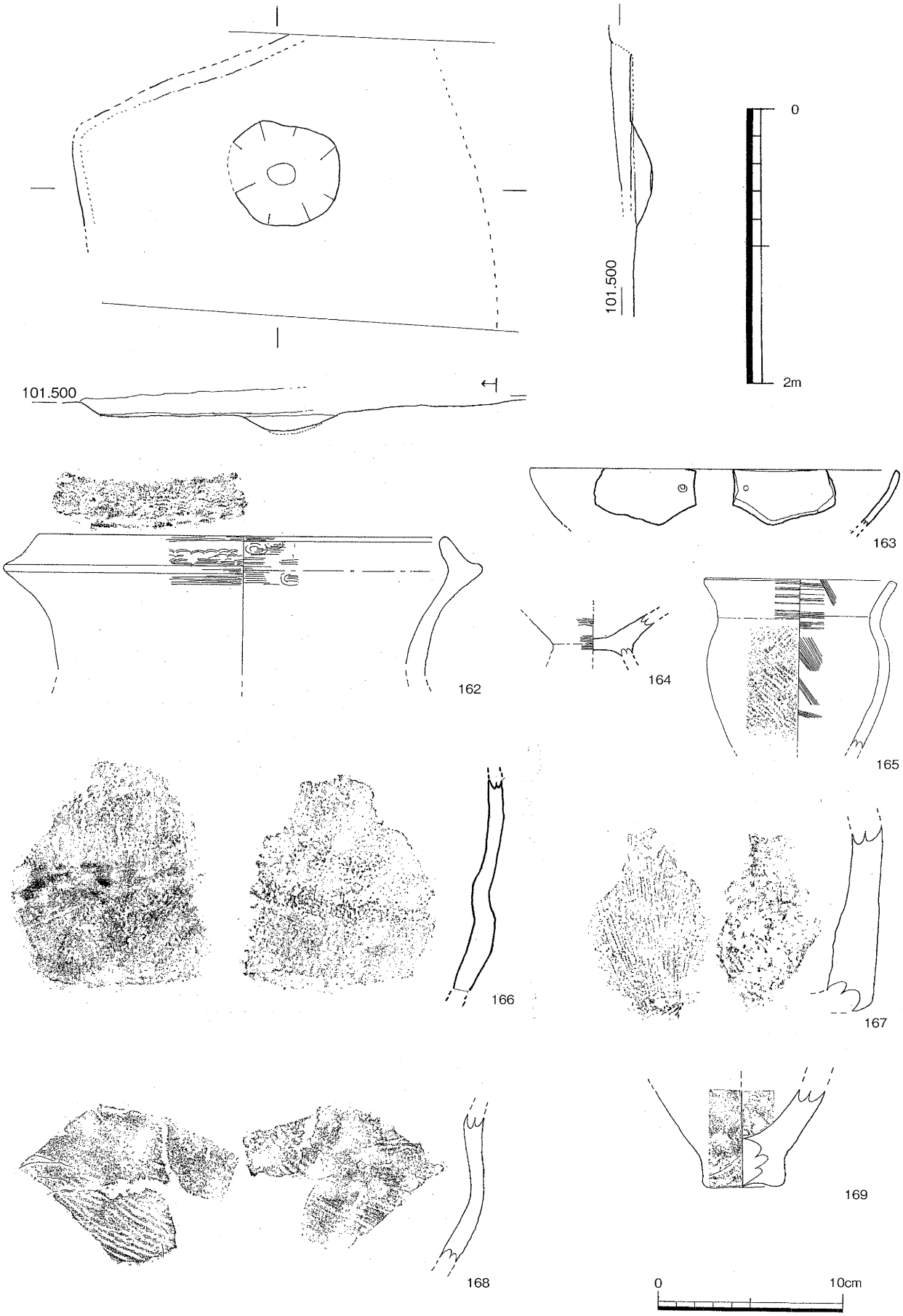
その他の時代

出土遺物がなく時期を特定できない遺構として、5区で土坑を1基（1号土坑）、23区で溝状遺構を1基（1号溝）検出した。また、ごく最近まで利用していたという諸塚往還跡を13区で検出した。

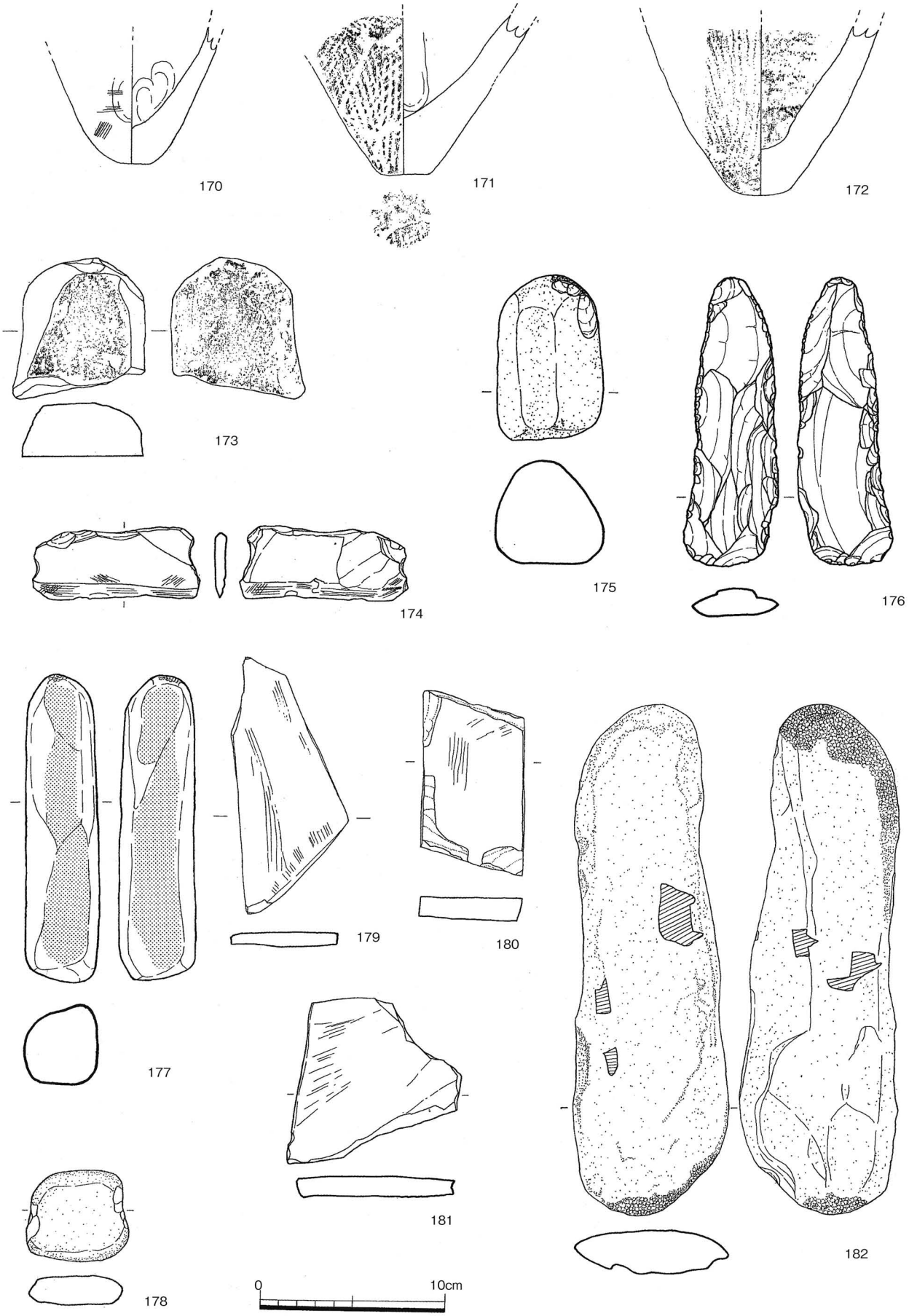




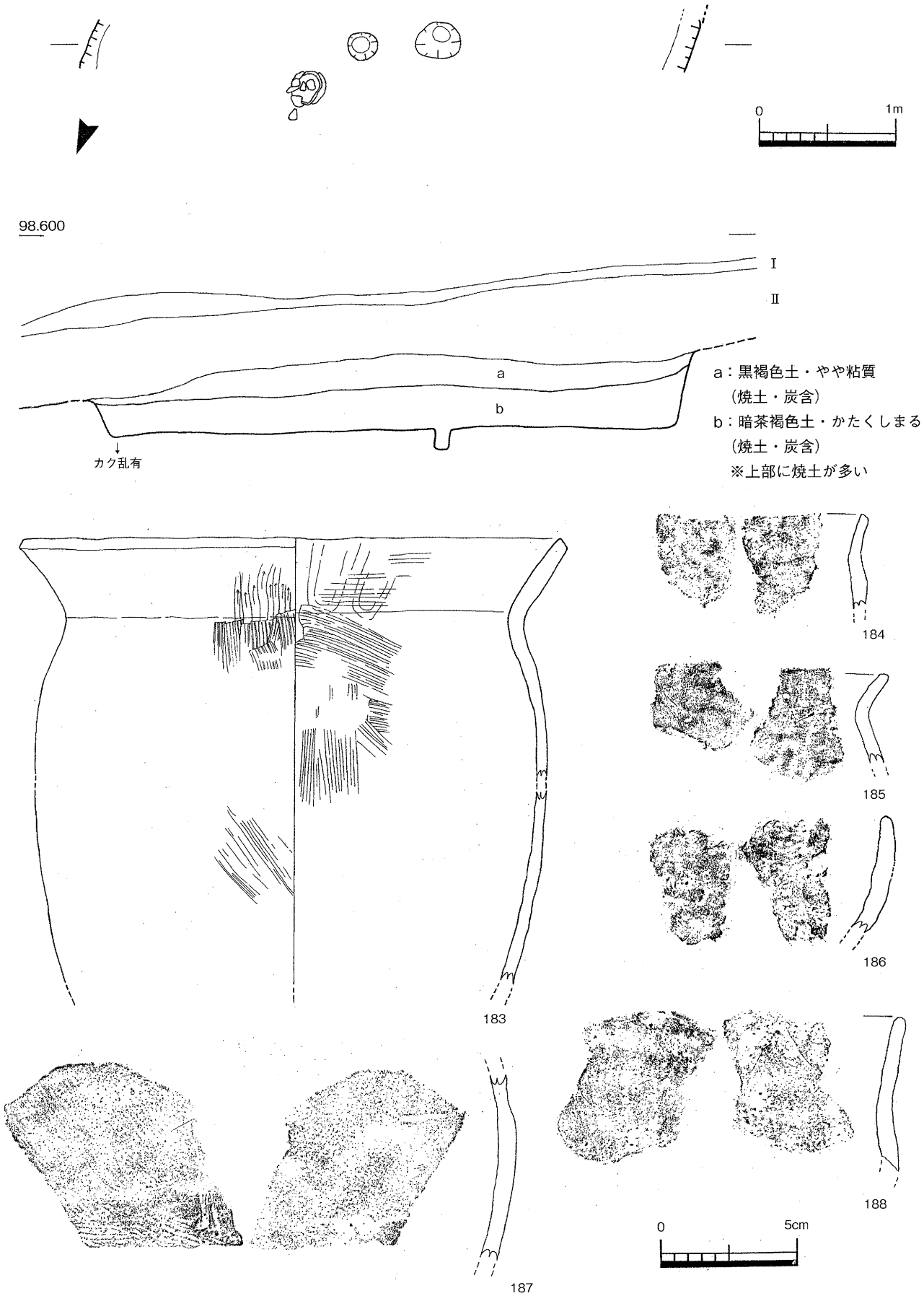
40. 3号竪穴住居跡実測図（1／40）及び出土遺物実測図（1／3）



41. 4号竪穴住居跡実測図（1／30）及び出土遺物実測図（1／3）



42. 5号竪穴住居跡出土遺物実測図（1／3）



43. 5号竪穴住居跡実測図（1／40）及び出土遺物実測図（1／3）

1 号土坑は直径が約 60 ㎝、深さ 13cm の円形である。

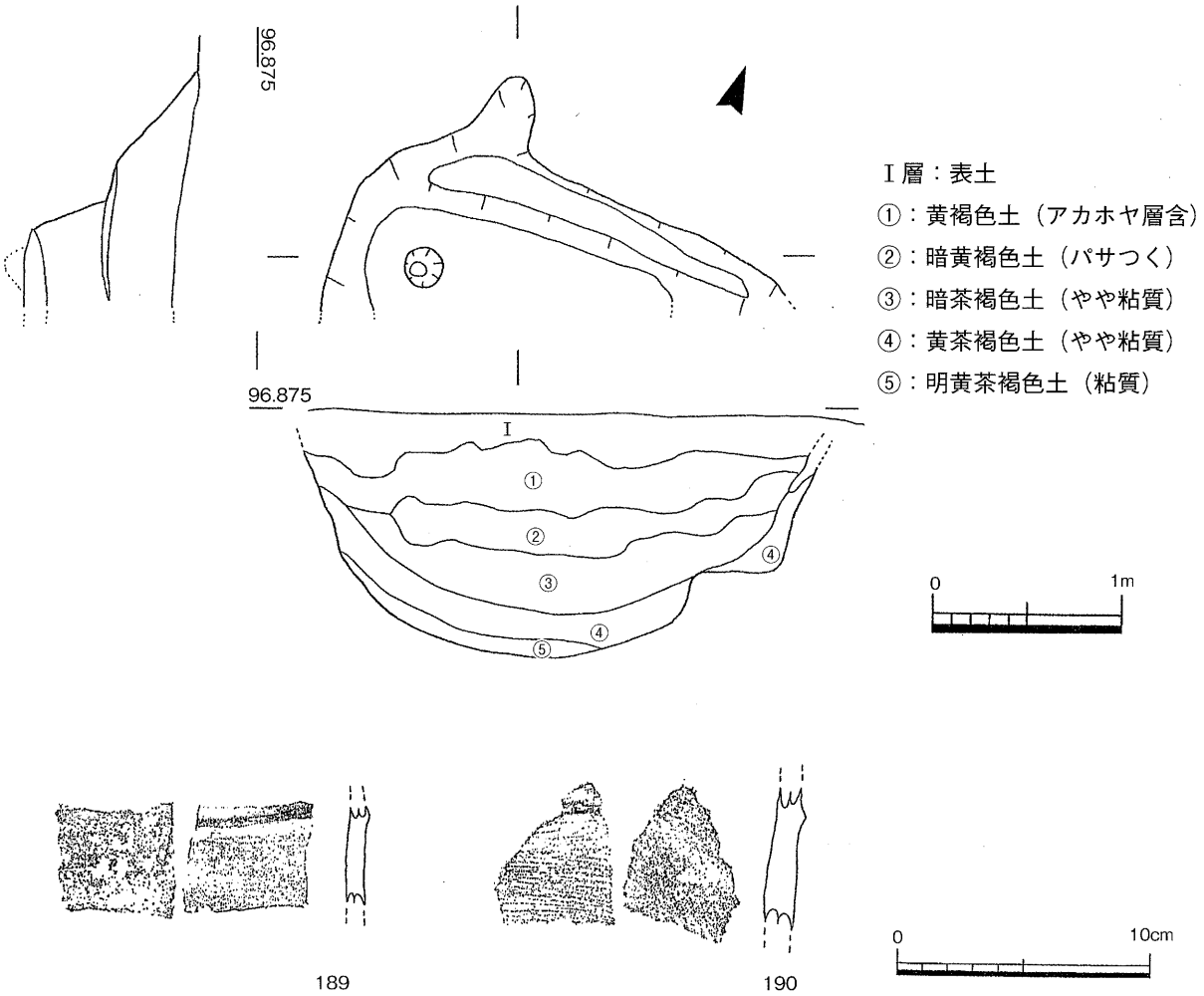
1 号溝は調査区に直行する形で、アカホヤ層上面で検出した。検出面での幅は約 55 cm、深さ 10～20 cm を測る。

諸塚往還跡は、車社会になって台地を迂回する傾斜の緩やかな道路が作られてからは、次第に使われなくなって藪となっていた。表土層を除去すると阿蘇溶結凝灰岩を削って整形した跡が検出され、13 区の中央部では轍の跡を検出した。

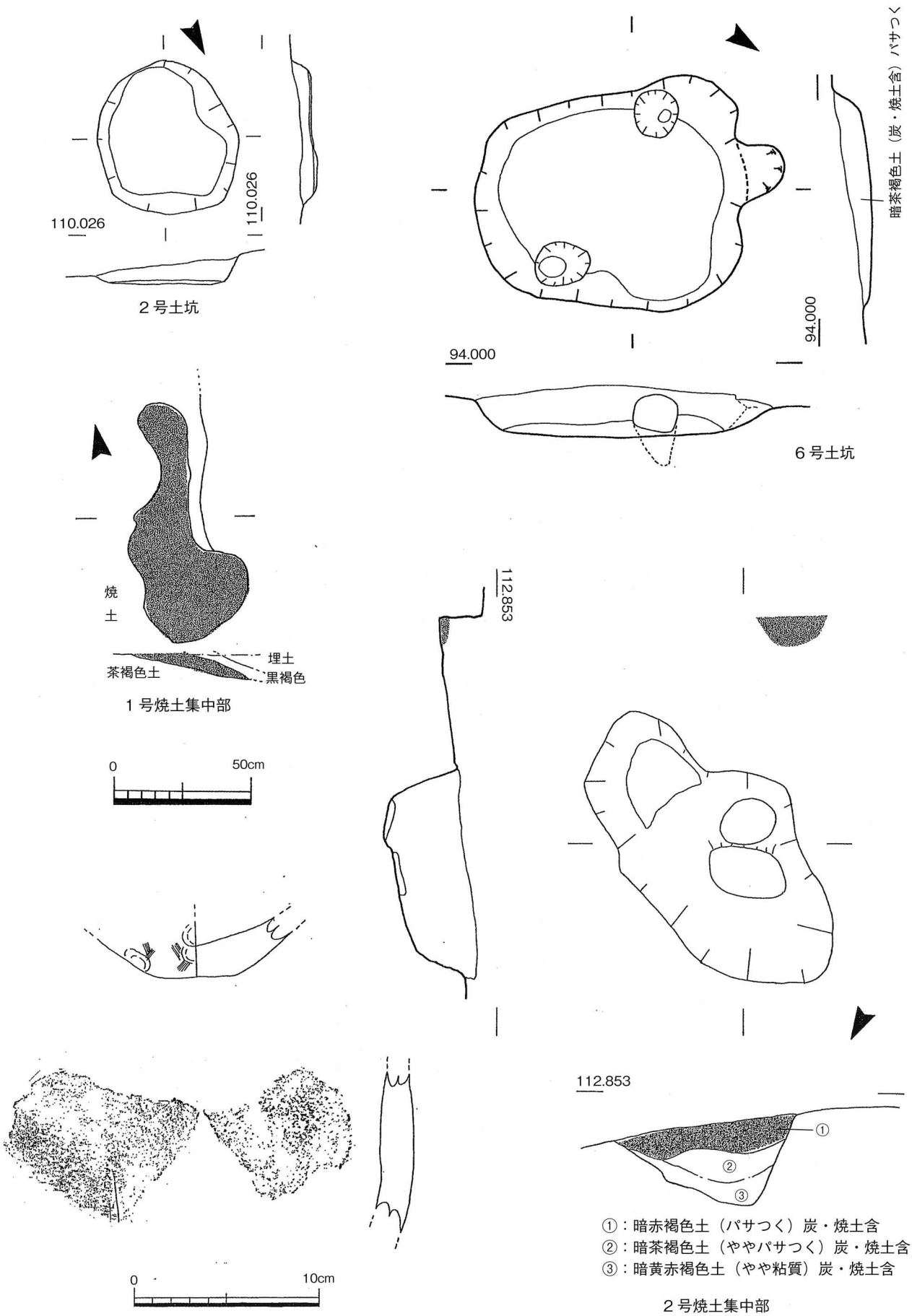
撹乱層出土や遺構に伴わない遺物等について記述する。

194～196 は石錘である。上崎地区遺跡から出土している石錘のほとんどは打欠石錘であり、193 のような切目石錘は珍しい。

197 は頁岩を利用した扁平な打製石器である。技法的には 8 の打製石器につながるものがある。欠損しているが、もとの形は方形であったろうと思われる。縁の部分には両側から丁寧な加工を行っている。扁平打製石斧のような土堀具ではなく、何か工具的なものに使ったと思われる。



44. 6 号竪穴住居跡実測図（1／40）及び出土遺物実測図（1／3）



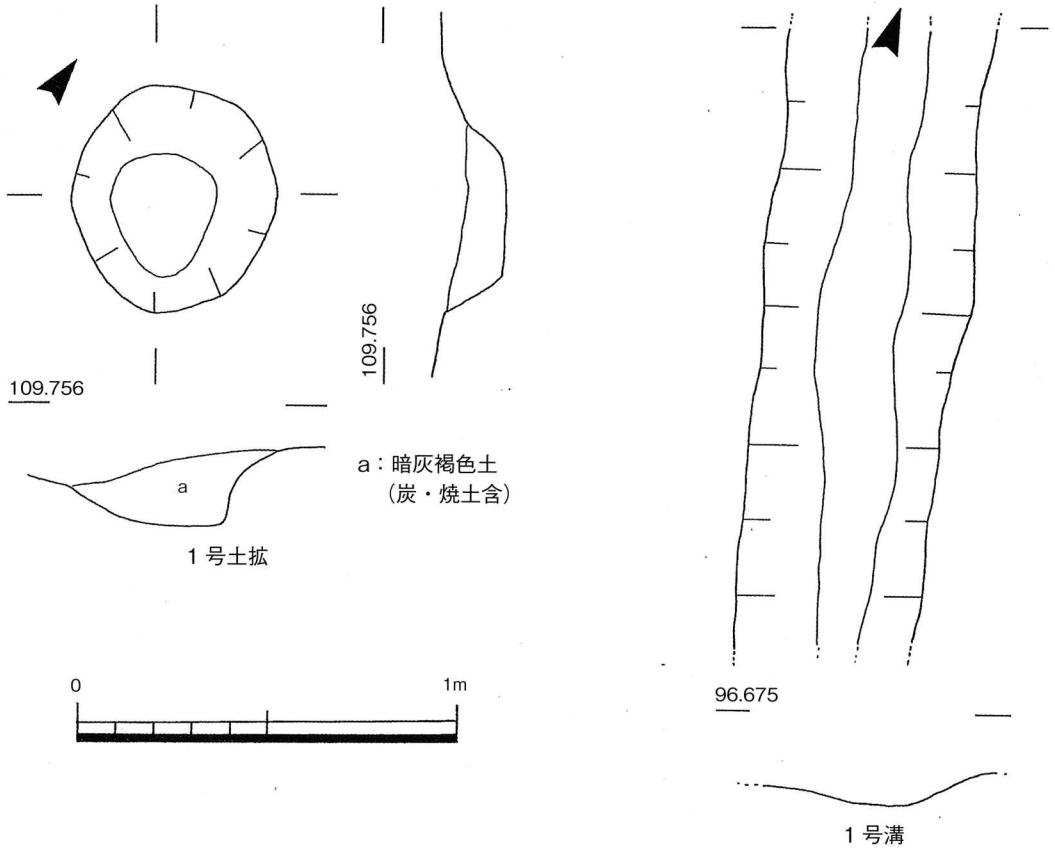
45. 土坑焼土集中部実測図（1／20）及び出土遺物実測図（1／3）

198 は断面が三角形と突帯が 4 条貼り付けられた土器である。弥生時代後期の中溝式土器ではないかと思われるが、この 1 点のみの出土であり詳細は不明である。

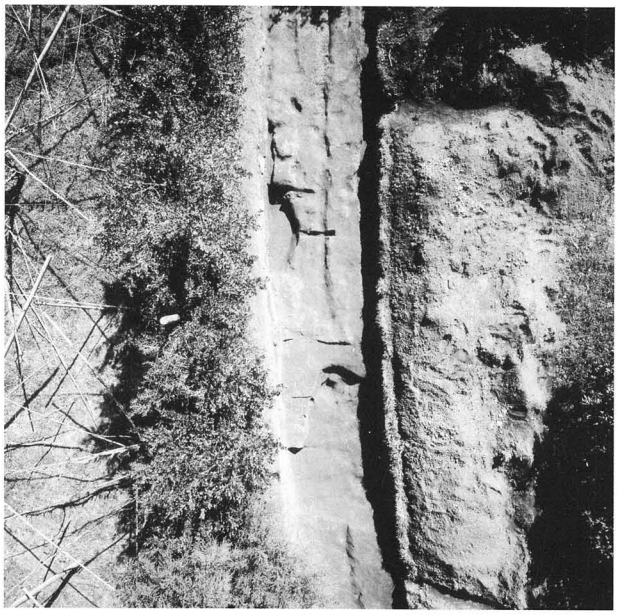
199 は砂岩製の使用痕剥片である。剥片の 2 辺に鋸歯状の加工を施している。重量もある。

200 は砂岩製の石核である。千枚質で粒も粗く、良質な剥片は取れなかったと思われる。

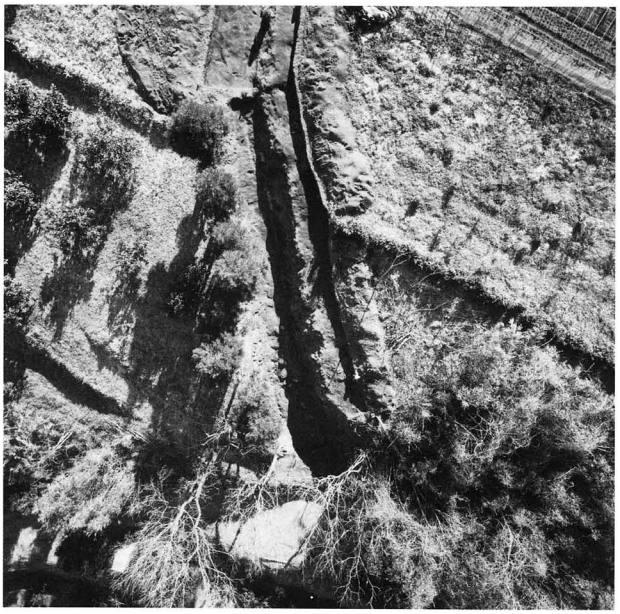
201 は寛永通宝である。24 区にある墓地の横の道から出土した。現在は、ほとんどの墓が累代墓として寄せられており、集骨の際、六道銭の一部が排土の中に紛れたものと思われる。



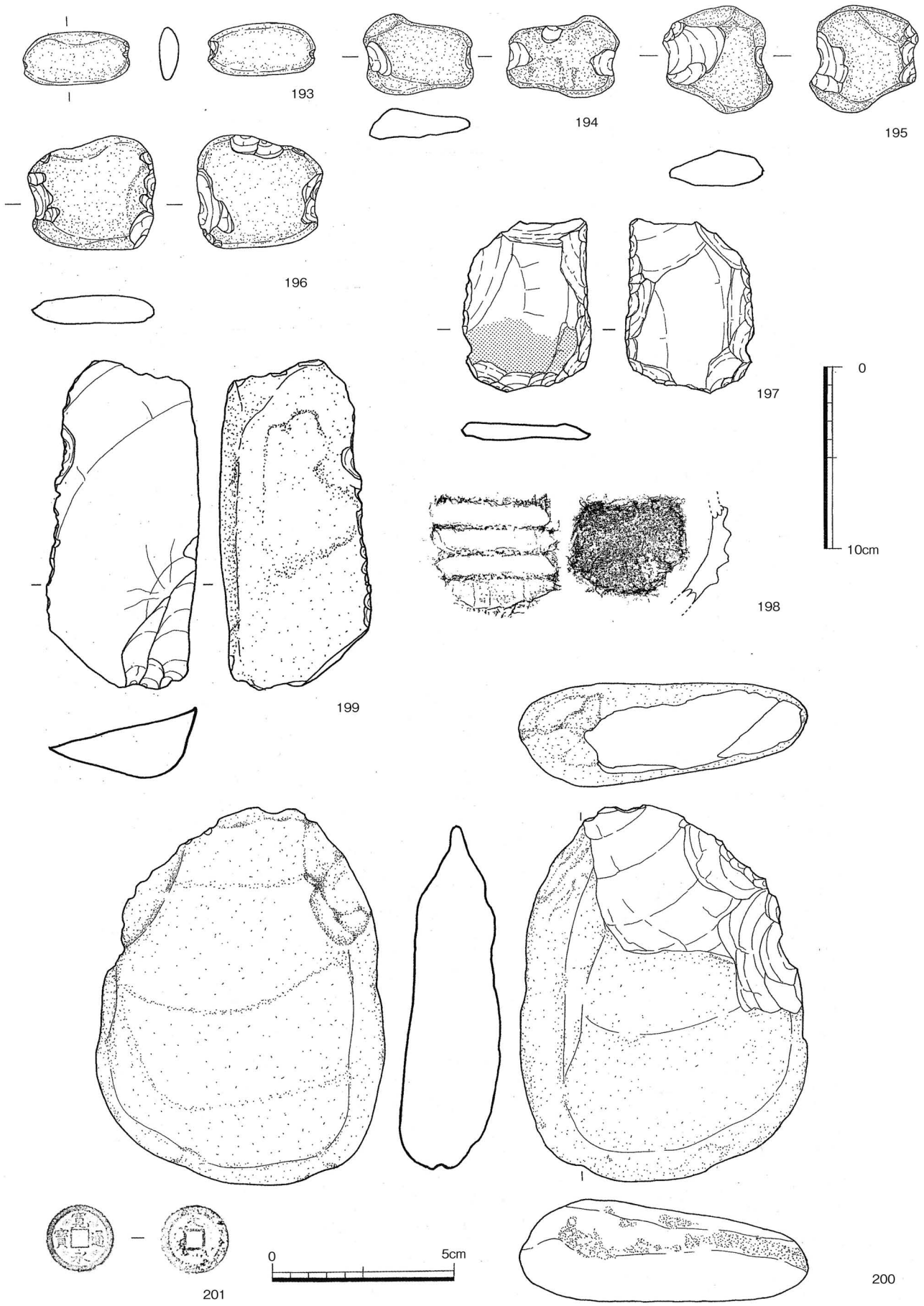
46. 1 号土坑及び 1 号溝実測図（1／20）



47. 道路遺構空中写真①



48. 道路遺構空中写真②



49. その他の遺物実測図（1／3・2／3）

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
1	13区	6	剥片尖頭器 頁岩			7.2	3.9	1.5	29.0
2	表採		スクレイパー 流紋岩	無斑晶 ホルンフェルス化 祖母山火山岩類		3.5	3.1	0.9	9.0
3	住居1		使用痕剥片 流紋岩			7.1	4.0	0.9	22.5
4	土坑1		石鏃 チャート			1.7	1.3	0.2	0.4
5	土拡1		環状石斧 砂岩			8.1	3.9	1.6	70.0
6	集石4		叩石 凝灰岩	阿蘇溶結凝灰岩 被熱		9.9	5.8	3.8	255.0
7	集石13		打製石斧 砂岩			9.7	5.9	2.0	172.5
8	集石1	撹乱	打製石器 千枚岩			6.6	5.5	0.6	34.8
9	集石10		深鉢 口縁部	楕円押型文 ナデ 灰褐色	ナデ 暗茶褐色			1mm程度の粒子含む	良好
10	集石10		深鉢 口縁部	楕円押型文 ナデ 灰褐色 風化	ナデ にぶい黄橙色 風化			1mm程度の粒子含む	良好
11	集石10		深鉢 胴部	楕円押型文 灰褐色 スス付着	指押さえナデ にぶい黄橙色			1mm程度の粒子含む	良好
12	集石10		深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	指押さえナデ 暗茶褐色			石英の粒子含む	良好
13	集石8		深鉢 胴部	楕円押型文 にぶい橙色 スス付着 風化	指押さえナデ にぶい黄橙色 スス付着			石英の粒子含む	良好
14	集石7		深鉢 胴部	楕円押型文 明赤褐色	指押さえ 明赤褐色			石英の粒子含む	良好
15	集石7		深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	ナデ指圧痕 黒赤褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良
16	集石13		深鉢 口縁部	撚糸文 赤褐色 全体にスス	撚糸文 ナデ 暗褐色 全体にスス		28.0	1mm程度の粒子含む	良好
17	土坑4		打製石斧 砂岩	欠損 節理面・自然面あり		8.5	5.2	1.6	64.4
18	土坑4		打製石斧 砂岩	欠損 節理面あり		10.7	6.8	2.3	187.3
19	土坑4		深鉢 口縁部	ナデ一部磨き 赤褐色 スス付着 沈線・穿孔あり	ナデ一部磨き 赤褐色 スス付着				良好
20	土坑4		浅鉢 胴部	ナデ一部磨き 黒茶褐色 全体にスス	ナデ にぶい黄橙色				良好
21	土坑7		打製石斧 砂岩	石鎌？ 欠損 自然面あり		9.5	4.4	2.3	105.7
22	6区		石鏃 チャート	先端部・脚部欠損		1.4	1.3	0.3	0.3
23	6区		石鏃 チャート	脚部欠損		1.5	1.0	0.4	0.5
24	14区1次	5	石鏃 チャート	先端部・脚部欠損		1.4	1.0	0.6	1.0
25	14区1次	5	石鏃 安山岩	無斑晶 祖母山火山岩類		1.9	1.85	0.7	2.0
26	住居2		石鏃 チャート	脚部欠損		1.9	1.7	0.5	
27	5区	3	石鏃 チャート			1.8	1.4	0.6	0.6
28	住居2		石鏃 チャート	脚部欠損		1.8	1.6	0.4	0.5
29	表採		石鏃 安山岩	無斑晶 祖母山火山岩類？		2.3	2.0	0.4	1.0
30	表採		石鏃 流紋岩	無斑晶 祖母山火山岩類		2.9	1.5	0.3	1.0
31	13区	5	石鏃 チャート			2.3	1.4	0.3	1.0
32	表採		石鏃 チャート	先端部欠損		3.1	1.3	0.2	1.2
33	14区2次		石鏃 ホルンフェルス	脚部欠損		3.2	2.1	0.5	2.0
34	14区1次		石鏃 チャート			3.4	2.0	3.8	3.0
35	土坑5		石鏃 チャート	脚部欠損		2.8	1.6	0.4	1.7
36	14区2次	5	スクレイパー チャート	節理面あり 切断技法		3.3	2.1	0.5	5.0
37	表採		石鏃？ ホルンフェルス	一部に磨痕あり 脚部欠損		3.8	2.1	0.8	5.6
38	表採	5	使用痕剥片 チャート	節理面あり ノジュールの一部？		3.3	3.2	1.0	7.9
39	13区	5	スクレイパー 頁岩	自然面あり 打面が残る		6.35	4.8	1.25	46.0
40	表採		環状石斧 ホルンフェルス	1/3欠損		8.6	4.5	2.3	99.0
41	表採		石槍 ホルンフェルス	自然面あり 端部に磨痕		11.5	3.3	1.1	50.0
42	表採		石斧 砂岩	自然面あり		13.6	5.7	1.7	149.0
43	表採		石斧 ホルンフェルス	原岩は頁岩 刃部周辺磨痕あり(局部磨製石斧)		11.4	5.4	1.6	109.0
44	16区	撹乱	打製石斧 砂岩	一部欠損		14.8	7.1	1.3	156.0
45	14区1次	5	打製石斧 砂岩	一部欠損 自然面あり		9.0	4.4	1.5	77.5
46	14区1次	撹乱	打製石斧 砂岩	一部欠損 自然面あり 粗粒 shパッチ入る 少し千枚質		11.7	5.0	1.5	102.5
47	14区1次	撹乱	打製石斧 砂岩	自然面あり		7.5	4.1	1.2	47.5
48	表採		磨製石斧 蛇紋岩	全体に磨痕有り 1/2欠損 刃部がやや鈍いV字型(再利用？)		9.6	6.8	3.1	317.0
49	表採		円形石器 緑色岩	自然面あり 緑色珪質頁岩		8.7	8.7	1.2	120.1
50	13区柱穴内		礫器 ホルンフェルス	原岩は頁岩 自然面あり 風化強		11.2	7.9	4.7	479.0
51	表採		礫器 頁岩	節理面・自然面あり		11.5	8.6	3.2	432.0
52	14区1次	撹乱	礫器 砂岩	節理面・自然面あり		13.9	9.6	4.1	540.0
53	13区	5	礫器 砂岩	自然面あり 側面に使用痕		10.2	3.5	14.2	398.0
54	16区	撹乱	礫器 砂岩	自然面あり 敲打痕あり		11.2	8.0	5.4	500.0
55	表採		石核 ホルンフェルス	自然面あり 打面調整は不明		13.0	10.7	5.5	850.0
56	13区	5	石核 ホルンフェルス	自然面あり 打面調整なし		10.1	9.2	5.8	565.0
57	表採		石核 ホルンフェルス	自然面あり 打面調整あり		12.8	9.7	8.9	1010.0
58	表採		石核 頁岩	自然面あり 打面作製後、打面を利用して剥離 内面はノジュール		8.8	12.3	9.2	1170.0
59	13区	5	磨石 砂岩	一部赤変 磨痕あり		5.7	4.4	3.7	127.5
60	表採		磨石 砂岩	表裏・両側面に磨痕あり 端部に弱い打痕あり		9.8	6.8	4.8	430.0
61	13区	5	磨石 砂岩	中-粗粒 表裏面に磨痕あり 側面ほぼ全周に打痕あり		8.8	4.0	4.0	363.0
62	13区	5	磨石 砂岩	半分欠損 表裏面に磨痕あり 側面ほぼ全周に打痕あり		10.1	6.1	3.6	300.0
63	13区	5	磨石 流紋岩	祖母山火山岩類 側面のほぼ全周に弱い打痕あり 敲打による凹加工あり		8.8	8.6	3.8	389.0
64	表採		磨石 祖母系	表裏面に磨痕あり 被熱による微細剥離あり		11.5	9.65	5.15	870.0
65	表採		石皿 砂岩	表面に細長い凹部あり		22.0	16.0	6.4	2150.0
66	16区	撹乱	敲打器 凝灰岩	阿蘇4火砕流堆積痕 表裏面及び全周に弱い打痕あり		13.3	12.0	5.3	790.0
67	14区2次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 口縁部ナデ 赤褐色	山形押型文 口唇部原体押引き 赤褐色			0.1～2mmの砂粒含む	良好
68	14区2次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 褐色	口唇部山形押型文 褐色			0.1～3mmの砂粒含む	良好
69	14区2次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 暗茶褐色 スス付着	口唇部山形押型文 ナデ にぶい黄橙色			1mm程度の粒子含。石英粒	良好
70	13区	5	深鉢 口縁部	山形押型文 淡灰黄色	口唇部山形押型文 淡黄色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
71	14区1次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 赤褐色	ナデ 口唇部山形押型文 赤褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好

50. 出土遺物観察表①

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
72	14区2次	一括	深鉢 口縁部	山形押型文 赤褐色	ナデ 口唇部山形押型文 にぶい黄橙			1～5mm程度の砂粒含む	良好
73	14区2次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 暗茶褐色 ススト付着	ナデ 口唇部山形押型文 橙色			1～5mm程度の砂粒含む	良好
74	14区2次	一括	深鉢 口縁部	山形押型文 暗茶褐色	山形押型文 橙色			1～3mm程度の砂粒を含む	良好
75	14区2次	5	深鉢 口縁部	山形押型文 にぶい黄橙色 ススト付着	山形押型文 にぶい黄橙色		≒16.0	1～2mm程度の砂粒含む	良好
76	14区2次	5	深鉢 頸部	山形押型文 にぶい黄橙色	ナデ 茶褐色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
77	14区2次	5	深鉢 頸部	山形押型文 にぶい黄橙色	ナデ にぶい黄橙色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
78	14区2次	5	深鉢 頸部	山形押型文 暗赤褐色	ナデ 暗赤褐色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
79	13区	5	深鉢 胴部	山形押型文 赤褐色	ナデ にぶい赤黄土色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
80	13区	5	深鉢 胴部	山形押型文 赤褐色	ナデ にぶい赤黄土色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
81	17区	一括	深鉢 胴部	山形押型文 橙色	指押さえ ナデ 黄橙色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
82	14区1次	5	深鉢 胴部	山形押型文 赤褐色	山形押型文 黄褐色 一部ススト			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
83	14区1次	5	深鉢 胴部	山形押型文 赤褐色	指押さえ ナデ 黄橙色			赤・白石英含む	良好
84	13区	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 にぶい浅黄色	ナデ 口唇部楕円押型文 にぶい灰黄色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
85	13区	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 こげ茶色	口唇部楕円押型文 ナデ こげ茶～灰黄土色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
86	14区2次	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 にぶい黄橙色	指押さえ ナデ にぶい浅黄色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
87	14区2次	5	深鉢 口縁～胴部	楕円押型文 赤褐色 ススト付着	口唇部楕円押型文 指押さえ ナデ ススト付着 赤褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
88	13区	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 暗茶褐色	口唇部山形押型文 ナデ にぶい褐色		≒22	1～2mm程度の砂粒含む	良好
89	13区	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 赤褐色	口唇部原体押引き 赤褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
90	14区2次	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 赤褐色	部山形押型文 ナデ 赤褐色		≒16	0.1～3mm程の砂粒含む	良好
91	14区1次	5	深鉢 口縁部	楕円押型文 赤褐色	口唇部原体押引き ナデ 赤褐色			0.1～2mm程度の細粒子含む.	良好
92	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 暗茶褐色	指押さえ ナデ にぶい黄橙			1～4mm程度の砂粒含む.	良好
93	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.1～1mm程の砂粒含む	良好
94	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
95	13区	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色 ススト付着	ナデ 黄土色一部赤褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
96	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 黒褐色	ナデ 赤褐色 ススト付着			0.1～1mm程の砂粒含む	良好
97	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.1～0.2mm程の砂粒含む	良好
98	13区	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色一部赤黄土色	ナデ 灰褐色～黄土色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
99	14区1次	5	深鉢 胴部	楕円押型文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.5～1mm程の砂粒含む	良好
100	14区2次	5	深鉢 口縁部	撚糸文 茶色	ナデ 口唇部撚糸文 黄土～こげ茶色			1～5mm程の砂粒含む	良好
101	14区2次	5	深鉢 口縁部	撚糸文 黒茶褐色 ススト付着	ナデ 口唇部撚糸文 赤褐色			1～5mm程の砂粒含む	良好
102	13区	5	深鉢 口縁部	撚糸文 暗茶褐色	ナデ 赤褐色			0.1～7mm程の砂粒含む	良好
103	13区	5	深鉢 口縁部	撚糸文 赤褐色	ナデ 口唇部撚糸文 赤褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
104	14区1次	5	深鉢 口縁部	撚糸文 黒灰色	ナデ 口唇部撚糸文 黒灰色			0.1～0.4mmの砂粒含む	良好
105	14区2次	一括	深鉢 胴部	撚糸文 橙色	ナデ にぶい黄橙色 ススト付着			1～5mm程の砂粒含む	良好
106	14区2次	一括	深鉢 胴部	撚糸文 にぶい黄橙色 ススト付着	ナデ 指押さえ にぶい黄橙色			1～5mm程の砂粒含む	良好
107	14区1次	5	深鉢 口縁～胴部	撚糸文 暗灰黄色 ススト付着	ナデ 口唇部撚糸文 暗灰黄色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
108	14区2次	5	深鉢 口縁～胴部	撚糸文 指押さえ 黄褐色	ナデ 口唇部原体押引き 暗黄褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
109	14区2次	5	深鉢 口縁部	撚糸文 暗茶褐色 ススト付着	ナデ にぶい黄橙色		22.0	0.1～3mm程の砂粒含む	良好
110	13区	5	深鉢 胴部	撚糸文 赤褐色	ナデ 赤褐色～黄土色			0.1～4mm程の砂粒含む	やや良
111	13区	5	深鉢 胴部	撚糸文 ナデ 黄橙色	ナデ 赤褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
112	13区	5	深鉢 胴部	撚糸文 赤褐色	ナデ 赤褐色～黄土色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
113	13区	5	深鉢 胴部	撚糸文 赤褐色	原体調整 ナデ こげ茶			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
114	14区1次	5	深鉢 胴部	撚糸文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
115	13区	5	深鉢 胴部	格子目押型文 灰黄土色	ナデ 黄土色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
116	13区	5	深鉢 胴部	縄文 灰黄土色 ススト付着	ナデ 黄土～灰黄土色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
117	14区1次	5	深鉢 口縁部	縄文 赤褐色 上部こげ茶 風化	ナデ 黄土色 口唇部縄文			1～3mm程の砂粒含む	やや良
118	14区1次	5	深鉢 口縁部	貝殻条痕文 黄褐色	ナデ こげ茶色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
119	14区2次	一括	深鉢 頸部	貝殻条痕文 暗茶褐色	ナデ 赤褐色～黒色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
120	13区	5	深鉢 胴部	凹線文 赤褐色	ナデ 黒色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
121	11区	一括	深鉢 口縁部	貝殻刺突文 暗赤褐色 口縁部内湾	ナデ 暗赤褐色			1mm程の粒子多し	良好
122	17区	5	深鉢 胴部	貝殻刺突文 淡赤褐色	ナデ にぶい黄橙			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
123	6区	5	深鉢 口縁部	貝殻条痕文 黄橙色 風化著しい	ナデ こげ茶色 風化著しい			0.1～5mm程の砂粒含む	やや良
124	13区	5	深鉢 口縁部	無文 黒赤褐色	ナデ 黒色～赤褐色			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
125	13区	5	深鉢 胴部	無文 灰黄土色	ナデ 黄土～黒灰 風化著しい			0.1～3mm程の砂粒含む	やや良
126	14区2次	5	深鉢 口縁部	無文 赤褐色 口縁部内湾	指押さえナデ 黄橙色		14.0	0.1～3mm程の砂粒含む	良好
127	23区	2	深鉢 口縁部	篦描沈線文 連点文 黄橙色	ナデ にぶい黄橙			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
128	14区1次	5	深鉢 胴部	刺突文 赤褐色	ナデ 赤褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
129	14区1次	5	深鉢 胴部	刺突文 黄褐色	ナデ 黄褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
130	14区1次	5	深鉢 胴部	貝殻押引き文 黄褐色 ススト付着	ナデ 指押さえ 黄褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
131	13区	5	深鉢 胴部	撚糸文？＋ナデ 赤褐色	ナデ 黄褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
132	13区	5	深鉢 胴部～底部	ナデ 黄土色	ナデ 黄～黒灰色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
133	13区	5	深鉢 胴部～底部	沈線区画 撚糸文 ナデ 淡黄橙色	ナデ 赤黄土～黄土～黒灰色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好
134	14区1次	5	深鉢 胴部～底部	ナデ にぶい赤褐色 ススト付着	ナデ にぶい赤褐色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
135	14区2次	5	深鉢 胴部～底部	ナデ 黄橙色	ナデ にぶい黄橙色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
136	23区	2	深鉢 胴部	沈線区画 撚糸文 ナデ にぶい黄橙色	ナデ にぶい黄橙色			1mm程の砂粒含む	良好
137	23区	2	深鉢 胴部	沈線区画 撚糸文 ナデ にぶい黄橙色	ナデ にぶい黄橙色			1mm程の砂粒含む	良好
138	23区	2	深鉢 胴部	沈線区画 撚糸文 ナデ にぶい黄橙色	ナデ にぶい黄橙色			1mm程の砂粒含む	良好
139	13区	一括	深鉢 口縁部	横方向の沈線文 灰赤褐色	縦方向の沈線文 茶褐色			0.1～1mm程の砂粒含む	やや良
140	16区	撹乱	深鉢 口縁部	貼付け突帯文 赤褐色～こげ茶色	ナデ 赤褐色 指圧痕あり			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
141	6区	一括	深鉢 口縁部	貼付け突帯文 灰黄色	ナデ 指押さえ 灰黄色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
142	16区	撹乱	浅鉢 口縁～頸部	沈線文 ミガキ にぶい赤褐色	ミガキ にぶい赤褐色			1mm程の砂粒含む	良好
143	16区	撹乱	浅鉢 口縁～頸部	沈線文 ミガキ 茶褐色 ススト付着	ミガキ 赤茶褐色			0.1～3mm程の砂粒含む	良好

51. 出土遺物観察表②

番号	出土地点	層	器種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	最長 cm (器高)	最幅 cm (口・底径)	最厚 cm (胎土)	重量 g (焼成)
144	16区	撹乱	深鉢 口縁～頸部	沈線文 ミガキ 指押さえ 暗灰黄橙色 スス付着	ミガキ 黒茶色			0.1～2mm程の砂粒含む	
145	14区1次	撹乱	深鉢 口縁～頸部	沈線 ミガキ 黒灰色	ミガキ 黒灰 上部うすい黄橙色			0.1～4mm程の砂粒含む	良好
146	16区	撹乱	浅鉢 口縁～頸部	沈線 ミガキ 黒灰色	ミガキ 灰黄橙色			0.1mm程度の砂粒含む	良好
147	14区1次	撹乱	椀 口縁～頸部	沈線 ミガキ 暗茶褐色	ナデ 一部ミガキ にぶい黄橙色		≒22	石英の粒子含む	良好
148	16区	撹乱	浅鉢 底部	ナデ 淡橙色 風化	ナデ にぶい黄橙色		5.3	0.1～2mm程の砂粒含む	やや良
149	14区1次	撹乱	浅鉢 底部	ミガキ 淡橙色	丁寧なナデ にぶい黄橙色		6.2	0.1～2mm程の砂粒含む	良好
150	住居1		高杯 口縁部	ナデ 淡黄色 スス付着	ナデ 淡灰黄色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
151	住居1		高杯 胴部	ナデ 淡黄橙色	ミガキ 黒色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
152	住居2		甕 口縁部	ナデ にぶい黄橙 スス付着	ナデ 黄橙色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
153	住居2		高杯 口縁部	ナデ 黄橙色	ナデ 黄橙色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
154	住居2		甕 頸～胴部	指押さえナデ 橙色	指押さえナデ にぶい黄橙			1mm程度の砂粒含む	良好
155	住居2		鉢 口縁部	ナデ 指押さえ にぶい黄橙色 スス付着	ハケ目 指押さえナデ 黄橙色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
156	住居2		甕 口縁～胴部	荒いタタキ 指圧痕 赤褐色 上部スス付着	ハケ目 指押さえ にぶい橙色			0.1～1cmの砂粒・小石含む	良好
157	住居2		壺 胴部～底部	指押さえナデ 橙色	指押さえナデ 淡橙色		≒5.2	0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
158	住居2		甕 底部	ミガキ ナデ 赤褐色 スス付着	ナデ 指押さえ 黒色		4.5	2～5mm程度の砂粒含む	良好
159	住居3		打製石斧 砂岩	一部欠損		10.1	5.8	1.1	80.7
160	住居3		砥石 砂岩	細粒白雲母 熱変 一部打痕あり		13.2	6.2	2.5	230
161	住居3		石錘 砂質頁岩	一部欠損		7.6	5.6	2.3	164.1
162	住居4		二重口縁壺 口縁～頸部	櫛描波状文 ナデ 指押さえ 橙色	ナデ 指押さえ にぶい黄橙色		≒20	0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
163	住居4		椀 口縁部	ナデ ミガキ 灰褐色 穿孔あり	ナデ ミガキ 灰褐色		≒20	0.1程度の砂粒含む	良好
164	住居4		高杯 胴部	指押さえ にぶい黄橙色 スス付着	横ナデ にぶい黄橙色			0.5～3mm程度の砂粒含む	良好
165	住居4		甕 口縁～胴部	ナデ タタキ にぶい黄橙 スス付着	ナデ 橙色		14.6	0.5～3mm程度の砂粒を含む	良好
166	住居4		甕 胴部	ナデ 黄橙色	ナデ 黄橙色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
167	住居4		壺 底部	ハケ 指押さえナデ にぶい黄橙色	指押さえナデ 黄橙色 風化			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
168	住居4		甕 胴部	タタキ 指押さえナデ 淡橙色	指押さえナデ 橙色 風化			1mm程度の砂粒含む	良好
169	住居4		鉢 底部	指押さえナデ 黄橙色 スス付着	指押さえナデ 黒色			0.1～4mm程度の砂粒含む	良好
170	住居4		甕 底部	ナデ 指押さえ 黄橙色	ナデ 指押さえ 茶灰白			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
171	住居4		壺 底部	タタキ 指押さえ 赤褐色	ナデ 指押さえ 黒灰～淡灰色		2.8	2～5mm程度のの砂粒含む	良好
172	住居4		甕 底部	タタキ 指押さえ 淡橙色	ナデ 指押さえ 橙色			0.1～5mm程の砂粒含む	
173	住居4		砥石 泥岩	一部欠損 底面と側面に顕著な磨痕あり		7.8	6.5	2.8	145.8
174	住居4		石包丁 千枚岩	方形 両端に抉り		3.9	9.1	0.6	32
175	住居4		叩石 礫岩	端部に剥離痕		8.7	5.5	5.5	451
176	住居4		打製石斧 砂岩	やや湾曲する 刃部一部欠損		15.4	5.0	1.6	750.0
177	住居4		砥石 砂岩	側面利用なし 端部に打痕あり		15.6	3.8	4.2	430.0
178	住居4		石錘 砂岩	打欠石錘		5.0	5.5	1.6	719.0
179	住居4		砥石 砂岩	かなり使い込まれている		8.9	5.8	0.7	92.0
180	住居4		砥石 砂岩	一面のみの使用		10.0	5.5	1.2	110.0
181	住居4		砥石 砂岩	一面のみの使用		8.9	9.3	1.1	130.0
182	住居4		砥石？ 頁岩	中央部を集中的に利用		27.6	8.5	2.4	752.0
183	住居5		甕 口縁～胴部	ハケ目 ナデ 赤褐色 全体的にスス付着	ハケ目 ナデ 赤褐色		25.2	1～4mm程度の砂粒含む	不良
184	住居5		甕 口縁部	ナデ 淡黄橙色 スス付着	ナデ にぶい黄橙色		13.0	1～2mm程度の砂粒含む	良好
185	住居5		甕 頸部	ナデ 橙黄色 スス付着	ナデ 橙色			1～2mm程度砂粒含む	良好
186	住居5		甕 口縁部	ナデ 浅黄橙色 スス付着	ナデ 浅黄橙色			1～5mm程度の砂粒含む	良好
187	住居5		甕 胴部	ハケ目 指押さえナデ 橙色 スス付着	ナデ 指押さえ 橙色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
188	住居5		甕 口縁部	ハケ目 指押さえナデ 黄橙色	ナデ 指押さえ 赤褐色			1～2mm程度の砂粒含む	良好
189	住居6		浅鉢 頸部	ミガキ 暗茶褐色	ナデ 指押さえ 暗茶褐色			石英の粒子含む	良好
190	住居6		深鉢 頸～胴部	貼付け突帯文 赤褐色 スス付着	ナデ 暗茶褐色 指圧痕あり			0.1～5mm程の砂粒含む	良好
191	土坑2		甕 底部	ナデ 指押さえ 橙色 スス付着	ナデ 指押さえ にぶい黄橙色		≒4.0		良好
192	土坑2		甕 胴部	ナデ 指押さえ にぶい橙色 スス付着	指押さえ 黄橙色			0.1～2mm程の砂粒含む	
193	14区1次	3	石錘 砂岩	切目石錘		5.6	2.9	1.0	27.5
194	13区	3	石錘 流紋岩	祖母山火山岩類 ホルンフェルス化 打欠石錘		6.1	6.15	2.0	95.0
195	16区	一括	石錘 ホルンフェルス	原岩祖母火山岩類の溶結擬灰岩？ 打欠石錘		6.2	6.9	1.5	110.0
196	16区	一括	石錘 砂岩	中～細粒 打欠石錘		4.45	6.25	1.6	62.5
197	23区	一括	打製石器 頁岩	一部欠損		9.4	7.0	0.9	80.0
198	6区	一括	甕 胴部	突帯文 ナデ 淡黄橙色	ナデ 指押さえ 黄橙～灰黄色			0.1～2mm程の砂粒含む	良好
199	14区1次	一括	使用痕剥片 ホルンフェルス	L字型に鋸歯状の加工を施す		18.0	8.4	2.9	482.0
200	14区1次	一括	石核 砂岩	極荒粒、Shパッチ入り 千枚質		15.6	20.6	5.6	約3kg
201	24区	一括	古銭	寛永通宝			2.4	0.15	2.8

52. 出土遺物観察表③

Ⅲ．おわりに

本年度までの県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財調査で検出された遺構は、縄文時代の早期の集石遺構13基・土坑2基、縄文時代晩期土坑2基、弥生・古墳時代の竪穴住居跡6軒・土坑2基・焼土集中部2ヶ所、時期不明の土坑1基、溝1基である。

また、近世（中世？）からごく最近まで利用されていた諸塚往還の一部を確認した。

遺物では、旧石器時代の剥片尖頭器・使用痕剥片・スクレイパー、縄文時代早期の石器・土器、弥生・古墳時代の石器・土器、寛永通宝などが出土している。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、包含層からの出土遺物も少ない。工事の多くが包含層までに達しないため、大部分は保存される形となった。遺物のほとんどは、住居跡内及び埋土中から出土している。近接地域では、AT 層が確認され、さらにその下位の層から遺物の出土例が増えている。また、対岸の蔵田遺跡や矢野原遺跡などの堆積状況から、周辺には良好な包蔵地が予想され、今後の開発行為には十分注意する必要がある。

縄文時代では、アカホヤ層下位より集石遺構や土坑が検出され、土器や石器が出土した。一部耕作等による削平が縄文時代早期面まで及んでおり、打製石斧、石核などが焼けた礫と一緒に畑の横に無造作に寄せられている。また、埋土中・撹乱部から重要な遺物の出土例も少なくない。周辺部では、連結土坑などの検出例もあり、埋土中あるいは寄せられた焼け石の量から考えると、周辺には、削平を免れた遺構がまだ多く残っていると予想される。

当地域における弥生・古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると 50 例を超える。その中には、急傾斜地や尾根の端部などから検出された竪穴住居跡の調査例もあり、山間部における集落のあり方を考える上で興味深い。調査区の制限から、今回検出した竪穴住居跡の多くは一部分の調査にとどまった。今後、周辺の開発事業と調整しながら継続して調査を行える体制を構築したい。

諸塚往還の確認は、改めて「道」の重要性に対する認識を新たにすることができた。上崎地区は、台風に伴う増水により道路が寸断され、更には TR 高千穂鉄道の廃止により、買い物や通院等の住民生活や地区の特産品であるみかん・桃の出荷に大きな制約があった。農地保全整備事業は地域の社会経済基盤の強化に寄与し、上崎橋の架橋、更には予定されている延岡～北方道路の開通で更なる利便性が高まると期待されている。こうした中での歴史の中で埋もれた「諸塚往還」の再発見は、新たな地域づくりの『資源』を提供することになった。

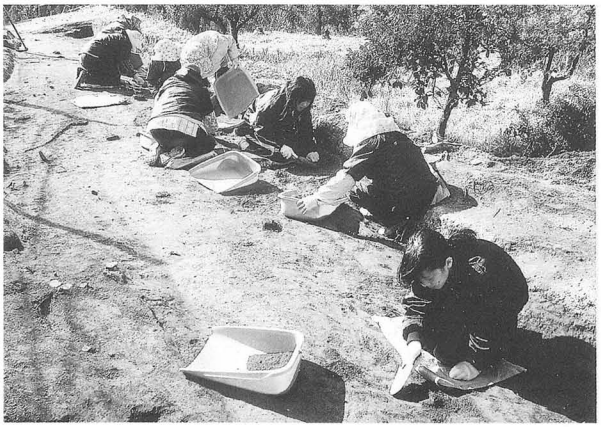
これまで、上崎地区内において農地保全整備事業以外でも、様々な開発行為に先立って埋蔵文化財調査を行ってきた。文化財保護法をご理解いただき、開発事業者、工事関係者、行政当局、さらには地元の皆さんをはじめとする関係各位の協力に支えられて調査を行い、多くの成果を上げることができた。また、市民への雇用の場を提供することもでき、文化財保護と開発事業との調整を通じて、発掘調査や埋蔵文化財への理解も以前に比べて深まりつつある。

本書を通して、これからも埋蔵文化財事業に多くの方々のご支援とご協力をいただき、地域の歴史や文化に関する理解を深めるとともに、現代社会において求められている豊かな人間性の涵養を図る一端ともなれば幸いです。

また、事業年度等の制限から、多種多様な遺構・遺物について深く考察を行うことができなかった。今後、機会を設けてその責を果たしたいと考えている。

53. 上崎地区航空写真（昭和 23 年米軍撮影）

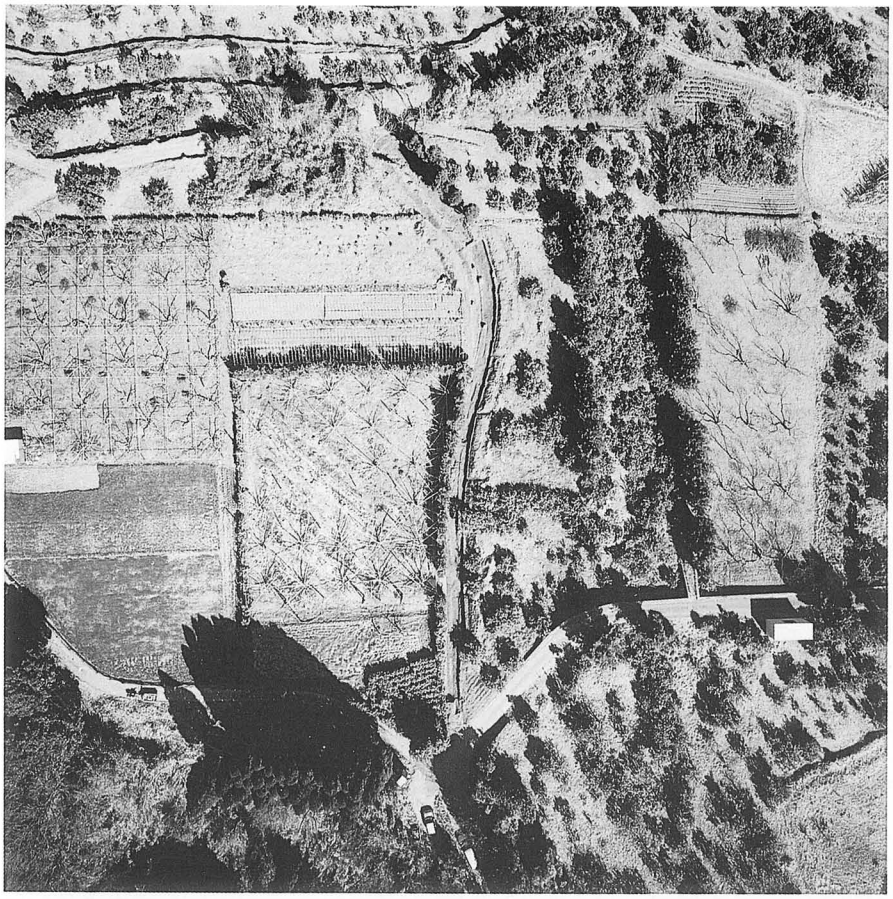
54. 事前健康指導の様子



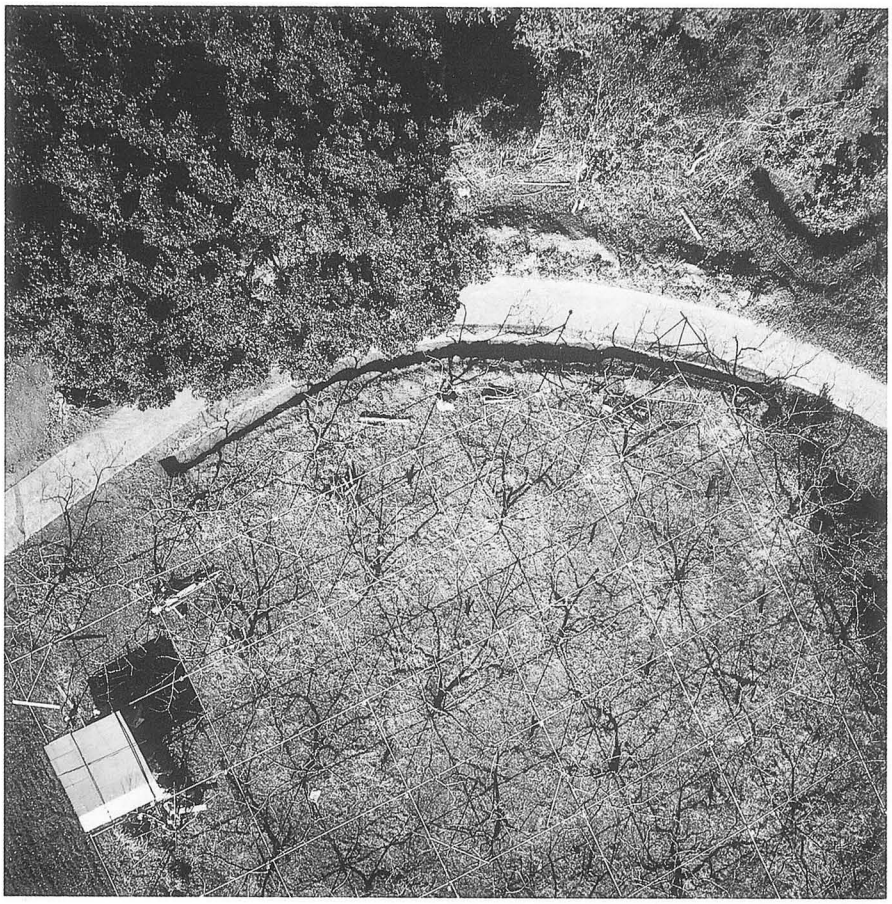
55. 中学生体験学習

56.　5 区空中写真

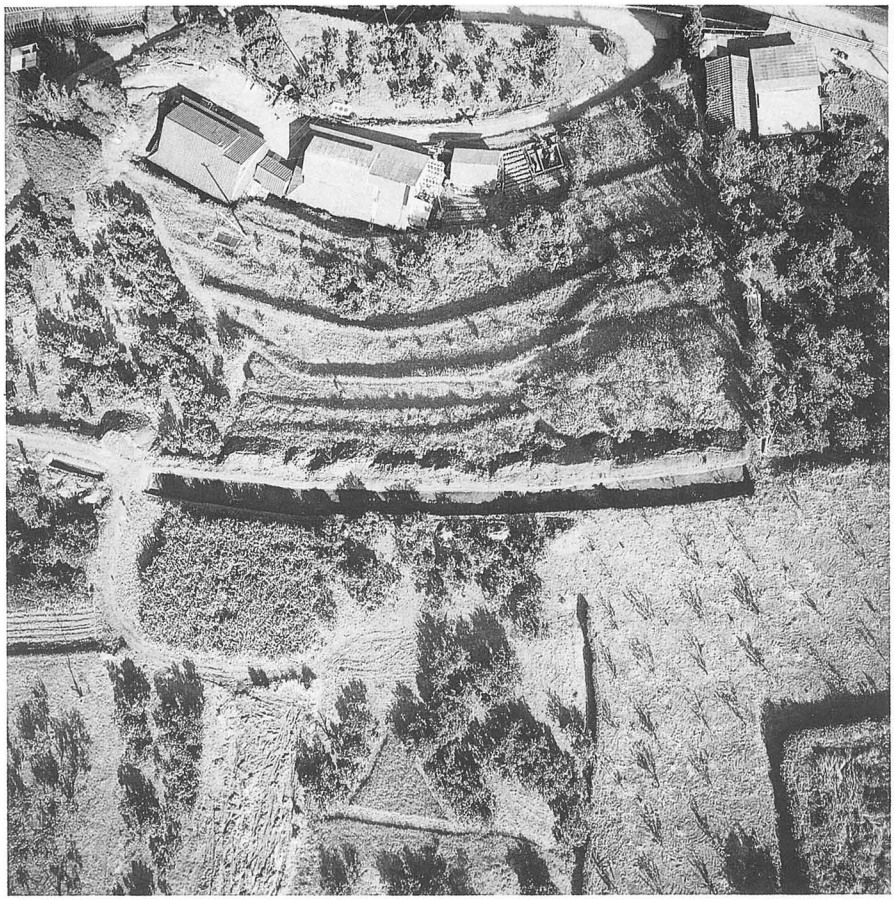
57.　11 区空中写真



58.　13 区空中写真

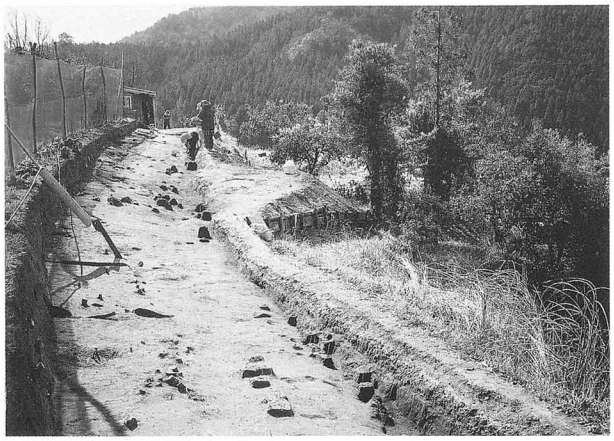


59.　14 区空中写真



左）60. 16 区空中写真

下）61. 上崎地区空中写真
（北より）



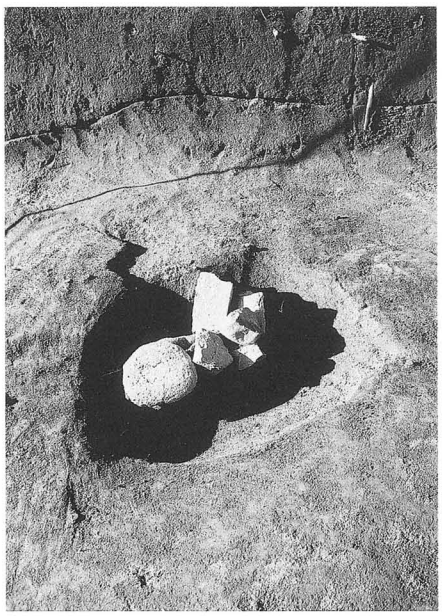
62. 遺物出土状況（5 区・西より）

63. 遺物出土状況（11 区・北東より）

64. 遺物出土状況（14 区 1 次調査・南より）

65. 集石遺構検出状況（14 区 1 次調査・北より）

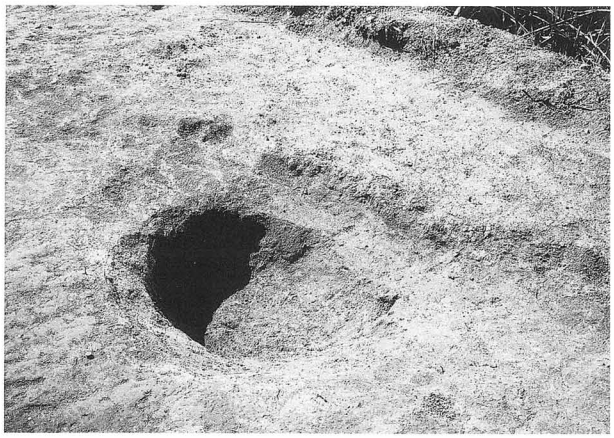
66. 集石遺構検出状況（14 区 2 次調査・西より）



67. 13 号集石遺構検出状況（16 区・西より）

68. 遺構検出状況（13 区・東より）

69. 遺構検出状況（23 区・東より）



70. 1 号土坑検出状況（5 区・南より）

71. 5 号土坑検出状況（14 区・北西より）

72. 7 号土坑検出状況（23 区・南東より）

73. 2 号焼土集中部検出状況（11 区・東より）

74. 2 号竪穴住居跡状況（11 区・東より）

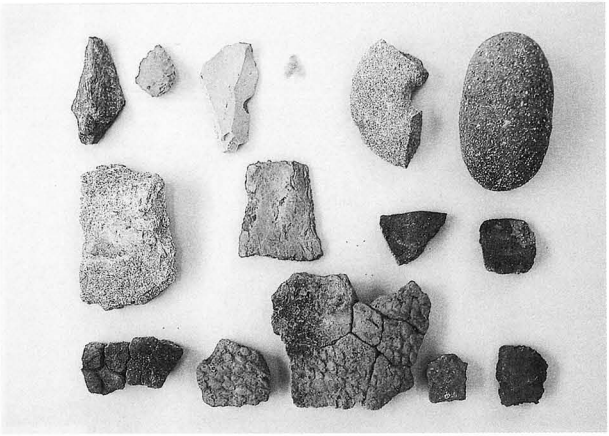
75. 5 号竪穴住居跡状況（17 区・東より）

76. 4 号竪穴住居跡状況（14 区・東より）

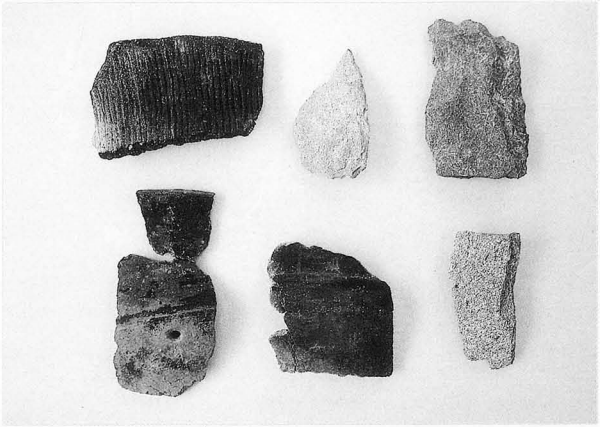
77. 作業状況（14 区 1 次調査・北東より）

78. 諸塚往還検出状況（13 区・北より）

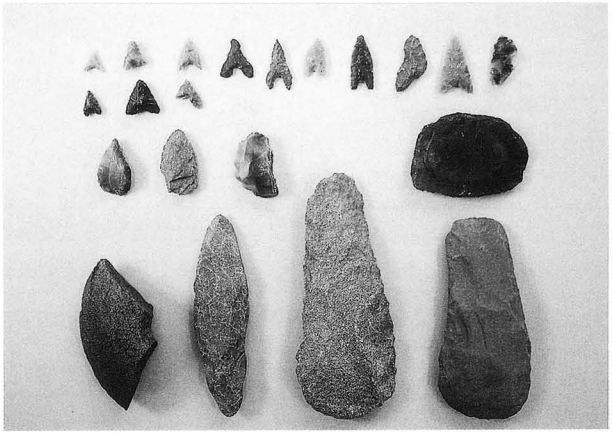
79. 五ヶ瀬川河原 礫の堆積状況（南西より）



80. 出土遺物（1 ～ 15）

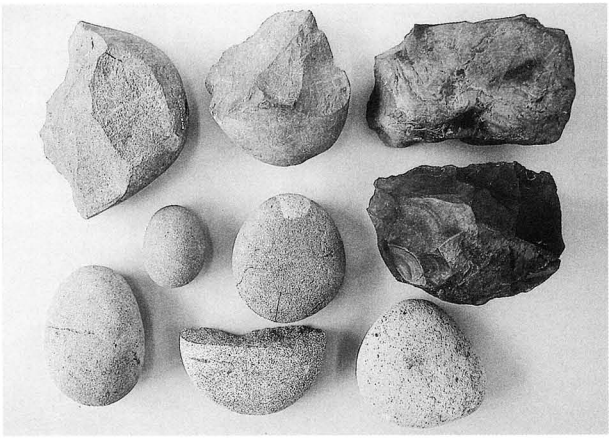


81. 出土遺物（16 ～ 21）

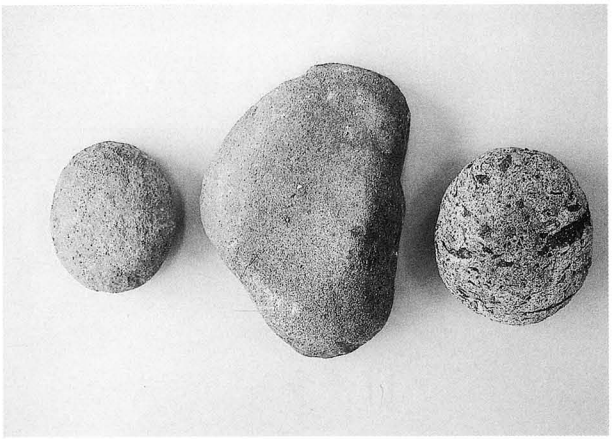


82. 出土遺物（22 ～ 43）

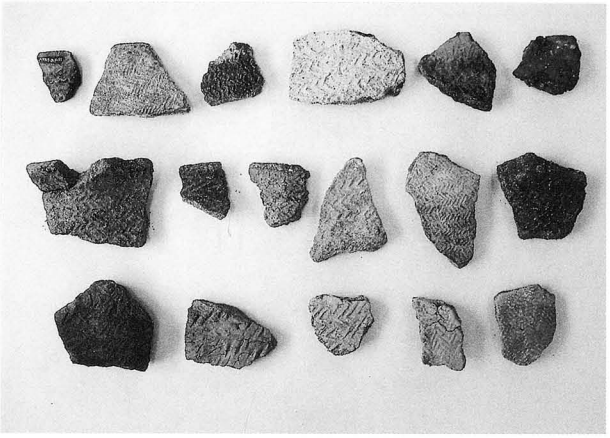
83. 出土遺物（44 ～ 54）



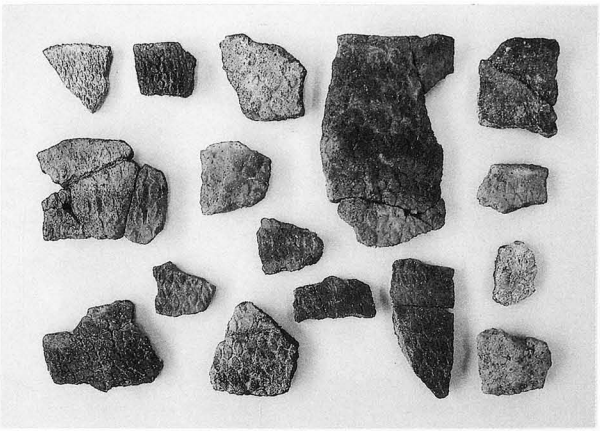
84. 出土遺物（55 ～ 63）



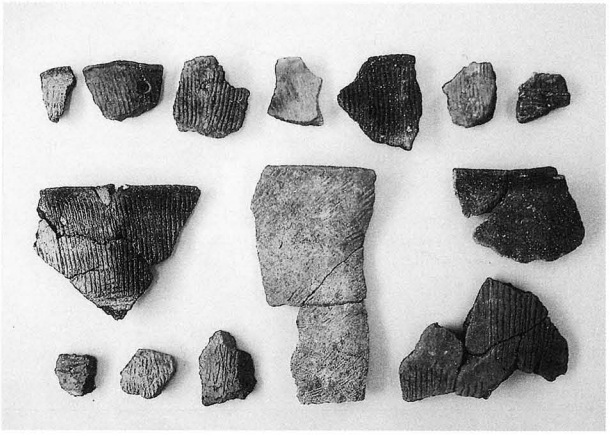
85. 出土遺物（64 ～ 66）



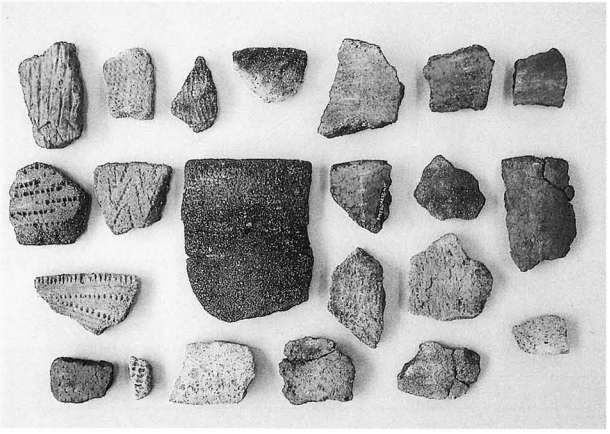
86. 出土遺物（67 ～ 83）



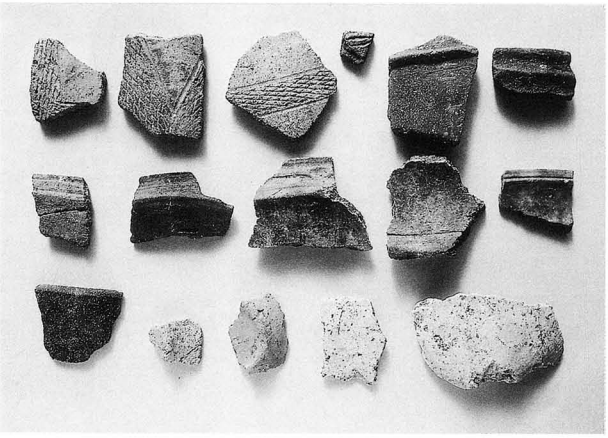
87. 出土遺物（84 ～ 99）



88. 出土遺物（100 ～ 113）

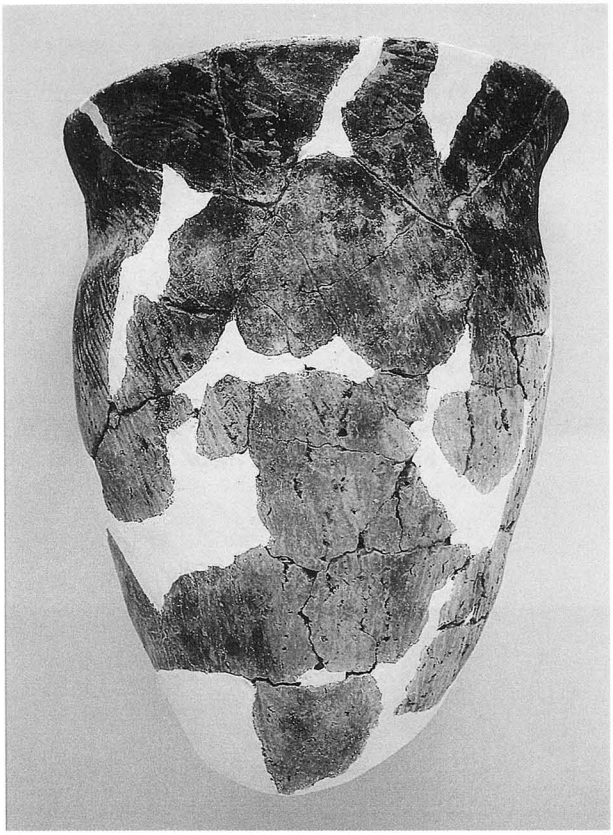


89. 出土遺物（114 ～ 135）



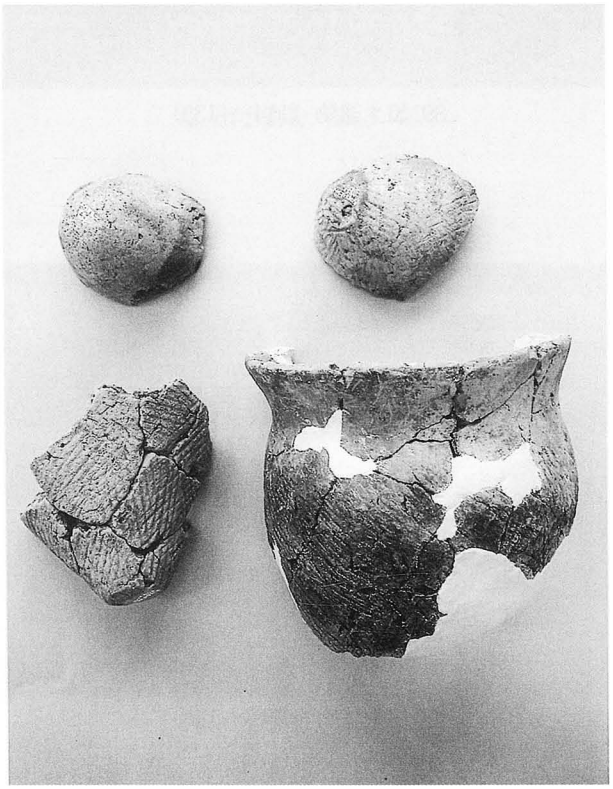
90. 出土遺物（136 ～ 151）

91. 出土遺物（152 ～ 158）

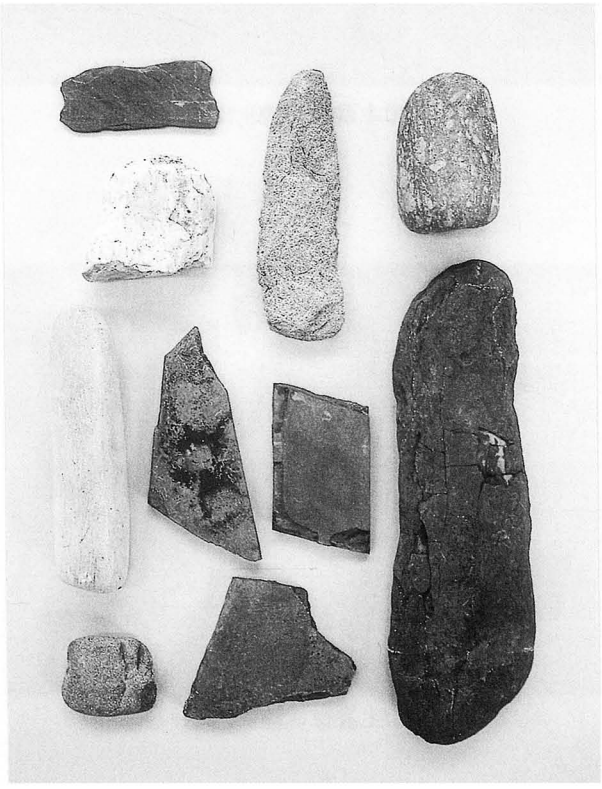


92. 出土遺物（156）

93. 出土遺物（159 ～ 169）

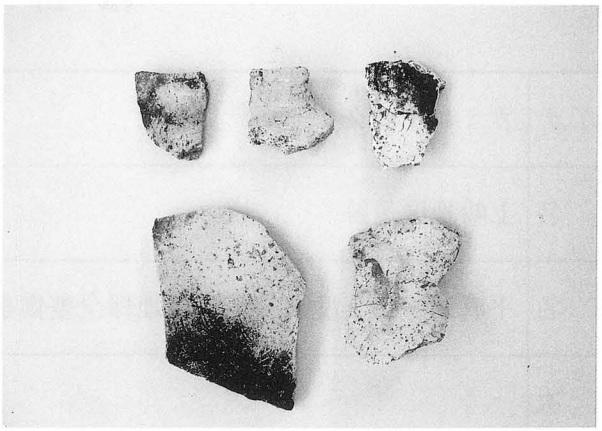


94. 出土遺物（165・170 ～ 172）

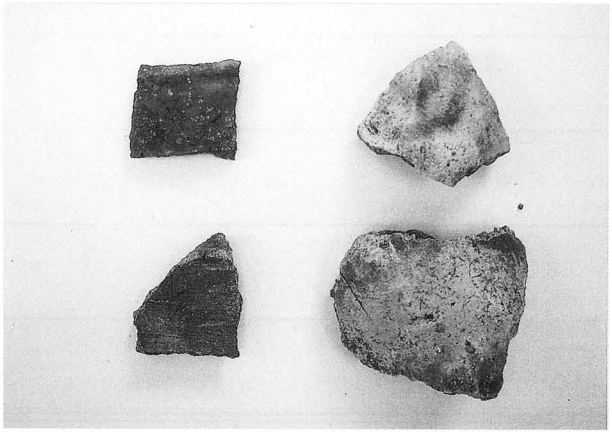


95. 出土遺物（173 ～ 182）

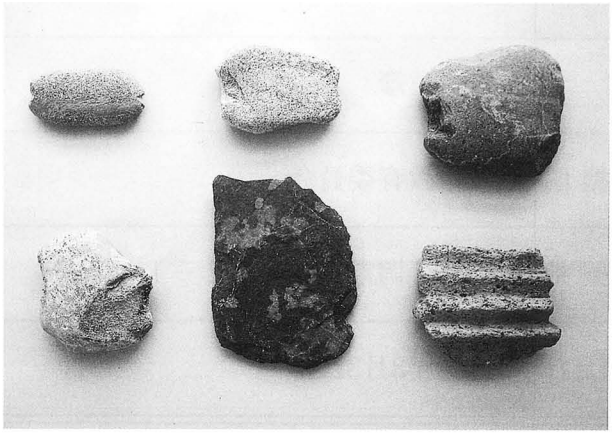
96. 出土遺物（183）



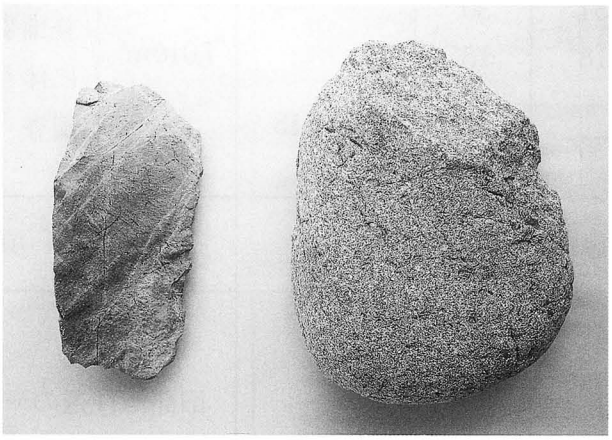
97. 出土遺物（184 ～ 188）



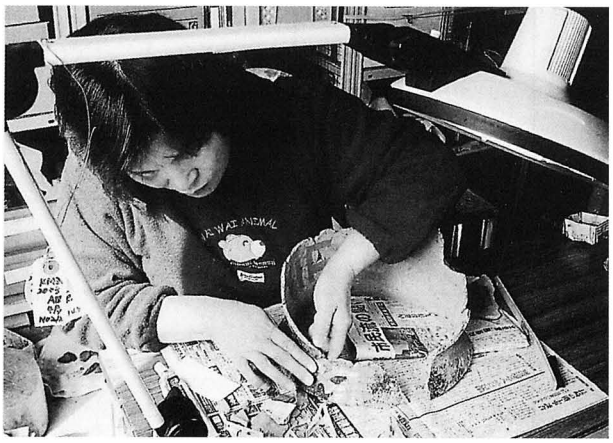
98. 出土遺物（189 ～ 192）



99. 出土遺物（193 ～ 198）



100. 出土遺物（199 ～ 200）



101. 土器復元状況

報告書抄録

フリガナ	カミザキチクイセキ
書　　名	上崎地区遺跡
副書名	平成12～19年度上崎地区農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	延岡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第36集
著者名	小野　信彦
編集機関	延岡市教育委員会
所在地	宮崎県延岡市東本小路２－１
発行年月日	平成20年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
カミザキ 上崎地区遺跡	延岡市（ノベオカシ） 北方町辰（キタカタマチタツ）	452033	33	32° 34′ 18″ ～ 38″	131° 30′ 15″ ～ 41″	2000.12.26 ～ 2008.2.15	7,010m²	農地保全整備事業に伴う発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
包蔵地等	旧石器時代 縄文時代 弥生終末期～ 古墳時代初頭期 中・近世	集石遺構13基 竪穴住居跡6軒 土坑7基 焼土集中部 溝	土器・石器等	旧諸塚往還の一部を検出

上崎地区遺跡

延岡市文化財調査報告書
第36集
平成20年3月31日

発行：延岡市教育委員会
宮崎県延岡市東本小路2－1

印刷：明巧堂印刷株式会社
宮崎県延岡市古川町82－10